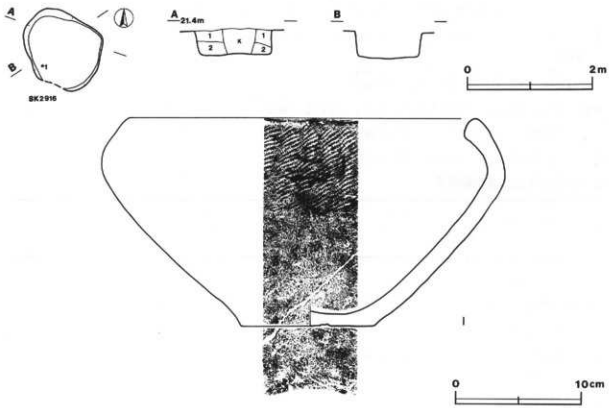


第476図　第2912号土坑・出土遺物実測図

第2914号土坑（第477図）

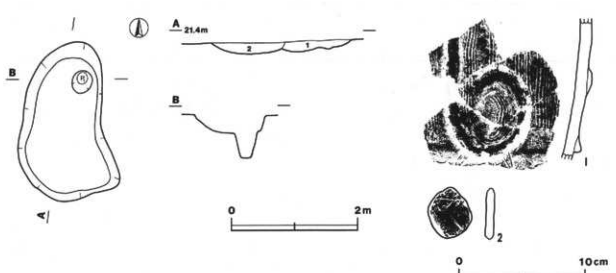
位置　調査区の東部，C14e4区。

規模と平面形　長径2.54m，短径1.25mの不定形で，深さは28cmである。

長径方向　N－8°－E

壁　緩やかに立ち上がる。

底　皿状である。



第477図　第2914号土坑・出土遺物実測図

ピット　1か所。P1は北側に位置し，径35cmの円形で，深さは40cmである。

覆土　2層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片34点，土器片円盤1点が出土している。第477図2の土器片円盤は覆土から出土している。1は深鉢の胴部片で，隆帯により蕨手状文を施し，条線文が充填されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

第2914号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
第477図2	土器片円盤	4.1	3.5	0.7	(13.0)	95	無文。	DP36　覆土

第2918号土坑（第478図）

位置　調査区の東部，C14c9区。

規模と平面形　径1.90mの円形で，深さは54cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　5層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

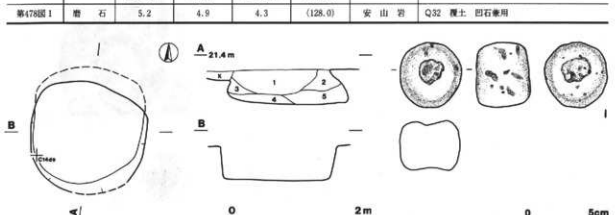
土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　　ローム粒子微量，炭化粒子微量
4　褐　色　　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
5　褐　色　　ローム大ブロック微量

遺物　縄文土器片14点，磨石1点が出土している。第478図1の磨石は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，土坑の形態と出土遺物から縄文時代と考えられる。

第2918号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第478図1	磨石	5.2	4.9	4.3	(128.0)	安山岩	Q32　覆土　凹石兼用



第478図　第2918号土坑・出土遺物実測図

第2920号土坑（第479図）

位置　調査区の東部，C14ｉ1区。

重複関係　第2919号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径1.22m，短径〔1.03〕mの楕円形と推定され，深さは46cmである。

長軸方向　N－15°－W

壁　外傾して立ち上がる。

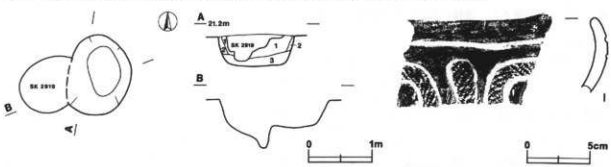
底　皿状である。

覆土　3層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子少量
2　暗褐色　　炭化粒子微量
3　褐　色　　ローム粒子少量

遺物　縄文土器片17点が出土している。第479図1は深鉢の口縁部片である。口縁部に沈線が施され，沈線による区画文を施し，Rしの単節縄文を充填している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第479図　第2920号土坑・出土遺物実測図

第2927号土坑（第480図）

位置　調査区の東部，C13ｉ0区。

規模と平面形　長径1.47m，短径1.21の楕円形で，深さは25cmである。

長軸方向　N－86°－W

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

底　ほぼ平坦である。

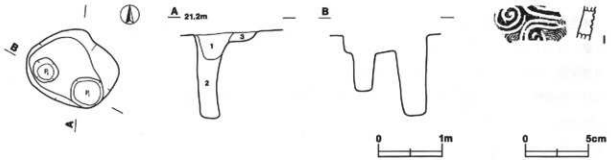
ピット　2か所。P_1は南東壁際に位置し，径55cmの円形で，深さは106cmである。P_2は西側に位置し，径38cmの円形で，深さは63cmである。

覆土　3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　　ローム粒子多量
3　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片147点が出土している。第480図1は深鉢の胴部片で，蕨手状の沈線及び半截竹管による刺突文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。



第480図　第2927号土坑・出土遺物実測図

第2931号土坑（第481図）

位置　調査区の北東部，B15f4 区。

規模と平面形　径2.10mの円形で，深さは42cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

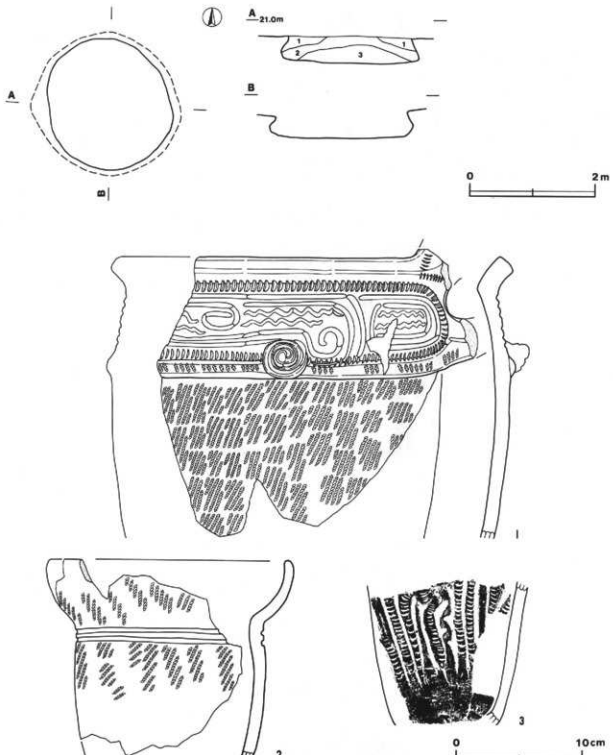
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　縄文土器片43点が出土している。第481図1・2の深鉢の胴部から口縁部の破片及び3の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2931号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第481図 1	深　鉢 縄文土器	A〔26.0〕 B〔22.9〕	胴部から口縁部の破片。胴部上位でわずかに内彎する。口縁部と胴部は，突起をもつ把手からつながる隆帯で区画されている。隆帯に沿って爪形文を施し，山形沈線文及び沈線による渦巻文が施されている。胴部にはRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P152　20%　PL63 覆土 中峠式
2	深　鉢 縄文土器	A〔19.0〕 B〔15.6〕	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。RLの単節縄文が施され，頸部に2本の沈線を巡らしている。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P153　10%　PL63 覆土 中峠式
3	深　鉢 縄文土器	B〔11.4〕	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には整垂文，蛇行沈線文及びキザミをもつ隆帯が施されている。	砂粒 明赤褐色 普通	P154　10%　PL63 覆土 勝坂Ⅲ式



第481図　第2931号土坑・出土遺物実測図

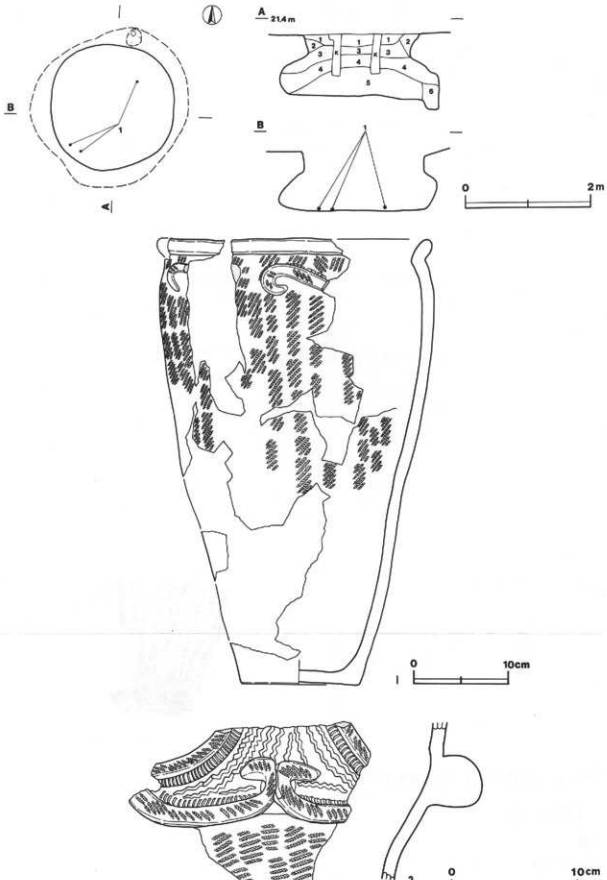
第2932号土坑（第482図）

位置　調査区の北東部，B15a5区。

規模と平面形　径2.02mの円形で，深さは93cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。



第482図　第2932号土坑・出土遺物実測図

覆土　5層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量，第5層より粘性がない

遺物　縄文土器片112点が出土している。第482図1の深鉢は底面から出土している。2の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2932号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第482図 1	深鉢 縄文土器	A 28.9 B 48.6	円筒形。地文はRLの単節縄文で，口縁部に同じ縄文の施された隆帯が横S字状に貼り付けられ，隆帯に沿って結節沈線文が施されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P156 50% PL63 底部 中峠式併行
2	深鉢 縄文土器	B (13.3)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。波状口縁を呈し，下方に突出する隆帯で口縁部と胴部を区画している。隆帯に沿って爪形文が施され，区画内には山形沈線文が施されている。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P157 5% PL63 覆土 阿玉台Ⅳ式

第2934号土坑（第483図）

位置　調査区の北東部，B15a2区。

重複関係　第2933号土坑を掘り込んでいる。北西部分で第2954号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

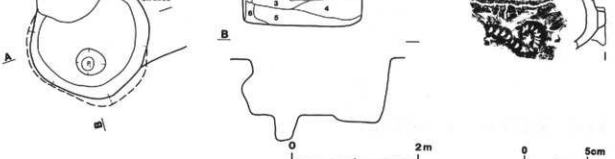
規模と平面形　径1.55mの円形で，深さは86cmである。

壁　袋状である。

底　平坦である。

ピット　1か所。P_1は南側に位置し，長径46cm，短径39cmの楕円形で，深さは43cmである。

覆土　6層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。



第483図　第2934号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子多量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中・大ブロック微量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　色　ローム小・中・大ブロック少量
6　褐　色　ローム小・中ブロック少量

遺物　縄文土器片60点が出土している。第483図1は深鉢の口縁部片で，キザミをもつ隆帯が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2937号土坑（第484図）

位置　調査区の北部，B13j0区。

規模と平面形　長径1.37m，短径1.22mの楕円形で，深さは98cmである。

長径方向　N－7°－E

壁　袋状である。

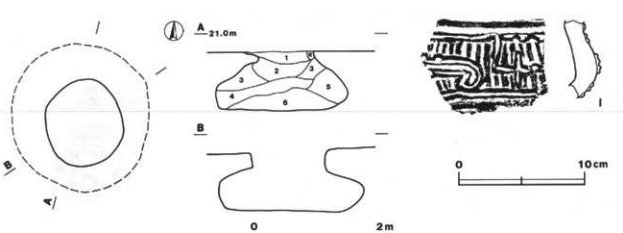
底　平坦である。

覆土　6層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片62点が出土している。第484図1は深鉢の口縁部片で，沈線をもつ隆帯により蕨手文，クランク文が施され，地文として縦位の沈線が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。



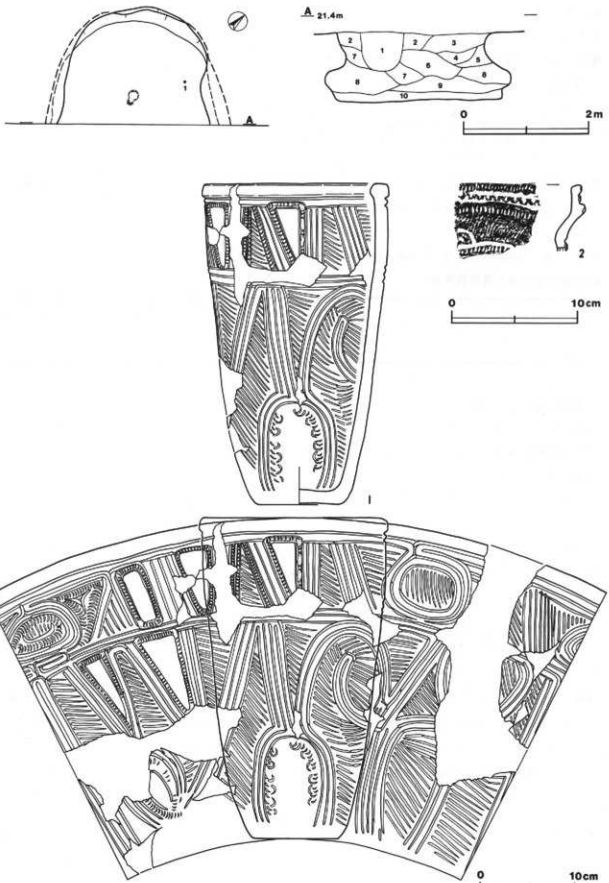
第484図　第2937号土坑・出土遺物実測図

第2939号土坑（第485図）

位置　調査区の北東部，B15c2区。

規模と平面形　長径〔2.80〕m，短径(2.40)mの楕円形と推定され，深さは108cmである。

長径方向　N－73°－W



第485図　第2939号土坑・出土遺物実測図

壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　10層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック微量，第1層は撹乱の可能性がある	6	黒褐色	ローム粒子・炭化物微量
2	暗褐色	ローム粒子少量	7	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	8	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土ブロック少量	9	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5	暗褐色	ローム粒子中量	10	暗　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　縄文土器片97点，人骨が出土している。第485図1の深鉢は底面から出土している。2は深鉢の口縁部片で2本の沈線間に交互刺突文が施され，キザミをもつ隆帯が貼り付けられている。人骨は頭蓋骨で，覆土下層（第10層）から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（勝坂Ⅱ式期）と考えられる。

第2939号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第485図 1	深　鉢 縄文土器	A 19.4 B 33.7 C 9.4	円筒形である。2段の文様帯を構成する。文様はキザミをもつ隆帯及び沈線によりモチーフを描いている。	砂粒・長石・雲母に赤い褐色粒 普通	P128 70% PL.63 底面 勝坂Ⅱ式

第2945号土坑（第486・487図）

位置　調査区の南東部，C14f5区。

規模と平面形　長径2.43m，短径1.84mの楕円形で，深さは102cmである。

長軸方向　N－69°－W

壁　袋状である。

底　平坦である。

ピット　1か所。P_1は北西側に位置し，長径42cm，短径34cmの不整楕円形で，深さは12cmである。

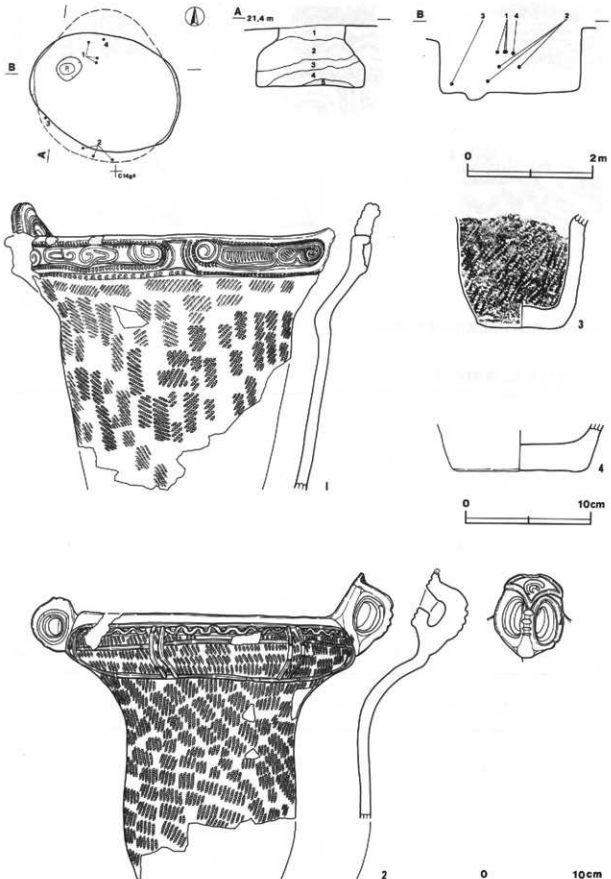
覆土　5層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

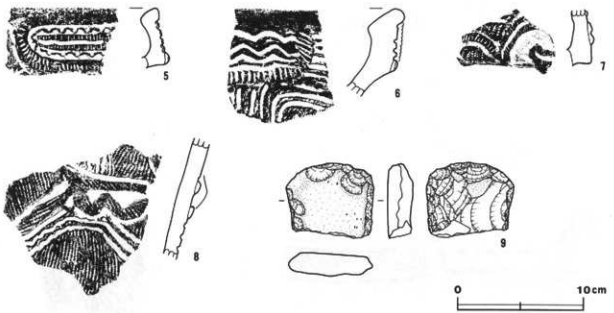
1	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片337点，打製石斧1点が出土している。第486・487図1・2の深鉢，3の深鉢の底部から胴部の破片，4の深鉢の底部片及び9の打製石斧は覆土中層から下層にかけて出土している。5～7は深鉢の口縁部片である。5はキザミをもつ隆帯による楕円区画文内に，交互刺突文が施されている。6はキザミをもつ隆帯による区画内に，波状沈線が施されている。7はキザミをもつ隆帯が施されている。8は深鉢の胴部片である。8はRLの単節縄文を地文に隆帯及び沈線が施され，隆帯には同じ縄文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。



第486図　第2945号土坑・出土遺物実測図（1）



第487図　第2945号土坑出土遺物実測図（2）

第2945号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第486図 1	深鉢 縄文土器	A 32.5 B (30.4)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾し，口縁部は外反する。口縁部に把手を有する。口縁部にはキザミを有する隆帯で区画され，区画内に沈線による渦巻文が施されている。胴部にはLの無節縄文とRLの単節縄文とLRの単節縄文が施されている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P159 80% PL64 覆土 中峠式
2	深鉢 縄文土器	A 26.0 B (32.6)	胴部から口縁部の破片。キャリパー形の器形で，口縁部に2単位の眼鏡状把手を有する。口縁部はRLの単節縄文を地文に，粗く貼り付けられた隆帯で区画され，区画内には交互刺突文が施されている。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・長石・ スコリア にぶい橙色 普通	P160 80% PL64 覆土 中峠式併行
3	深鉢 縄文土器	B (9.2) C 6.6	底部から胴部の破片。胴部は，ほぼ垂直に立ち上がる。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・石英・雲母・ スコリア にぶい赤褐色 普通	P161 30% PL65 覆土
4	深鉢 縄文土器	B (3.8) C 10.6	底部片。厚みのある底部である。	砂粒・長石・ スコリア 灰褐色 普通	P176 5% 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第487図 9	打製石斧	(7.0)	5.9	2.1	(122.0)	安山岩	Q33 覆土

第2946号土坑（第488図）

位置　調査区の東部，C14e4区。

規模と平面形　長径1.76m，短径1.19mの楕円形で，深さは46cmである。

長軸方向　N－68°－E

壁　緩やかに立ち上がる。

底　皿状である。

覆土　2層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子中量
2　暗褐色　　ローム粒子中量，ローム大ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子少量

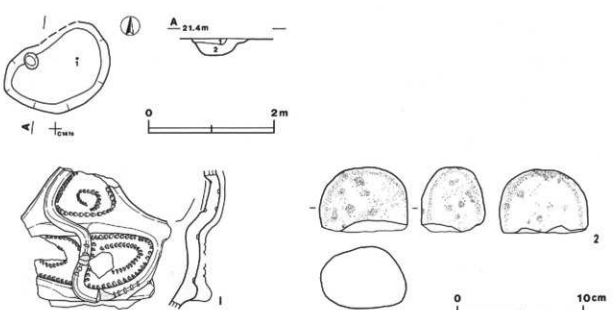
遺物　縄文土器片35点，磨石1点が出土している。第488図1の深鉢の口縁部片及び2の磨石は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

第2946号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第488図 1	深鉢 縄文土器	B (11.3)	口縁部片。山形状の肥手を有し，把手に渦巻状の結節沈線文及び隆帯が施され，波状に口縁部につながる。把手裏側には結節沈線文が円形に施されている。口縁部には隆帯に沿って結節沈線文が楕円形状に施されている。	砂粒・長石・雲母にぶい赤褐色 普通	P162 5% PL65 覆土 阿玉台Ⅱ式

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第488図 2	磨石	(7.0)	5.0	5.1	(235.0)	安山岩	Q34 覆土



第488図　第2946号土坑・出土遺物実測図

第2952号土坑（第489図）

位置　調査区の東部，C14c3区。

重複関係　第500号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.18m，短径1.04mの楕円形で，深さは84cmである。

長径方向　N－67°－W

壁　外傾して立ち上がる。

底　段状である。

覆土　2層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

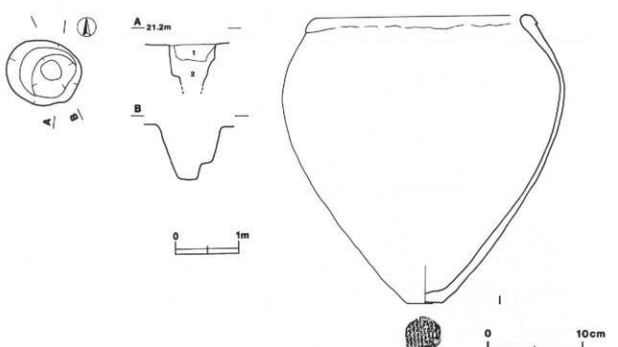
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器1点が出土している。第489図1の深鉢は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期後葉（安行1・2式期）と考えられる。

第2952号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第489図 1	深　鉢 縄文土器	A　23.1 B　30.4 C　3.8	底部は小さく，口縁部は内傾する。口唇部は肥厚している。無文である。	砂粒・パミス・スコリア にぶい橙色 普通	P163 50%　P165 覆土 安行1・2式



第489図　第2952号土坑・出土遺物実測図

第2954号土坑（第490図）

位置　調査区の南東部，B15a2区。

重複関係　南側部分で第2934号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　径1.05mの円形で，深さは104cmである。

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

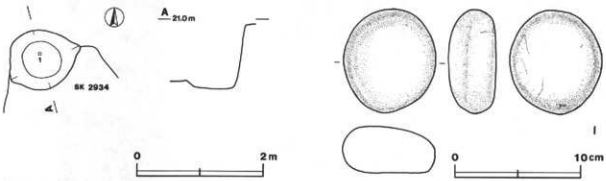
底　平坦である。

遺物　磨石1点が出土している。第490図1の磨石は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代と考えられる。

第2954号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
第490図1	磨　石	8.3	7.4	3.8	(336.0)	花 崗 岩	Q35　覆土



第490図　第2954号土坑・出土遺物実測図

第2960号土坑（第491図）

位置　調査区の北東部，B15a3区。

規模と平面形　長径1.83m，短径（1.11）mの楕円形と推定され，深さは72cmである。

長径方向　N－5°－E

壁　袋状である。

底　平坦である。

覆土　7層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，焼土中ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
6　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

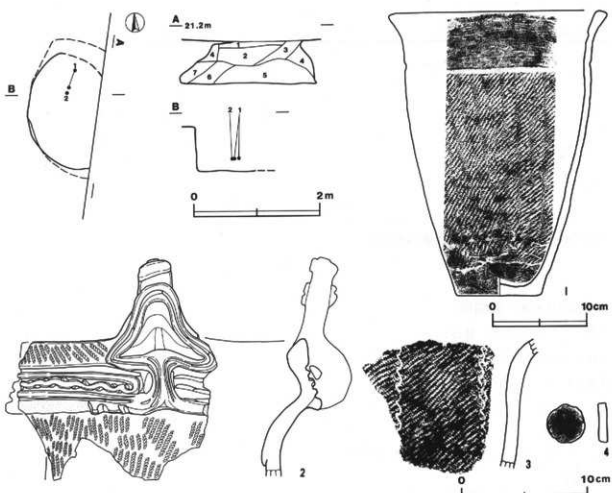
遺物　縄文土器片89点，土器片円盤1点が出土している。第491図1の深鉢，2の深鉢の口縁部片は覆土下層から出土している。3は深鉢の胴部片で，RLの単節縄文が施されている。4は土器片円盤である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。

第2960号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第491図 1	深　鉢 縄文土器	A　23.5 B　30.0 C　9.0	口縁部は外反する。口縁部と胴部は沈線で区画され，口縁部は無文帯としている。胴部にはＲＬの単節縄文が施されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P164 90% ＰＬ65 覆土下層 中峠式
2	深　鉢 縄文土器	A〔22.2〕 B〔17.7〕	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部に絵身意匠の把手をもつ地文はＲＬの単節縄文である。把手から続く隆帯が，口縁部下で口縁部と胴部を区画する。隆帯上に棒状工具による押圧がみられる。口縁部は沈線により長楕円形状に区画され，区画内に交互刺突文が施されている。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P165 5% ＰＬ65 覆土 中峠式

図版番号	器　種	計測値			重量	現存率	形状及び文様の特徴	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	（g）	（%）		
第491図4	土器片円盤	3.1	3.0	0.7	(8.6)	95	無文。	ＤＰ37 覆土



第491図　第2960号土坑・出土遺物実測図

第2966号土坑（第492図）

位置　調査区の中央部，C13b0区。

規模と平面形　径1.00mの円形で，深さは35cmである。

壁　ほぼ垂直に立ち上がる。

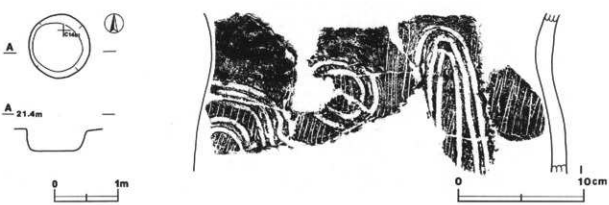
底　平坦である。

遺物　縄文土器片12点が出土している。第492図1の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第2966号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第492図 1	深　鉢 縄文土器	B (12.7)	胴部片。わずかに括れる。条縄文を地文に，洗い沈線により渦巻文あるいは長楕円形状の曲線的文様が描かれている。	砂粒・長石・雲母 石英・スコリア にぶい褐色 普通	P166 10% P165 覆土 加曽利EⅢ式



第492図　第2966号土坑・出土遺物実測図

表10　前田村遺跡H区縄文時代土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	深さ(cm)	壁	底	ピット	覆土	出土遺物	時期	備考(重複関係)
2353	D14j6	N-10°-W	長方形	0.74×1.16	17	緩斜	平坦	—	—	深鉢		
2354	D14j6	—	円形	1.04×1.00	18	緩斜	皿状	—	自然	深鉢		
2355	D14j6	—	円形	0.55×0.50	74	垂直	皿状	—	自然	深鉢		
2356	D14i7	N-90°-W	楕円形	0.72×0.64	30	緩斜	皿状	—	自然	深鉢		
2357	D14h7	—	円形	2.08	21	外傾	平坦	3	自然	深鉢・磨石	加曽利EⅠ式期	
2358	D14h8	N-63°-W	楕円形	0.85×0.72	39	緩斜	皿状	—	自然	深鉢		
2359	D14h8	N-20°-W	楕円形	0.86×0.66	40	垂直	皿状	—	自然	深鉢		
2360	D14i9	N-25°-W	楕円形	1.18×1.01	180	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2361	D14j5	—	円形	0.70	47	垂直	緩斜	—	自然	深鉢	堀之内Ⅰ式期	SI419より新
2362	D14i8	N-17°-E	不定形	1.30×0.90	36	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2363	D14h9	N-38°-W	不定形	1.26×1.20	118	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2364	E14a0	—	円形	2.40	304	垂直	平坦	—	人為	深鉢・敲石	堀之内Ⅰ式期	SI422・SK2376より新
2365	D14j9	—	円形	1.40	124	外傾	平坦	—	自然	深鉢・注口土器・土偶・土版	安行3a式期	SI422より新
2366	D14i9	N-66°-E	不定形	2.83×1.90	67	袋状	平坦	1	自然	深鉢	中峠式期	
2367	D14j7	—	円形	0.94×0.94	30	外傾	凹凸	1	自然	深鉢		
2368	E15a4	—	円形	0.96×0.96	10	緩斜	皿状	—	自然	深鉢		
2369	D14j9	—	円形	1.25×1.30	30	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2370	D14i8	N-0°	楕円形	2.05×1.88	48	外傾	平坦	1	自然	深鉢	加曽利EⅣ式期	SI421より新　SK2371と重複
2371	D14j8	N-16°-W	不整楕円形	1.53×1.22	30	外傾	平坦	2	自然	深鉢		
2372	D14j8	N-3°-E	楕円形	1.56×1.37	40	段状	平坦	—	自然	深鉢	加曽利EⅢ式期	SK2373と重複
2373	D14i8	N-73°-E	楕円形	0.91×0.65	50	段状	平坦	—	自然	深鉢		
2374	E15a1	N-45°-W	楕円形	1.40×0.98	22	外傾	平坦	1	自然	深鉢・耳飾り	安行3a式期	
2375	D14i0	—	円形	0.98	110	袋状	緩斜	—	人為	深鉢	中峠式期	SK2401より古、2410と重複
2376	D14j9	N-90°-E	楕円形	1.58×1.46	74	段状	平坦	3	—	深鉢	加曽利EⅡ式期	SI422より新　SK2364と重複
2377	D15j2	—	円形	1.89	127	外傾	平坦	—	人為	深鉢・土器片円盤	安行2式期	
2378	D15a2	N-39°-W	楕円形	1.69×1.29	31	外傾	皿状	—	人為	深鉢	加曽利EⅡ式期	SI423より新 SK2409,2407と重複
2379	E15a1	N-56°-W	不定形	3.70×2.90	30	緩斜	平坦	7	自然	深鉢		
2380	E15a1	N-43°-W	楕円形	0.70×0.50	60	外傾	平坦	—	—	深鉢	加曽利EⅠ式期	SK2379と重複
2381	E15a2	N-34°-E	長方形	1.38×0.96	37	外傾	平坦	2	自然	深鉢		
2382	E15a2	—	円形	1.57×1.49	75	緩斜	緩斜	—	自然	深鉢		
2383	E15a2	N-60°-E	不定形	1.45×1.45	61	緩斜	皿状	—	自然	深鉢・磨石	後期	SK2381より新　SK2386と重複
2385	E15a1	N-38°-E	楕円形	1.06×0.65	—	—	—	—	自然	深鉢		
2386	E15a2	N-86°-E	長方形	2.55×1.07	74	緩斜	皿状	—	自然	深鉢		
2387	D15a2	N-63°-E	楕円形	2.51×1.93	40	緩斜	皿状	3	自然	深鉢		
2388	D15i1	—	円形	2.05	48	垂直	平坦	3	人為	深鉢・鉢	加曽利EⅠ式期	
2389	D15i1	—	円形	1.40	104	外傾	平坦	—	人為	深鉢・磨石	中期	
2390	D15j1	N-0°	楕円形	2.70×2.37	76	垂直	平坦	3	自然	深鉢・土器片円盤・[illegible]・[illegible]	加曽利EⅡ式期	SK2391,2392,2437,2452と重複
2391	D15j2	N-36°-E	不整長方形	1.50×1.23	—	—	—	1	自然	深鉢		
2392	D15j2	N-5°-W	楕円形	2.45×2.37	45	外傾	平坦	2	自然	深鉢・耳飾り	後期~晩期	SK2390より新SK2391,2452と重複
2393	D14i0	N-26°-E	不定形	1.57×1.51	120	垂直	凹凸	2	自然	深鉢		
2394	D14h0	—	円形	1.45	119	袋状	平坦	—	人為	鉢・深鉢・蓋	加曽利EⅠ式期	SI424より新
2395	D14i0	N-27°-E	楕円形	0.81×0.71	35	外傾	皿状	—	自然	深鉢		
2396	D14g8	N-44°-W	不定形	3.05×2.62	61	垂直	凹凸	4	人為	深鉢	加曽利EⅢ式期	SK2397と重複
2397	D14g8	—	円形	1.04	75	外傾	皿状	—	人為	深鉢・不明土製品	加曽利EⅢ式期	SK2396,2404と重複
2398	D14f8	N-35°-W	楕円形	1.33×1.00	92	垂直	平坦	1	自然	深鉢		
2399	D14g9	—	円形	1.96	44	垂直	平坦	6	人為	深鉢	加曽利EⅠ式期	SK2401,2420,2421と重複
2400	D14i9	N-21°-E	楕円形	0.77×0.51	50	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2401	D14g9	N-85°-W	楕円形	2.46×2.00	126	垂直	平坦	—	自然	深鉢・土器片円盤	堀之内Ⅰ式期	SK2375と重複
2402	D14h0	—	円形	1.20×1.15	199	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2403	D14h0	—	円形	0.99×0.98	103	垂直	皿状	1	自然	深鉢		

土坑番号	位置	長径方向（主軸方向）	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁	底	ピット	覆土	出土遺物	埋葬施設	備考（重複関係）
2404	D14g9	N-8°-E	長方形	2.02×1.38	91	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2405	D13h1	N-64°-W	楕円形	2.02×1.56	54	外傾	平坦	2	自然	深鉢		
2406	D14i0	N-42°-W	長方形	1.42×1.08	131	外傾	段状	—	自然	深鉢		
2407	E15h2	N-77°-W	楕円形	2.67×1.22	36	緩斜	平坦	2	自然	深鉢		
2408	D14j8	N-47°-E	楕円形	1.33×1.13	85	外傾	平坦	—	自然	深鉢	堀之内Ⅰ式期	SK2453と重複
2409	E15c2	—	円形	1.12×1.07	37	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2410	D14i0	N-23°-E	長方形	2.45×1.84	27	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2411	D15h3	—	円形	1.30×1.26	32	緩斜	平底	—	自然	深鉢		
2415	D14g9	—	円形	1.69	33	外傾	平坦	—	—	深鉢・石皿	加曽利ＥⅠ式期	S1429より新 SK2435,2463より古
2416	D14h8	N-76°-W	不定形	1.04×0.96	—	緩斜	平坦	1	自然	深鉢		
2417	D14h8	N-70°-E	不定形	2.43×1.49	84	外傾	段状	3	自然	深鉢		
2418	D14h8	N-70°-W	不整楕円形	1.50×1.28	98	垂直	平坦	—	人為	深鉢	加曽利ＥⅣ式期	SK2417と重複
2419	D14h8	N-67°-E	楕円形	1.29×0.84	85	垂直	凹状	—	自然	深鉢		
2420	D14g9	—	円形	1.15	44	外傾	凹状	—	自然	深鉢		
2421	D14g9	N-22°-W	楕円形	1.08×0.77	76	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2422	D15i3	N-58°-E	不定形	2.09×1.24	43	外傾	凹状	—	自然	深鉢		
2423	D15i3	N-88°-W	不整楕円形	2.57×1.65	63	緩斜	平坦	1	自然	深鉢		
2425	D15i3	N-40°-W	楕円形	2.12×1.41	41	緩斜	段状	—	自然	深鉢		
2426	D15i2	N-45°-E	楕円形	1.87×1.38	74	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2427	D14i9	—	円形	0.76	28	外傾	平坦	—	自然	深鉢	加曽利ＥⅡ式期	SK2470と重複
2428	D14i0	N-17°-W	円形	1.84×1.62	75	外傾	平底	—	自然	深鉢		
2429	D15h2	N-48°-W	楕円形	0.96×0.85	96	垂直	平坦	—	人為	深鉢・広口壺	加曽利ＥⅣ式期	SK2506より新 SK2477と重複
2430	D11j0	N-36°-W	楕円形	0.88×0.54	52	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2431	D14i0	N-18°-W	楕円形	0.88×0.70	70	垂直	凹凸	2	自然	深鉢		
2432	D14j0	N-26°-W	不定形	1.86×0.90	106	段状	平坦	1	人為	深鉢	加曽利ＥⅣ式期	S1422より新
2433	D15g2	N-69°-W	楕円形	0.95×(0.77)	64	袋状	平坦	—	自然	深鉢	中峠式期	SK2441と重複
2434	D14g0	N-90°-E	楕円形	1.91×0.11	44	外傾	平底	1	自然	深鉢		
2435	D14g0	—	楕円形	2.87×1.72	69	外傾	平底	1	自然	深鉢		
2436	D14j0	N-25°-E	楕円形	2.20×1.69	55	垂直	凹凸	2	自然	深鉢		
2437	D15j1	N-6°-W	楕円形	0.74×0.43	—	—	—	—	自然	深鉢		
2438	D15j1	N-44°-E	楕円形	0.52×0.33	54	垂直	凹凸	—	自然	深鉢		
2439	D15i1	—	円形	2.37×2.20	51	外傾	平坦	5	自然	深鉢		
2440	D15i1	N-4°-E	不整長方形	1.98×1.65	39	外傾	平坦	5	自然	深鉢		
2441	D15g2	N-49°-E	楕円形	1.29×1.12	93	外傾	凹状	—	自然	深鉢		
2443	D15h2	N-30°-W	正方形	1.60×1.49	62	垂直	凹状	2	自然	深鉢		
2444	D15g2	—	円形	(2.30)	30	外傾	平坦	1	人為	深鉢	安行２式期	SK2445より古 SK2443,2447と重複
2445	D13g2	N-90°-W	不定形	1.95×0.91	120	垂直	凹状	—	人為	深鉢・土器片円盤・磨石	後期	SK2444より新
2446	D14e0	—	円形	2.06	105	垂直	平坦	2	人為	深鉢・敲石	堀之内Ⅰ式期	S1434より新 SK2503と重複
2447	D15h3	N-21°-W	楕円形	2.47×2.23	73	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2448	D13g5	—	円形	1.78×1.70	74	垂直	平坦	1	自然	深鉢		
2449	D15g2	N-55°-E	楕円形	0.73×0.56	83	垂直	段状	3	自然	深鉢		
2450	D15g3	—	円形	1.92×1.87	27	—	—	4	自然	深鉢		
2451	D14d0	—	円形	(1.88)	63	外傾	凹状	—	人為	深鉢	堀之内Ⅰ式期	SK2520より新
2452	D15j1	K-37°-E	不整形	1.35×0.56	57	—	—	—	自然	深鉢		
2453	D14f9	N-41°-E	不整楕円形	2.97×1.96	60	緩斜	凹状	3	自然	深鉢		
2454	D14e8	N-18°-E	不整楕円形	1.47×1.00	27	—	—	3	自然	深鉢		
2455	D14e9	K-90°-E	不整楕円形	1.11×0.85	19	緩斜	平坦	3	自然	深鉢		
2456	D14f9	N—0°	楕円形	1.80×(1.70)	62	段状	平坦	1	—	深鉢・石皿・不明石器	堀之内Ⅰ式期	SK2457と重複
2457	D14f9	N-67°-W	不整円形	1.96×1.85	63	垂直	段状	2	自然	深鉢		
2458	D14f9	K-71°-W	不定形	0.99×0.67	36	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2459	D14f9	N-8°-E	楕円形	(1.25)×1.08	101	垂直	平坦	1	自然	深鉢・土器片円盤		
2460	D15i2	N-39°-E	不整楕円形	3.33×2.06	115	緩斜	段状	7	自然	深鉢		

土坑番号	位置	長軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	深さ(cm)	壁	底	ピット	埋土	出土遺物	時期	備考（重複関係）
2461	D15f1	—	円形	1.93	40	垂直	平坦	1	自然	深鉢	加曽利EⅠ式期	SK2462より新 SK2434,2428と重複
2462	D15f1	N-27°-W	楕円形	1.92×1.34	86	袋状	平坦	1	人為	深鉢	加曽利EⅠ式期	SK2461より新
2463	D14g6	N-58°-W	長楕円形	(1.66×0.92)	41	垂直	平坦	—	人為	深鉢・人骨	加曽利EⅡ式期以降	土坑墓 SK2415・SK2435より新
2464	D13e4	N-39°-W	楕円形	2.68×2.13	21	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2465	D15e1	N-4°-W	楕円形	1.95×1.16	65	緩斜	平坦	—	人為	深鉢	加曽利EⅠ式期	SK2464より新
2466	D15g5	—	楕円形	0.77×0.67	76	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2467	D15g3	—	円形	0.77×0.70	64	緩斜	段状	—	自然	深鉢		
2468	D14e9	N—0°	不整楕円形	2.33×1.90	74	垂直	平坦	1	自然	深鉢	加曽利EⅣ式期	SK2469より古 SK2470と重複
2469	D14e9	N-4°-E	不定形	2.43×0.93	45	外傾	平坦	2	自然	深鉢		
2470	D14f9	—	円形	1.84	46	外傾	平坦	3	自然	深鉢		
2471	D15g1	—	不整円形	1.44	62	外傾	平坦	1	自然	深鉢		
2472	D15e2	N-15°-W	楕円形	1.51×1.35	50	袋状	平坦	1	人為	深鉢	中峠式期	
2473	D15f2	N-51°-W	楕円形	2.40×1.57	10	外傾	平坦	2	自然	深鉢		
2474	D15g1	N—0°	楕円形	1.32×1.20	84	垂直	平坦	1	自然	深鉢	加曽利EⅣ式期	SI432より新
2475	D14d9	—	円形	1.37	30	袋状	平坦	—	自然	深鉢・土器片円盤	中峠式期	SI436より新 SK2522と重複
2476	D14j0	N-48°-W	不整楕円形	1.82×0.74	45	外傾	平坦	2	自然	深鉢		
2477	D15g2	N-55°-W	不整楕円形	1.51×0.96	—	—	—	—	自然	深鉢		
2478	D15g0	N-27°-E	楕円形	0.54×0.40	60	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2479	D15e2	N-45°-E	楕円形	0.73×0.56	122	袋状	平坦	—	自然	深鉢		
2480	D13a1	—	不整円形	1.84×1.82	27	袋状	平坦	—	自然	深鉢		
2481	D15h1	N-55°-W	楕円形	1.52×0.81	51	外傾	皿状	—	自然	深鉢		
2482	D14f9	N-42°-W	楕円形	1.82×1.57	66	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2483	D15f2	N-36°-W	楕円形	1.71×1.39	55	—	平坦	1	自然	深鉢		
2484	D15f2	N-28°-W	楕円形	1.17×0.78	80	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2485	D15f2	N-28°-W	円形	0.71	90	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2486	D15e1	N-31°-E	楕円形	1.11×0.90	40	垂直	階状	1	自然	深鉢	阿玉台Ⅲ式期	
2487	D15g2	—	円形	0.73×0.70	107	—	段状	—	自然	深鉢		
2488	D14e0	—	円形	0.79	—	—	—	—	自然	深鉢		
2489	D14g0	N-30°-W	楕円形	0.76×0.64	—	—	—	—	自然	深鉢		
2492	D15f1	N-39°-W	楕円形	2.90×2.50	35	外傾	平坦	2	自然	深鉢・耳飾り・磨石	後期	SK2462,2512と重複
2493	D15e1	N-20°-W	楕円形	2.53×[2.02]	54	外傾	平坦	1	人為	深鉢・敲石	加曽利EⅡ式期	SI439より古
2494	D15d1	N-57°-E	楕円形	1.14×0.89	40	垂直	平坦	1	自然	深鉢		
2495	E15e2	N-35°-W	楕円形	1.62×0.54	59	垂直	平坦	—	人為	深鉢	加曽利EⅢ式期	
2496	D15d1	N-35°-W	楕円形	1.58×0.95	38	外傾	—	1	自然	深鉢		
2497	E15h6	N-14°-W	楕円形	1.91×1.62	91	垂直	平坦	—	自然	深鉢	堀之内Ⅰ式期	SK2602と重複
2498	D15g0	N-34°-W	不定形	1.71×0.97	77	外傾	平坦	—	人為	深鉢・耳飾り	後期～晩期	
2499	D14e8	N-30°-W	楕円形	1.92×1.53	81	袋状	平坦	—	—	深鉢・土器片錘	中峠式期	SI436より新
2500	D15e1	N-35°-W	楕円形	1.76×1.45	41	外傾	平坦	4	自然	深鉢		
2501	D13g0	N-36°-W	楕円形	0.78×0.56	43	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2502	D15e1	N-47°-W	不整楕円形	1.86×1.44	65	外傾	平坦	—	人為	深鉢	堀之内Ⅰ式期	SK2512と重複
2503	D14d0	N-50°-W	楕円形	1.43×1.02	24	垂直	平坦	1	自然	深鉢		
2504	D15d1	N-33°-W	不整楕円形	1.70×1.09	33	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2505	D15g1	N-12°-W	楕円形	0.82×0.51	30	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2506	D13a2	—	円形	1.66×1.55	91	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2507	D15h6	—	円形	2.09×2.00	80	垂直	平坦	—	人為	深鉢	加曽利EⅢ式期	SK2508より新 SK2514より古
2508	D14f9	N-84°-W	楕円形	1.83×1.06	120	袋状	平坦	1	自然	深鉢		
2509	D15f2	N-33°-E	楕円形	2.22×0.98	47	緩斜	平坦	3	自然	深鉢		
2510	D14e9	—	楕円形	0.43×0.37	18	外傾	皿状	—	—	深鉢・台付鉢	安行Ⅱ式期	SI431より新
2511	D15e1	N-36°-E	楕円形	0.89×0.76	14	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2512	D15e1	—	円形	1.73×1.72	95	袋状	平坦	—	人為	深鉢・浅鉢	中峠式期	SK2502,2492と重複
2513	D14g9	N-28°-W	不定形	1.25×0.80	150	袋状	平坦	—	自然	深鉢		
2514	D14e0	—	円形	(1.21)×0.16	102	外傾	階状	—	人為	深鉢	後期	SK2507と重複

土坑番号	位置	主軸方向（長軸方向）	平面形	規模 長軸×短軸（m）	規模 深さ（m）	壁	底	ピット	覆土	出土遺物	時期	備考（重複関係）
2515	D14d8	N-12°-E	不整円形	(0.96)	46	外傾	凹凸	—	人為	深鉢	中期	
2516	D14d9	N-8°-E	不定形	1.72×0.62	38	緩斜	凹凸	1	—	深鉢	加曽利E式期	
2517	D14e9	N-25°-E	不整楕円形	1.59×1.32	—	—	—	—	自然	深鉢		
2518	D14f9	N-23°-W	楕円形	1.36×0.86	—	—	—	—	自然	深鉢		
2520	D14d0	N-5°-E	楕円形	2.37×2.05	86	垂直	平坦	1	自然	深鉢		
2521	D14e0	N-52°-E	楕円形	1.93×[1.20]	54	垂直	平坦	—	人為	深鉢	加曽利E II式期	SI431より古 SK2522より新
2522	D14d0	N-52°-E	楕円形	2.98×1.49	35	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2523	D15e1	N-35°-W	楕円形	1.01×0.57	100	袋状	平坦	—	自然	深鉢		
2524	D15e9	—	円形	2.22×2.19	63	袋状	平坦	2	自然	深鉢・剥片	中峠式期	SI431より古
2540	D14d9	N-50°-W	楕円形	0.78×0.60	77	袋状	平坦	—	自然	深鉢		
2541	D14j7	N-71°-E	楕円形	1.58×1.46	12	垂直	平坦	1	自然	深鉢・磨製石斧	加曽利E I式期	SK2845より古 SK2838と重複
2567	D14f9	N-42°-E	楕円形	(0.72×0.50)	45	—	—	—	人為	土製	安行I式期	SI429より新 SK2428と重複
2568	D14e0	N-22°-E	楕円形	0.66×0.53	59	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2602	E15b5	—	円形	1.24×1.16	32	緩斜	—	—	自然	深鉢		
2614	D14g9	N-8°-E	楕円形	0.43×0.15	77	外傾	階段	—	自然	深鉢		
2615	D14c9	—	不整形	0.82	26	外傾	皿状	—	自然	深鉢		
2760	D14f1	N-85°-W	楕円形	3.15×2.57	77	外傾	平坦	2	自然	深鉢		
2762	D14e1	N-53°-W	楕円形	2.01×1.75	32	緩斜	平坦	1	自然	深鉢		
2763	D14i3	—	円形	1.37×1.27	21	緩斜	皿状	—	人為	深鉢・剥片		
2764	D14f0	N-64°-W	楕円形	2.37×1.82	53	垂直	平坦	—	人為	深鉢・土器円盤・土器片錘	加曽利E IV式期	SK2810と重複
2765	D14f6	N-46°-E	楕円形	1.68×1.43	51	緩斜	平坦	1	自然	深鉢		
2767	D14f3	N-40°-E	楕円形	1.86×1.21	27	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2768	D14f6	N-44°-E	楕円形	1.58×1.39	51	外傾	平坦	1	自然	深鉢		
2769	D14f5	—	円形	1.20×1.19	44	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2770	D14g6	—	円形	1.31×1.28	47	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2771	D14c1	N-3°-E	楕円形	2.28×1.43	33	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2772	D14e4	—	円形	1.15×1.13	76	垂直	皿状	—	人為	深鉢・土器片錘	中期	
2773	D14e6	—	円形	2.53×2.48	76	袋状	平底	2	人為	深鉢・不明土製品	加曽利E I式期	
2775	D14e4	N-32°-W	楕円形	1.64×1.17	36	外傾	皿状	—	自然	深鉢	堀之内I式期	
2778	D14e4	N-16°-E	楕円形	1.79×1.60	17	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2779	D14e4	N-12°-E	不整楕円形	1.88×1.00	15	緩斜	平坦	1	自然	深鉢		
2780	D14e4	N-54°-E	楕円形	1.15×0.88	26	外傾	平底	—	自然	深鉢		
2781	D14e3	N-12°-E	楕円形	1.04×0.85	22	外傾	平底	—	自然	深鉢		
2783	D14c1	N-20°-W	楕円形	1.81×1.39	15	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2790	D14b4	—	円形	1.88×1.80	75	外傾	平底	1	自然	深鉢		
2791	D14c5	—	円形	2.16×2.00	50	外傾	平底	2	自然	深鉢		
2792	D14c1	N-11°-W	楕円形	1.73×0.79	34	外傾	平底	—	自然	深鉢		
2795	D14d6	—	円形	1.32×1.31	67	袋状	平底	—	自然	深鉢		
2796	D14c5	—	円形	1.27×1.21	41	外傾	平底	—	自然	深鉢		
2797	D14b4	N-75°-W	楕円形	1.32×1.17	30	緩斜	平坦	1	自然	深鉢		
2798	D14d5	N-33°-E	楕円形	1.98×1.57	48	垂直	平底	2	自然	深鉢		
2799	D14a3	N-79°-W	円形	1.30	30	外傾	平底	—	不明	深鉢	阿玉台II式期	
2800	D14d6	N-11°-E	楕円形	1.07×1.00	58	袋状	平坦	1	自然	深鉢		
2801	D14d2	—	円形	1.62×1.54	58	袋状	平坦	1	自然	深鉢		
2802	D14e3	N-51°-W	楕円形	0.78×0.67	57	外傾	平底	—	自然	深鉢		
2803	D13e9	N-75°-W	楕円形	1.91×1.11	29	緩斜	平底	3	自然	深鉢		
2804	D14c7	N-57°-W	楕円形	1.07×0.94	43	袋状	平坦	—	自然	深鉢		
2805	D14c7	—	円形	1.37×1.32	57	外傾	平底	2	自然	深鉢		
2806	D14d7	N-18°-W	楕円形	1.94×0.94	46	外傾	平底	—	自然	深鉢		
2807	D14c8	—	円形	1.03×0.88	56	袋状	平坦	—	人為	深鉢・打製石斧	阿玉台IV式期	SK2808より古
2808	D14b2	N-21°-E	楕円形	0.58×0.46	38	外傾	皿状	—	自然	深鉢		SK207より新
2809	D14a2	N-78°-E	楕円形	1.44×1.26	61	外傾	平坦	—	自然	深鉢		

土坑番号	位置	長軸方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(m)	壁	底	ピット	覆土	出土遺物	時期	備考(重複関係)
2810	D14i6	N-25°-E	楕円形	1.22×0.80	11	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		SK2764と重複
2811	D14i7	N-62°-W	楕円形	1.19×0.90	24	緩斜	皿状	—	不明	深鉢・土器片円盤・磨石	後期	
2812	D14i7	—	不整円形	1.68×1.67	15	外傾	平坦	2	自然	深鉢		
2822	D14i4	—	円形	0.67×0.65	22	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2823	D14i5	N-35°-W	長方形	0.37×0.45	47	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2824	D14i5	N-31°-E	楕円形	1.13×1.00	31	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2826	D14i6	—	円形	(1.88)	63	袋状	平坦	—	人為	深鉢	阿玉台Ⅳ式期	SK2827より新
2827	D14i6	—	円形	(0.75)	69	袋状	平坦	—	自然	深鉢		SK2826より古
2828	C14j5	—	円形	1.30×1.19	79	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2829	D13i0	—	円形	0.94×0.92	62	袋状	平坦	—	自然	深鉢		
2831	C14i4	—	円形	2.02×1.96	142	垂直	皿状	1	自然	深鉢		
2832	D14e7	N-20°-E	長方形	0.90×0.69	—	—	—	—	自然	深鉢		
2834	D13i9	N-14°-E	楕円形	0.77×0.64	33	緩斜	皿状	—	自然	深鉢		
2835	D13i9	N-35°-E	楕円形	0.86×0.71	30	緩斜	皿状	—	自然	深鉢		
2836	D13i9	N-30°-E	不整楕円形	1.04×0.91	33	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2837	D14a7	N-33°-W	楕円形	1.94×1.72	7	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2838	D14a7	N-14°-W	不整楕円形	2.06×1.74	41	袋状	平坦	—	自然	深鉢		SK2863，2839と重複
2839	D14a8	N-86°-E	楕円形	3.00×2.26	62	緩斜	平坦	2	—	深鉢・土器片円盤・磨石	中期	SK2838，2863と重複
2840	C14j5	—	円形	1.36×1.29	112	外傾	擂鉢	—	人為	深鉢・鉢	加曽利E Ⅱ式期	
2841	C14i7	N-55°-W	楕円形	2.13×1.50	56	袋状	平坦	1	人為	深鉢	中峠式期	
2842	C14i5	N-54°-W	楕円形	2.33×1.68	29	緩斜	皿状	—	自然	深鉢		
2843	C14i5	N-80°-E	楕円形	2.04×1.63	90	袋状	平坦	1	自然	深鉢		
2844	C14i8	N-17°-E	楕円形	2.58×2.22	90	袋状	平坦	—	自然	深鉢・浅鉢・土器片円盤	中峠式期	
2845	C14j3	N-22°-E	不整楕円形	0.65×0.54	49	外傾	皿状	—	自然	深鉢		
2846	C14j3	N-53°-E	不整楕円形	1.36×0.84	—	—	—	—	自然	深鉢		
2848	C14j6	N-44°-W	楕円形	1.97×1.58	71	外傾	平坦	2	人為	深鉢・敲石	中期	SK2849より新
2849	C14i6	N-59°-W	楕円形	1.63×0.99	33	垂直	平坦	—	自然	深鉢		SK2848より古
2850	D14i6	N-25°-E	不整楕円形	1.70×1.50	33	外傾	皿状	—	自然	深鉢		
2851	D14i3	N-8°-W	楕円形	2.49×1.63	41	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2852	D14e8	N-38°-E	不整円形	1.18×1.13	73	垂直	皿状	—	自然	深鉢		
2853	C14j7	N-77°-E	楕円形	3.27×2.66	120	袋状	平坦	—	人為	深鉢・土器片	中峠式期	
2854	C14i8	N-39°-W	不定形	2.00×1.84	44	垂直	平坦	—	人為	深鉢・鉢	中峠式期	SK2855より古 SK2856と重複
2855	C14i8	—	円形	0.60×0.55	120	外傾	皿状	—	自然	深鉢		SK2854より新
2856	C14i8	N-28°-W	楕円形	2.31×1.63	100	袋状	平坦	2	人為	深鉢・土器片円盤	中期	SK2869より古 SK2854と重複
2857	D14i7	N-12°-W	不整楕円形	2.09×1.39	79	袋状	平坦	—	自然	深鉢		
2858	D14i5	N-42°-W	楕円形	1.36×(1.30)	75	垂直	平坦	—	不明	深鉢・土器片円盤	加曽利E Ⅰ式期	SK2870より古
2859	C14i7	N-84°-E	楕円形	2.63×2.15	116	袋状	平坦	1	人為	深鉢	中峠式期	SK2860と重複
2860	C14j7	N-11°-W	楕円形	0.99×0.87	114	袋状	平坦	—	自然	深鉢		SK2859と重複
2861	C14j1	—	円形	2.49×2.23	132	袋状	平坦	1	自然	深鉢		
2862	D14a1	—	円形	2.34×2.16	49	外傾	皿状	—	人為	深鉢・剥片	阿玉台Ⅳ式期	SK2785と重複
2863	D14a8	N-5°-E	楕円形	1.63×1.48	30	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		SK2836，2839と重複
2867	D14a7	—	円形	1.64×1.53	85	袋状	平坦	—	人為	深鉢・鉢	阿玉台Ⅳ式期	
2868	D14e7	N-40°-W	楕円形	1.38×1.14	30	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2869	C14i8	—	円形	0.80×0.74					自然	深鉢		
2870	D13j5	—	不定形	2.03×(1.50)	92	袋状	皿状	1	人為	深鉢	阿玉台Ⅲ式期	SK2898より新
2871	C14i3	—	円形	1.51×1.50	61	袋状	平坦	—	人為	深鉢	中峠式期	
2872	D14e6	N-31°-W	楕円形	2.13×1.88	56	外傾	平坦	1	自然	深鉢		
2873	C14i1	N-73°-E	楕円形	3.40×2.58	103	袋状	平坦	3	自然	深鉢		
2874	D14e6	N-4°-E	楕円形	2.64×2.08	54	垂直	平坦	3	自然	深鉢		
2875	C14j3	—	円形	1.44×1.40	80	袋状	平坦	—	—	深鉢		SK2871
2876	C14j6	—	円形	1.75×1.69	31	緩斜	皿状	—	自然	深鉢		
2877	C12i4	N-20°-W	楕円形	1.45×1.30	30	外傾	平坦	—	自然	深鉢		

土坑番号	位置	長径方向（短軸方向）	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁	底	ピット	覆土	出土遺物	時期	備考（重複関係）
2878	C12c	—	円形	1.50×1.37	30	外傾	皿状	—	自然	深鉢		
2880	C12e	N-48°-E	楕円形	3.20×2.72	36	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2884	B13d	—	方形	1.61×1.61	82	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2885	B13e	N-32°-E	楕円形	1.34×1.21	54	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2891	C12e	N-43°-W	楕円形	1.28×1.10	27	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2894	C11d	—	円形	1.20×1.15	48	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2895	C11d	—	円形	1.49×1.39	57	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2896	C14b	N-23°-W	楕円形	2.34×1.96	45	外傾	平坦	3	自然	深鉢		
2897	C14e	—	円形	2.51×2.48	55	袋状	平底	2	自然	深鉢		
2898	C14b	—	方形	1.14×1.14	44	外傾	平底	—	自然	深鉢		
2899	C14d	—	円形	1.33	45	垂直	皿状	—	自然	深鉢	阿玉台Ⅱ式期	SK2903より古
2900	B14b	—	円形	1.53×1.47	45	垂直	平坦	—	自然	深鉢	加曽利EⅢ式期	
2901	C14b	—	不整楕円形	0.81×0.63	19	垂直	平底	1	自然	深鉢		
2902	C14a	N-9°-E	楕円形	1.02×0.91	20	緩斜	皿状	—	自然	深鉢		
2903	C14d	N-49°-W	楕円形	0.66×0.54	104	袋状	平坦	—	自然	深鉢		
2905	C15d	N-46°-E	楕円形	2.34×1.64	54	外傾	皿状	—	人為	深鉢	阿玉台Ⅱ式期	
2906	C14g	—	円形	0.91×0.85	92	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2907	C14h	—	円形	0.78×0.77	32	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2908	C14h	—	円形	0.39×0.37	38	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2909	C14g2	N-76°-W	不整長方形	2.70×0.99	35	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2910	C14g2	N-45°-W	不定形	0.86×0.47	98	垂直	平坦	—	人為	深鉢	安行1・2式期	SK2909より古
2911	C14g	—	楕円形	0.97×0.82	35	垂直	平坦	1	自然	深鉢		
2912	C14h4	N-26°-W	楕円形	1.36×1.15	41	垂直	平底	—	自然	深鉢・鉢	加曽利EⅠ式期	SK2916と重複
2913	C14h5	—	円形	1.28×1.17	65	垂直	平底	1	自然	深鉢		
2914	C14e4	N-8°-E	不定形	2.34×1.23	28	緩斜	皿状	1	人為	深鉢・土器片円盤	中期	
2915	C14d2	—	円形	0.62×0.56	118	垂直	平底	—	自然	深鉢		
2916	C13h4	N-3°-W	楕円形	0.65×0.56	142	垂直	平底	—	自然	深鉢		
2917	C14e	N-20°-E	不定形	0.70×0.37	86	垂直	傾斜	—	自然	深鉢		
2918	C14c3	—	円形	1.90	54	袋状	平坦	—	人為	深鉢・磨石		
2919	C13i1	N-73°-E	楕円形	1.00×0.85	76	緩斜	凹凸	—	自然	深鉢		
2920	C14i1	N-13°-W	楕円形	1.22×1.02	46	外傾	皿状	—	自然	深鉢	加曽利EⅡ式期	SK2919より古
2921	C13i1	N-17°-W	楕円形	1.64×1.29	47	外傾	皿状	—	自然	深鉢		
2922	C14e	N-57°-W	楕円形	2.12×1.40	95	袋状	平坦	2	自然	深鉢		
2923	C13e	N-60°-E	楕円形	0.72×0.45	53	垂直	平底	—	自然	深鉢		
2924	C13h	N-12°-E	楕円形	0.60×0.45	42	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2925	C13i	N-73°-W	楕円形	1.37×1.13	50	緩斜	平坦	1	自然	深鉢		
2926	C13h	N-36°-W	楕円形	1.09×0.98	48	緩斜	平底	—	自然	深鉢		
2927	C15i	N-86°-W	楕円形	1.47×1.21	28	垂直	平坦	2	自然	深鉢	中期	
2928	C13i	N-71°-W	楕円形	2.35×1.14	112	外傾	平底	—	自然	深鉢		
2931	B13d	—	円形	2.10	42	袋状	平坦	—	人為	深鉢	中峠式期	
2932	B15d	—	円形	2.02	93	袋状	平底	—	自然	深鉢	中峠式期	
2933	B15e	N-10°-W	不整楕円形	1.43×1.00	36	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2934	B15e2	—	不整円形	1.55	86	袋状	平坦	1	人為	深鉢	中峠式期	SK2933より新, SK2954と重複
2935	A15j2	N-31°-E	楕円形	1.56×1.33	64	袋状	平坦	—	自然	深鉢		
2936	B15j2	N-48°-E	楕円形	1.30×1.06	135	袋状	平底	—	自然	深鉢		
2937	B13j0	N-7°-E	楕円形	1.25×1.22	98	袋状	平坦	—	人為	深鉢	中峠式期	
2938	B13c2	—	円形	1.84×1.73	63	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2939	B15c2	N-73°-W	〔楕円形〕	〔2.86〕×2.40	108	袋状	平坦	—	人為	深鉢・人骨	勝坂Ⅱ式期	
2941	B15e1	N-11°-E	楕円形	2.06×1.67	28	緩斜	皿状	1	自然	深鉢		
2943	C14g0	N-57°-W	楕円形	2.02×1.64	43	外傾	平底	—	自然	深鉢		
2945	C14f5	N-69°-W	楕円形	2.43×1.84	102	袋状	平坦	1	人為	深鉢・打製石斧	中峠式期	
2946	C14e4	N-68°-E	楕円形	1.76×1.19	46	緩斜	皿状	1	自然	深鉢・敲石	阿玉台Ⅱ式期	

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	深さ(cm)	壁	底	ピット	覆土	出土遺物	時期	備考(重複関係)
2949	C14d6	N-8°-E	楕円形	0.65×0.55	80	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2950	C14e6	—	円形	0.43×0.41	53	垂直	皿状	—	自然	深鉢		
2951	C14c4	N-51°-W	不定形	3.42×2.48	45	緩斜	平坦	—	自然	深鉢		
2952	C14c3	N-67°-W	楕円形	1.18×1.04	84	外傾	段状	—	自然	深鉢	安行1・2式期	SI500より新
2953	C14c2	N-42°-W	楕円形	1.67×1.48	74	袋状	平坦	—	自然	深鉢		
2954	B15d2	—	円形	1.05	104	垂直	平坦	—	—	深鉢・壺石		SK2934と重複
2957	B15b5	N-68°-W	楕円形	1.50×1.20	15	緩斜	平坦	1	自然	深鉢		
2958	D15a7	N-47°-E	楕円形	2.10×1.81	67	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2960	B15a3	N-5°-E	楕円形	1.83×[1.11]	72	袋状	平坦	—	人為	深鉢・土器片円盤	加曽利E I式期	
2961	B15c5	—	不定形	1.55×1.48	27	垂直	平坦	1	自然	深鉢		
2964	C14d8	N-9°-E	楕円形	1.50×0.92	118	袋状	袋状	1	自然	深鉢		
2965	C14f7	N-74°-E	楕円形	2.85×2.35	55	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2966	C13d2	—	円形	1.00	35	垂直	平坦	—	—	深鉢	加曽利E III式期	
2967	B15c5	N-70°-W	楕円形	1.00×0.75	97	垂直	平坦	—	自然	深鉢		
2971	B13d1	—	楕円形	1.23×1.01	41	外傾	皿状	—	自然	深鉢		
2976	B15e4	N-27°-E	楕円形	2.29×2.07	53	外傾	平坦	—	自然	深鉢		
2978	B15g4	—	円形	2.20×2.01	27	外傾	平坦	1	自然	深鉢		
2979	B15h4	N-5°-E	長方形	1.33×1.17	29	外傾	平坦	2	自然	深鉢		
2982	B15i3	N-61°-W	楕円形	1.07×0.91	16	外傾	平坦	1	自然	深鉢		
2983	B15i2	—	円形	1.01×0.95	12	垂直	平坦	1	自然	深鉢		
2984	C12e5	N-60°-E	楕円形	1.96×1.45	14	緩斜	平坦	1	自然	深鉢		
2985	C14b7	—	円形	1.90×1.93	47	袋状	平坦	—	自然	深鉢		

（4）焼土遺構

第1号焼土遺構（第493図）

位置　調査区の南東部，D14ｃ7区。

調査経過　本跡の検出された区域は，縄文土器片を含む褐色土に覆われていたため，ベルトを設定し土層調査をした。本跡はこの褐色土層の中層から検出された。

規模と平面形　径1.62mの不整円形で，深さは75cmである。

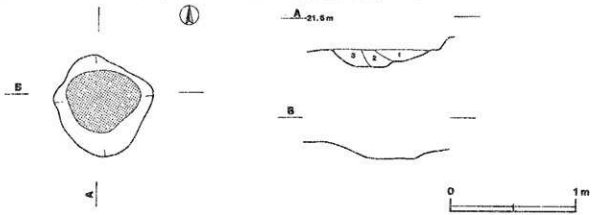
壁　外傾して立ち上がる。

底　凹凸である。

覆土　3層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小・中ブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック微量
3　にぶい褐色　　ローム粒子・ローム少ブロック中量

所見　本跡の時期は，調査経過及び検出された層位から縄文時代と推定される。



第493図　第1号焼土遺構実測図

第2号焼土遺構（第494図）

位置　調査区の南部，D13ｉ5区。

調査経過　本跡の検出された区域は，縄文土器片を含む褐色土に覆われていたため，ベルトを設定し土層調査をした。本跡はこの褐色土層の中層から検出された。

規模と平面形　長径1.27m，短径0.75mの不整楕円形で，深さは8cmである。

長径方向　N－28°－W

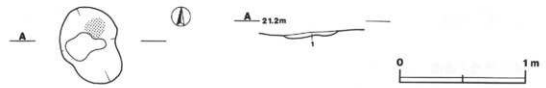
壁　緩やかに立ち上がる。

底　凹凸である。

覆土　1層。堆積状況は不明である。

土層解説
1　明赤褐色　　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量

所見　本跡の時期は，調査経過及び検出された層位から縄文時代と推定される。



第494図　第２号焼土遺構実測図

（５）土器埋設遺構

第２号土器埋設遺構（第495図）

位置　調査区の東部，C14b8区。

規模と平面形　長径0.59mの円形と推定され，深さは24cmである。

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　４層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　　ローム粒子中量
2　褐　色　　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　褐　色　　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量（２層より色調が明るい）

遺物　縄文土器片１点が出土している。P167は深鉢の胴部片で，埋設された状態で出土した。半隆起線文が施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

第２号土器埋設遺構出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第495図 1	深　鉢 縄文土器	B（12.2）	胴部片。胴部はわずかに外傾する。胴部に半隆起線による懸垂文及び蛇行沈線文が施されている。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P167 30% PL65 埋設 馬高式

第495図　第２号土器埋設遺構・出土遺物実測図

2　古墳時代の遺構と遺物

（1）竪穴住居跡

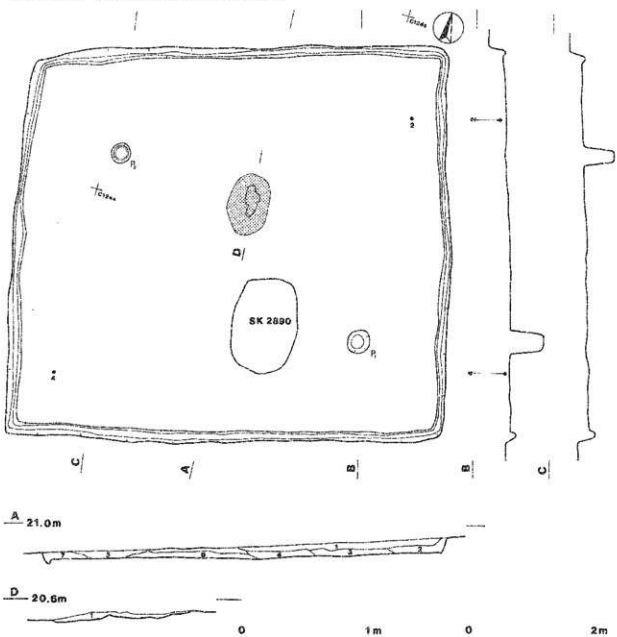
調査区における古墳時代の竪穴住居跡は11軒で，西部地区に集中して確認されている。以下，検出した竪穴住居跡と出土遺物について記載する。

第485号住居跡（第496図）

位置　調査区西部，C12e1区。

重複関係　第2890号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸6.93m，短軸6.28mの長方形。



第496図　第485号住居跡実測図

主軸方向　N－17°－W

壁　壁高は6～21cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁下を全周している。上幅5～13cm，下幅2～8cm，深さ6cmで，断面形はU字形をしている。

床　平坦である。

ピット　2か所。P_1は径36cmの円形で，深さ54cm，P_2は長径34cm，短径30cmの楕円形，深さ48cmで，ともに主柱穴と思われる。主柱穴は4か所と考えられるが，耕作による撹乱のためあと2か所は確認できなかった。

炉　ほぼ中央部に位置している。規模は長径96cm，短径62cmの楕円形で，炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック多量，焼土中ブロック中量

覆土　7層からなり，人為堆積と思われる

土層解説

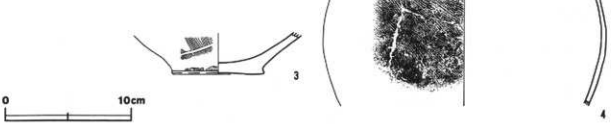
1　暗褐色　ローム粒子微量，ローム中ブロック微量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子少量
5　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
7　褐　色　ローム粒子少量

遺物　土師器片128点が覆土から出土している。第497図1は土師器坩，3は土師器甕である。2の土師器器台は北東コーナー寄り，4の土師器甕は南西コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。

第485号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第497図 1	坩 土師器	A（9.0） B（5.0）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	体部外面ヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・スコリアにぶい赤褐色 普通	P501　40%　PL66 覆土 内・外面剥離
2	器台 土師器	B（3.9） D　13.2	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部に孔がある。	内面下位横方向のヘラナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	P502　20% 覆土下層 内・外面剥離
3	甕 土師器	B（3.3） C　7.3	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ハケ目整形。底部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色 普通	P503　5% 覆土
4	甕 土師器	B（15.0）	体部片。体部は球形状で，器壁は薄い。	体部外面及び内面上端ハケ目調整。外面にスス付着。	砂粒・雲母・スコリア (外)にぶい黄橙色 (内)橙色 普通	P504　20% 覆土下層



第497図　第485号住居跡出土遺物実測図

第486号住居跡（第498図）

位置　調査区西部，C12c2区。

重複関係　第11号方形竪穴状遺構土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　一辺が6.44mの隅丸方形。

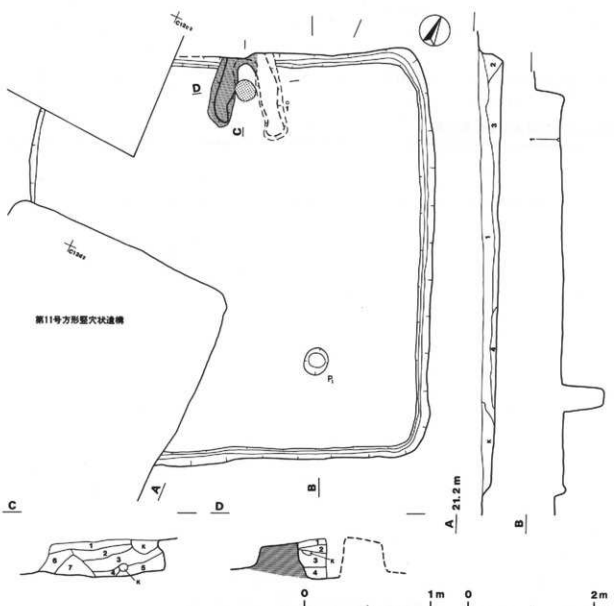
主軸方向　N－22°－W

壁　壁高は12～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西壁下を除き壁下を周回している。上幅11～13cm，下幅４～７cm，深さ３～５cmで，断面形は皿状をしている。

床　全体的に平坦である。

ピット　１か所。P_1は長径44cm，短径37cmの楕円形，深さ67cmで主柱穴と思われる。



第498図　第486号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設されている。規模は長さ〔136〕cm，袖幅〔121〕cmで，壁外への掘り込みはほとんどない。袖部は山砂混じりの粘土を貼り付けて構築されている。火床部は径64cmの円形で，わずかに掘りくぼめられている。燃焼部奥から煙道部へはやや内彎して立ち上がる。右袖部は削平されている。

竈土層解説

1　黄　褐　色　砂多量
2　褐　　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，砂少量
3　極暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック少量，砂少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化物微量，砂少量
5　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック中量，炭化物微量，砂少量
6　極暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック微量，砂少量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量

覆土　4層からなり，人為堆積と思われる

土層解説

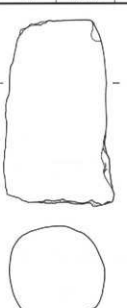
1　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム小ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
4　褐　　色　ローム中ブロック少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片17点，土製品1点が出土している。第499図1の土製支脚は，竈の右側床面から横位の状態で出土している。

所見　本跡は，壁際に炭化材・焼土が堆積していることから焼失家屋と考えられる。時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と思われる。

第486号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値			重量	現存率	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	（g）	（%）	
第499図1	支　脚	(14.8)	8.6	7.6	(884.0)	−	D P 501　床面



第499図　第486号住居跡出土遺物実測図

第488号住居跡（第500・501図）

位置　調査区西部，B12j3区。

規模と平面形　長軸5.41m，短軸4.77mの隅丸長方形。

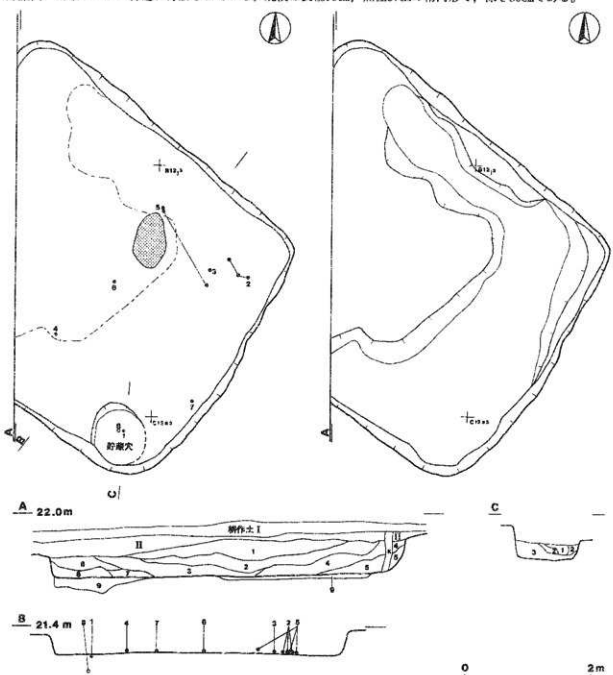
主軸方向　N－39°－E

壁　壁高は31～37cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，中央部は踏み固められている。床面には炭化材・焼土が堆積している。

炉　中央部やや北東寄りに付設され，規模は長径89cm，短径51cmの楕円形で，炉床はほとんど掘りくぼめられておらず，床面がわずかに火熱を受け赤変している程度である。

貯蔵穴　南東コーナー付近に付設されている。規模は長径98cm，短径87cmの楕円形で，深さ30cmである。



第500図　第488号住居跡・掘り方実測図

貯蔵穴土層解説

1　極暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック多量，焼土中ブロック多量
2　暗　褐　色　焼土粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

覆土　8層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子少量，炭化粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子中量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，炭化粒子中量，炭化物少量
7　暗　褐　色　ローム粒子微量，ローム中ブロック微量，炭化粒子中量，炭化物少量
8　暗　褐　色　ローム粒子微量，ローム中ブロック微量，炭化粒子中量，炭化物少量

掘り方　北西コーナーを除く北壁下から南壁下中央部にかけて，住居周縁をめぐる溝状の掘り方を検出した。規模は，上幅62～215cm，下幅33～180cm，深さ14～24cmで南東コーナー付近が広く掘られている。

掘り方土層解説

9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量

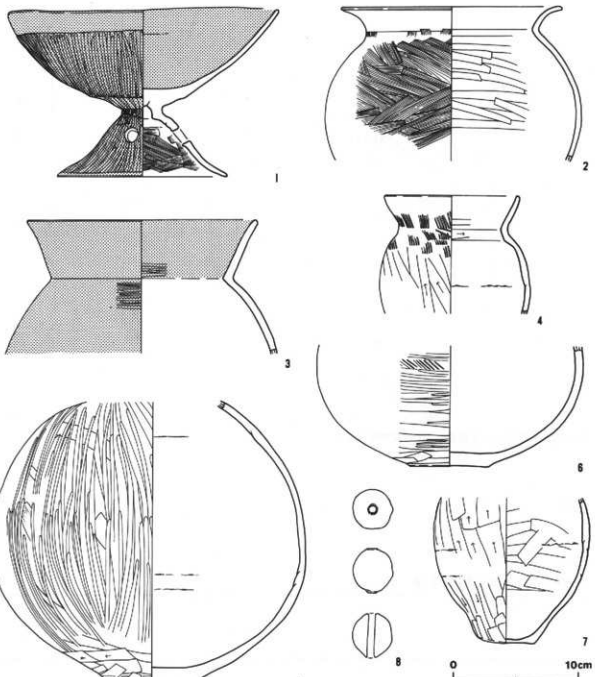
遺物　土師器片126点，土製品1点が覆土から出土している。第501図1の高坏は横位の状態で，8の土玉とともに貯蔵穴内から出土している。2・3・5の土師器甕は東コーナー寄りの床面から，4・6の土師器甕は中央部の床面からそれぞれ出土している。また，7の土師器壺は東壁付近の床面から正位の状態で出土している。

所見　本跡は，床面に炭化材・焼土が堆積していることから焼失家屋と考えられる。時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。

第488号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第501図 1	高　坏 土師器	A　21.3 B　13.4 D　12.6	脚部，坏部一部欠損。脚部は膨らみを持ち，底部はラッパ状に開く。坏部は下位に強い稜を持ち，内湾して立ち上がる。脚部に3孔。	脚部・坏部外面縦方向のヘラ磨き。脚部内面ヘラ目調整。坏部下位へラ削り後，ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 （外）にぶい赤褐色 （内）にぶい褐色 普通	P509　80%　PL66 貯蔵穴 覆土上層 内・外面剥離
2	甕 土師器	A　17.4 B　(12.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外反する。	体部外面ハケ目調整。体部内面横方向のヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア　赤色 普通	P510　30%　PL66 床面 体部内面剥離
3	甕 土師器	A　18.4 B　(10.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内湾して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反する。	体部外面・口縁部内面ヘラ磨き。外面及び口縁部内面赤彩。	砂粒・石英 にぶい赤褐色 普通	P511　30% 床面 内・外面剥離
4	甕 土師器	A　10.6 B　(9.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外反する。体部内面に輪積み痕がある。	外面ハケ目調整後，体部斜め方向のヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア　橙色 普通	P512　40%　PL66 床面
5	壺 土師器	B　(22.5) C　7.0	底部から体部にかけての破片。平底，体部は球形状で，内面に輪積み痕がある。	外面ハケ目整形後，縦方向のヘラ磨き。体部下位横方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母　灰黄褐色 普通	P513　60%　PL66 床面 内・外面剥離
6	甕 土師器	B　(9.6) C　6.1	底部から体部にかけての破片。平底，体部は大きく内湾して立ち上がる。	底部外面ヘラ削り。体部外面ハケ目調整後，横方向のヘラナデ及びヘラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P514　20% 床面
7	壺 土師器	B　(11.6) C　4.6	底部から体部にかけての破片。丸底気味の平底。	底部外面ヘラ削り。体部外面中位より上・下方向にヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 浅黄橙色 普通	P515　50% 床面 体部内面剥離

図版番号	器種	計測値（cm） 長さ	径	孔径	重量（g）	現存率（%）	備考
第501図8	土玉	3.5	3.1	0.7	32.0	100	D P 502　貯蔵穴内覆土



第501図　第488号住居跡出土遺物実測図

第489号住居跡（第502図）

位置　調査区西部，B12b4区。

重複関係　第133号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

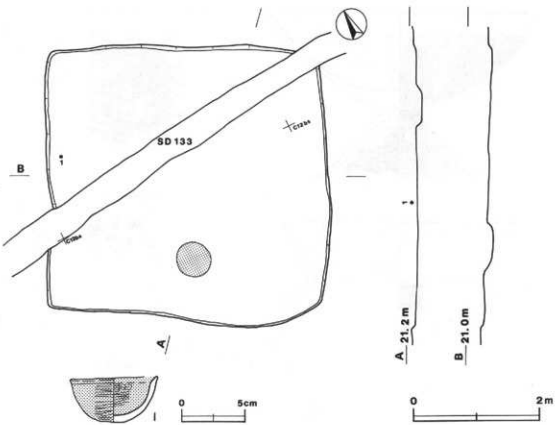
規模と平面形　一辺が4.47mの方形。

主軸方向　N－26°－E

壁　壁高は4～7cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦である。

炉　中央部南壁寄りにあり，規模は径55cmの円形で，炉床はほとんど掘りくぼめられておらず，床面がわずか



第502図　第489号住居跡・出土遺物実測図

に火熱を受け赤変している程度である。

遺物　土師器片12点が覆土から出土している。第502図1の土師器小形坩は西壁中央付近の覆土下層から正位の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第489号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第502図 1	小形坩土師器	A 6.8 B 3.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。	体部外面横方向のヘラ磨き。体部内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 淡黄橙色 普通	P516　95%　PL66 覆土下層

第490号住居跡（第503図）

位置　調査区西部，B12g3区。

重複関係　第2号堀A・Bに掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸〔4.98〕m，短軸〔4.92〕mの隅丸方形と推定される。

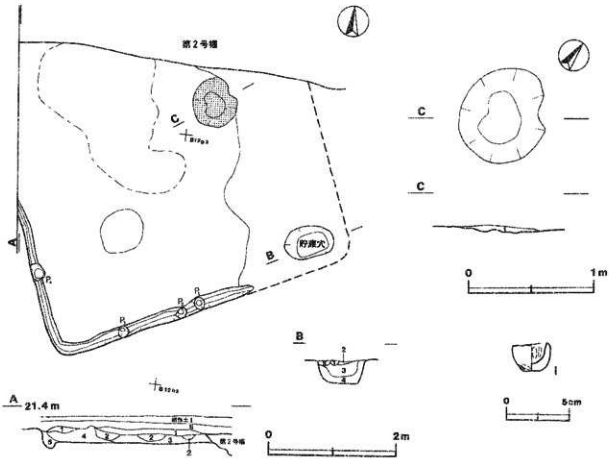
主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は12～20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西コーナーを中心に検出され，上幅15～18cm，下幅3～10cm，深さ7cmで，断面形はU字形をしている。

床　平坦で，炉から西壁にかけての住居跡中央部が踏み固められている。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1は，長径20cm，短径16cmの楕円形で，深さ15cmである。P_2は，長径19cm，短径



第503図　第490号住居跡・出土遺物実測図

16cmの楕円形で，深さ18cmである。P3は長径20cm，短径17cmの楕円形で，深さ15cmである。P4は長径27cm，短径20cmの楕円形で，深さ13cmである。各ピットとも壁溝内から検出されているが，性格は不明である。

炉　中央部やや北寄りにあり，長径78cm，短径68cmの楕円形で，床面を8cmほど掘りくぼめている。炉床は赤変硬化したブロック状の焼土が見られる。

炉土層解説
1　暗赤褐色　　焼土粒子中量，焼土小ブロック中量

貯蔵穴　南東コーナー付近に付設され，規模は長径77cm，短径50cmの楕円形，深さ40cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説
1　暗赤褐色　　焼土粒子多量，焼土ブロック多量
2　暗 褐 色　　焼土粒子中量
3　黒 褐 色　　ローム粒子微量
4　暗 褐 色　　ローム粒子少量

覆土　5層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物少量
2　赤 褐 色　　焼土小ブロック多量，炭化物中量
3　赤 褐 色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，焼土粒子多量，炭化物中量
4　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，焼土粒子中量，炭化物中量
5　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，焼土粒子少量，炭化物少量

遺物　土師器片20点が覆土から出土している。第503図1は土師器ミニチュア土器である。

所見　本跡は，西壁付近に多量の焼土が広がり，また良好な状態で炭化材も出土しているため焼失家屋と思われる。時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第490号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第503図 1	ミニチュア土師器	A　2.7 B　2.3	丸底。体部は下位で内湾した後，直線的に立ち上がる。頂部広度がある。	体部外面ナデ。	砂粒・雲母 暗灰色 普通	P.517 100% PL66 覆土

第491号住居跡（第504図）

位置　調査区西部，B12g7区。

規模と平面形　長軸〔6.52〕m，短軸〔5.67〕mの隅丸長方形と推定される。

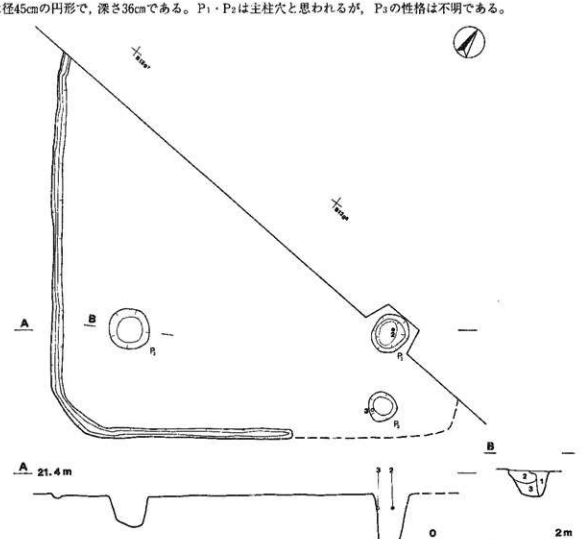
主軸方向　N－37°－W

壁　壁高は3cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西壁下，南壁下の一部で確認され，上幅10～14cm，下幅3～11cm，深さ4cmで，断面形は皿状をしている。

床　全体的に平坦である。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は，径58cmの円形で深さ89cmである。P_2は，径68cmの円形で，深さ49cmである。P_3は径45cmの円形で，深さ36cmである。P_1・P_2は主柱穴と思われるが，P_3の性格は不明である。



第504図　第491号住居跡実測図

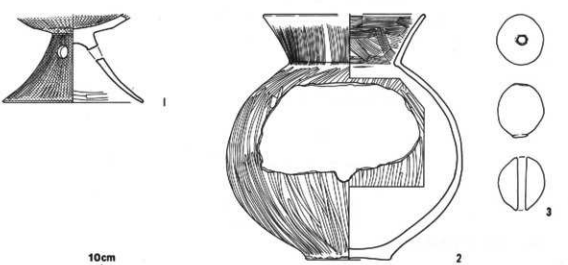
遺物　土師器片10点，土製品１点が覆土から出土している。第505図１は土師器高坏である。また，２の土師器壺はP₁内覆土上層から正位の状態で，３の土玉はP₃内から出土している。２は体部に孔が空いており，焼成後，故意に穿孔した可能性がある。

所見　本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代前期（４世紀後半）と思われる。

第491号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第505図 1	高　坏 土師器	B（7.0） D　11.1	脚部から坏部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。坏部は下位に沿い稜を持つ。脚部に３孔。	外面及び坏部内面縦方向のヘラ磨き脚部内面下位横方向のヘラナデ。坏部下位ヘラ削り。外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア (外) 赤褐色 (内) にぶい褐色 普通	P518　60% 覆土
2	壺 (円底土器) 土師器	A　12.8 B　19.5 C　6.6	口縁部一部欠損。平底。体部は球形状で，脇部ほぐの字状に屈曲する。口縁部は外反する。体部には，焼成後楕円形状の孔が穿たれている。	体部外面ハケ目整形後，縦方向のヘラ磨き。口縁部外面縦方向のハケ目整形。口縁部内面ハケ目整形。口縁端部外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 良好	P519　90% P₁内覆土上層

図版番号	器　種	計測値（cm）			重量	現存率	備　考
		長さ	径	孔　径	(g)	(%)	
第505図3	土　玉	4.4	3.8	0.8	58.0	100	DP503　P₃内覆土



第505図　第491号住居跡出土遺物実測図

第492号住居跡（第506・507図）

位置　調査区北西部，B13j1区。

規模と平面形　長軸6.58m，短軸5.63mの隅丸長方形。

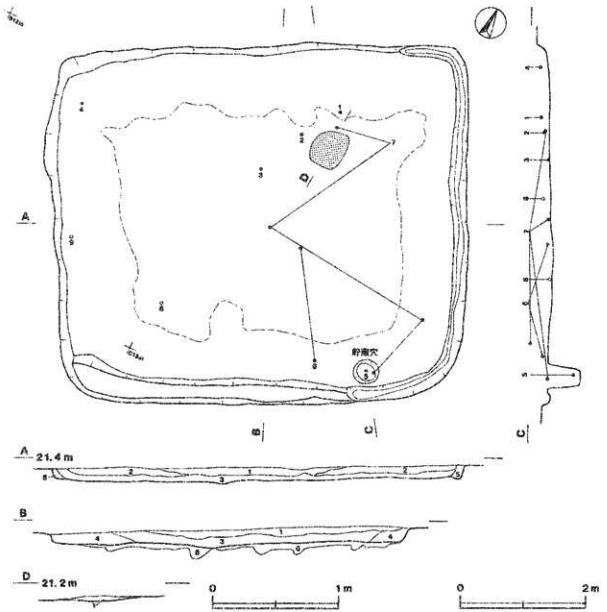
主軸方向　N－27°－W

壁　壁高は９～16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁下と両コーナー部で検出され，上幅16～18cm，下幅５～10cm，深さ４cmで，断面形は皿状をしている。

床　全体的に平坦である。中央部分が若干低くなっており，踏み固められている。

炉　中央部北コーナー寄りに付設されている。規模は長径61cm，短径54cmの楕円形で，床面を４cmほど掘りくぼめている。炉床はわずかに赤変し，ブロック状の焼土が見られる。



第506図　第492号住居跡実測図

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量，炭化粒子微量

貯蔵穴　南東コーナー寄りに付設されている。規模は径40cmの円形で深さ50cmである。

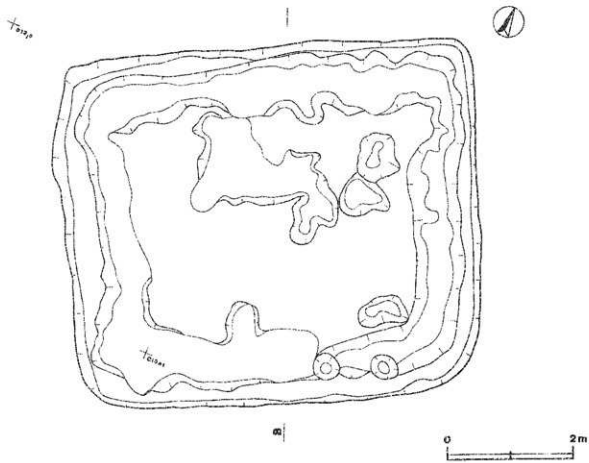
覆土　5層からなり，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子微量，炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
5　褐　色　ローム粒子多量

掘り方　住居周縁をめぐる溝状の掘り方を検出した。規模は，上幅45～118cm，下幅11～105cm，深さ8cmである。

掘り方土層解説
6　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片182点，土製品1点，土製模造品1点が覆土から出土している。第508図1の土師器坏，2の土師器椀，3の土師器器台は，炉の周辺から出土している。4の土師器器台は正位の状態で北西コーナー付近か



第507図　第492号住居跡掘り方実測図

ら出土している。5の土師器甕は貯蔵穴の覆土下層から出土している。6の土師器甕は中央部から南壁付近にかけて出土した土器片が接合したものである。また，7の土師器台付甕は中央部から貯蔵穴にかけて出土した土器片が接合したものである。8の管状土錘は南西コーナー寄りから，9の土製模造品鏡は西壁中央部付近から出土している。

所見　本跡の時期は，住居跡の形状や出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。

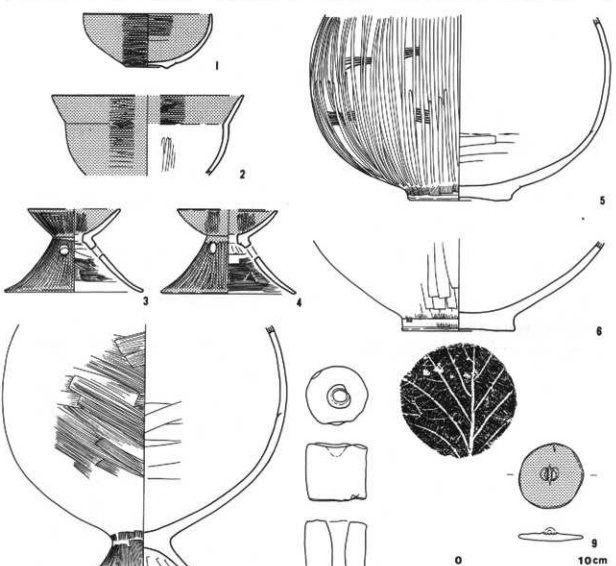
第492号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第508図 1	坏 土師器	A〔10.2〕 B 4.3 C 3.4	底部から口縁部にかけての破片。わずかに内彎する平底。体部は内彎し口縁部は垂直に立ち上がる。	内・外面横方向のヘラ磨き，内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P520 60% 覆土中層 内・外面調整
2	椀 土師器	A〔15.2〕 B〔 6.3〕	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外屈する。	外面及び口縁部内面ハケ目整形後，横方向のヘラ磨き。体部内面を除き赤彩。	赤粒・長石・スコリア（外）赤褐色 （内）にぶい赤褐色 普通	P521 25% 覆土中層
3	器台 土師器	A〔 7.4〕 B 6.6 D 11.2	脚柱，受部一部欠損。脚柱はラッパ状に開く。受部は内彎して立ち上がり，中央に単孔がある。脚部に3孔。	外面及び脚受部内面横方向のヘラ磨き。脚部内面横方向のハケ目整形，外面赤彩。	砂粒・長石・石英 （外）にぶい赤褐色 （内）にぶい黄褐色 普通	P522 70% P166 掘面
4	器台 土師器	A 7.9 B 7.7 D 10.8	脚部から受部にかけての破片。脚柱はラッパ状に開く。受部は内彎して立ち上がり，中央に単孔がある脚部に3孔。	外面及び受部内面横方向のヘラ磨き。脚部内面横方向のハケ目整形。外面赤彩。	細砂・長石・石英 （外）明赤褐色 （内）にぶい褐色 良好	P523 60% P166 覆土中層 脚部内面調整

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第508図 5	甕 土師器	B (14.7) C 8.0	底部から体部にかけての破片。わずかに内彎する平底。体部は球形状を呈する。	体部外面下位縦方向，中位横方向のハケ目整形後，縦方向のヘラ磨き。体部内面横方向のヘラナデ。底部外面不定方向のヘラ削り。	砂粒・小礫・石英 浅黄橙色 普通	P524 30% PL67 貯蔵穴 覆土下層 内・外面剥離
6	甕 土師器	B (7.2) C 9.0	底部から体部にかけての破片。平底体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ハケ目整形後，縦方向のヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英・スコリアにぶい橙色 普通	P525 10% 覆土中層
7	台付甕 土師器	B 20.3	台部から体部にかけての破片。台部はハの字状に開き，体部は球形状を呈する。	台部外面縦方向，体部外面斜め方向のハケ目整形。体部内面横方向のヘラナデ。	砂粒・スコリア 明黄褐色 普通	P526 30% 覆土

図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	径	孔径	重量(g)	現存率(%)	備考
第508図8	管状土錘	4.6	4.9	1.8	126.0	100	D P504 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm) 径	厚さ	重量(g)	現存率(%)	備考
第508図9	土製模造品	5.2	0.7	(17.0)	95	D P505 覆土中層 内・外面赤彩



第508図　第492号住居跡出土遺物実測図

第494号住居跡（第509図）

位置　調査区南西部，D12a9区。

規模と平面形　長軸6.08m，短軸4.70mの長方形。

主軸方向　N－24°－W

壁　壁高は18～20cmで，外傾して立ち上がる。

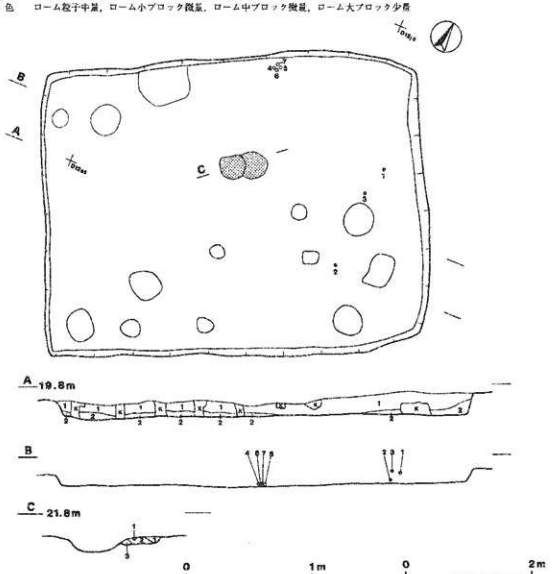
床　全体的に平坦であるが，中央部分が若干低くなっている。

炉　中央部北寄りに付設されている。規模は長径75cm，短径40cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめている。炉床はわずかに赤変し，焼土粒子が見られる。

炉土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子中量
2　明赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
3　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量

覆土　2層からなり，自然堆積と思われる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，ローム中ブロック微量，ローム大ブロック少量



第509図　第494号住居跡実測図

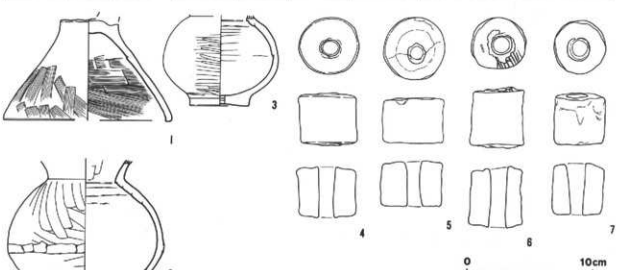
遺物　土師器66片点，土製品４点が覆土から出土している。第510図１の土師器粗製器台，３の土師器小形壺は東壁付近の覆土上層から出土している。２の土師器小型壺は北東コーナー寄りの覆土下層から出土している。４～７の管状土錘は，４点まとまって北壁付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，住居跡の形状や出土遺物から古墳時代前期（４世紀後半）と思われる。

第494号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第510図 1	粗製器台 土師器	B（ 7.9) D〔13.4〕	脚部片。ハの字状に開き，端部がわずかに内傾する。台部に突起を有していた痕跡がある。	外面縦方向，内面横方向のハケ目整形。	砂粒・雲母・スコリアにぶい橙色 普通	P527　40% 覆土上層
2	小型壺 土師器	B（ 9.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は算盤玉状で，口縁部は外反する体部内面上位に輪積み痕がある。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリアにぶい黄褐色 良好	P528　30%　PL66 覆土下層
3	小型壺 土師器	B（ 7.2) C（ 4.6)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は算盤玉状を呈する。	体部外面横方向のヘラ磨き，内面横方向のヘラナデ。底部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P529　30% 覆土上層

図版番号	器　種	計測値(cm) 長さ	径	孔径	重量(g)	現存率(%)	備　考
第510図4	管状土錘	4.7	4.6	1.2	104.0	100	D P506　覆土下層
4	管状土錘	5.0	5.0	1.4	111.0	100	D P507　覆土下層
6	管状土錘	4.4	4.1	1.6	97.0	100	D P508　覆土下層
7	管状土錘	4.2	4.2	1.8	84.0	100	D P509　覆土下層



第510図　第494号住居跡出土遺物実測図

第495号住居跡（第511・512図）

位置　調査区南西部，C13e2区。

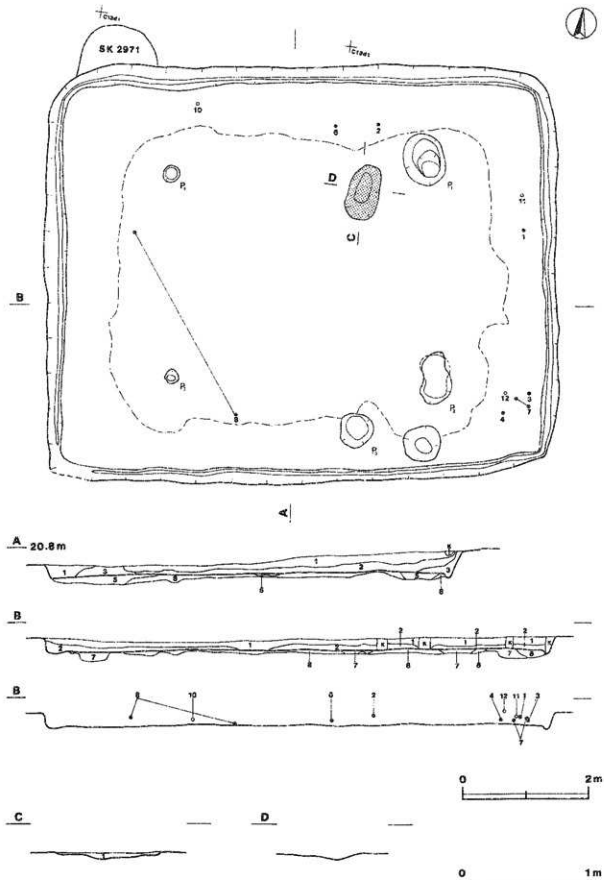
規模と平面形　長軸8.03m，短軸6.52mの隅丸長方形。

主軸方向　N－9°－W

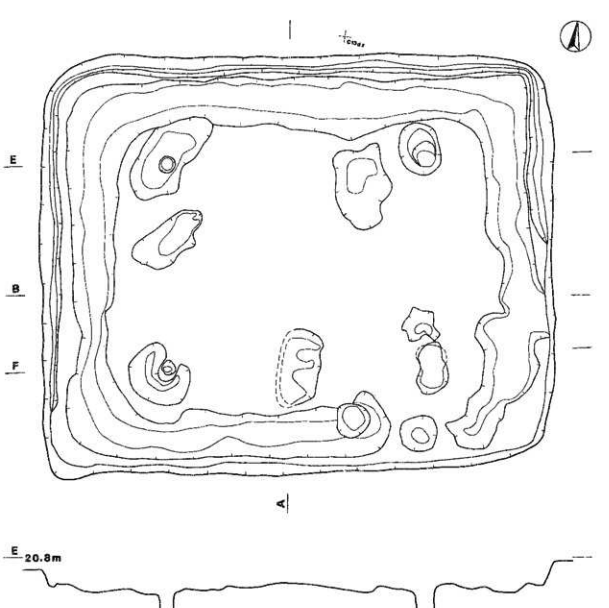
壁　壁高は15～31cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西コーナーを除きほぼ全周し，上幅12cm，下幅３～10cm，深さ７cmで，断面形はU字形をしている。

床　全体的に平坦で，中央部は踏み固められている。



第511図　第495号住居跡実測図



第512図　第495号住居跡掘り方実測図

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1は長径85cm，短径64cmの楕円形で，深さ68cmである。P_2は長径84cm，短径43cmの瓢箪形で，深さ54cmである。P_3は長径24cm，短径20cmの楕円形で，深さ65cmである。P_4は径25cmの円形で，深さ58cmである。いずれも主柱穴と思われる。また，P_5は径53cmの円形で，深さ55cmの出入り口施設に伴うピットである。

炉　中央部やや北東寄りに付設されている。規模は長径75cm，短径47cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめている。炉床にはブロック状の焼土が見られる。

炉土層解説

1　にぶい赤褐色　　ローム粒子少量，焼土小ブロック中量，炭化粒子微量

貯蔵穴　南東コーナー寄りに付設されている。規模は径61cmの円形で，深さ66cmである。

覆土　4層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　色　　ローム粒子多量，ロ・ム中ブロック中量
3　褐　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　褐　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，炭化粒子微量

掘り方　貯蔵穴付近を除いた住居周縁をめぐる溝状の掘り方を検出した。規模は，上幅40～117cm，下幅12～75cm，深さ15cmである。

掘り方土層解説

5　黒褐色　　ローム粒子少量，ロ・ム小ブロック少量，炭化物微量　　7　暗褐色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
6　暗褐色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，炭化物微量　　8　褐　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量

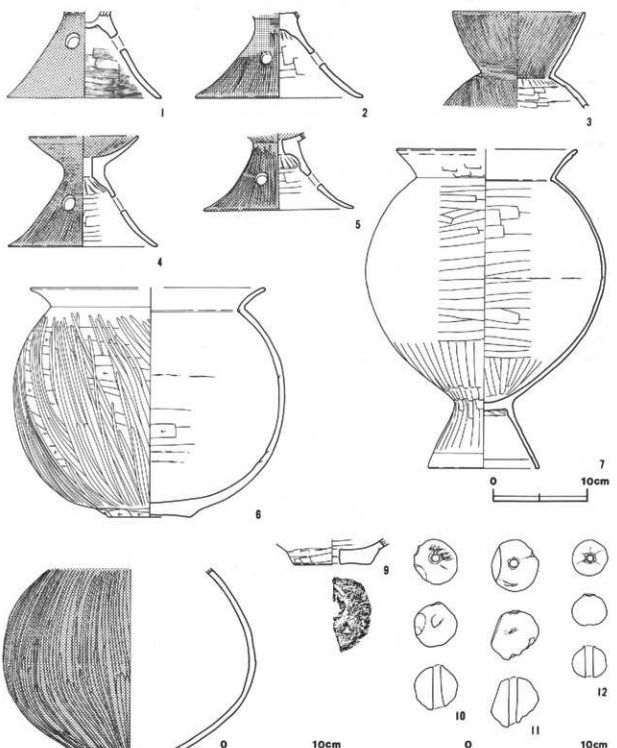
遺物　土師器片223点，土製品3点が覆土から出土している。第513図1の土師器高坏は東壁付近の覆土中層から横位の状態で，2の土師器高坏は北壁付近の覆土上層から逆位の状態で出土している。3の土師器坩，4の土師器器台，7の土師器台付甕は，南東コーナー付近の覆土中層から出土している。6の土師器甕は，北壁付近の覆土中層から正位の状態で出土している。8の土師器甕は，西壁付近の覆土中層から出土した土器片と南壁付近の床面から出土した土器片が接合したものである。9は甑の底部片で，覆土から出土している。10～12の土玉は，北壁付近や東壁付近からそれぞれ出土している。獣骨はウマであるが，本跡に伴うかどうかは不明である。

所見　本跡の時期は，住居跡の形状や出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。

第495号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第513図 1	高　坏 土師器	B（6.9） D　12.4	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔。	脚部外面縦上向のヘラ磨き，内面横方向のハケ目整形。外面赤彩。	砂粒・長石・雲母（外）赤褐色（内）赤褐色　普通	P536　50%　PL67 覆土中層
2	高　坏 土師器	B（8.6） D　13.4	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部に3孔。	脚部外面縦方向のヘラ磨き，内面横方向のヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・長石・雲母・スコリア（外）にぶい赤褐色（内）にぶい褐色　普通	P531　50%　PL67 外面縦横 覆土上層
3	坩 土師器	A（10.4） B（7.7）	体部から口縁部にかけての破片。胎部はくの字状に屈曲し，口縁部はわずかに内傾する。体部内面に輪積痕がある。	外面縦方向のヘラ磨き後，頸部横方向のヘラ磨き。口縁部内面縦方向のヘラ磨き。体部内面横方向のヘラナデ。外面及び口縁部内面赤彩。	砂粒・長石・雲母・スコリア（外）にぶい赤褐色（内）橙色　普通	P532　40%　PL67 覆土中層 内・外面赤彩
4	器　台 土師器	A（8.6） B（8.8） D　11.8	脚部から器受部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。器受部は外傾して立ち上がり，中央に県孔がある脚部に3孔。	脚部外面及び器受部内面縦方向のヘラ磨き，器受部外面横方向のヘラ磨き。脚部内面横方向のヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア（外）にぶい赤褐色（内）明褐色　普通	P533　60%　PL67 覆土中層 外面縦横
5	器　台 土師器	B（6.2） D　12.0	脚部片。脚部はラッパ状に開く。器受部中央の貫通孔は，上から下にあけられている。脚部に3孔。	脚部外面縦方向のヘラ磨き，内面横方向のヘラナデ。赤彩痕跡。	砂粒・石英・雲母・（外）にぶい赤褐色（内）明褐色　普通	P534　60%　PL67 覆土
6	甕 土師器	A（18.6） B　18.2 D　6.6	体部，口縁部，頸欠損。平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。体部内面に輪積痕がある。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，縦方向のヘラ磨き。底部外面不定方向のヘラ削り。外面に煤付着。	砂粒・石英・小礫　灰黄褐色　普通	P535　70%　PL67 覆土中層
7	台付甕 土師器	A（18.8） B　33.4 D　12.0	台部から口縁部にかけての破片。台部はハの字状に開く。体部は上位に最大径を持ち，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面の上位から中位横方向，下位から台部縦方向のヘラ削り後，ヘラナデ。体部内面中位ヘラ削り，台部下端内・外面横ナデ。外面に煤付着。	砂粒・石英・雲母　スコリア　橙色　良好	P536　50%　PL68 覆土中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第513図 8	壺 土師器	B (20.8) C 7.6	底部から体部にかけての破片。わずかに内湾する平底。体部は球形状を呈し、中位に最大径を持つ。	体部外面縦方向のヘラ磨き。底部外面ヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・石英・小礫・雲母（外）にぶい赤褐色（内）にぶい橙色　普通	P537　50%　PL68 床面、覆土中層 内・外面剥離
9	甕 土師器	B (2.0) C 6.0	底部片。平底。底部中央に焼成前の穿孔を有する。	底部内・外面横方向のヘラ削り。	砂粒・石英 にぶい橙色 良好	P538　5% 覆土



第513図　第495号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	備 考
		長さ	幅	孔 径			
第515図10	土 玉	3.6	3.4	0.9	37.6	100	DP520 覆土中層
11	土 玉	4.1	3.9	0.8	46.0?	70	DP511 覆土中層
12	土 玉	3.8	2.5	0.7	18.0	100	DP512 覆土上層

第496号住居跡（第514図）

位置　調査区北西部，C13b4区。

規模と平面形　長軸3.79m，短軸3.09mの隅丸長方形。

長軸方向　N－26°－W

壁　壁高は17～20cmで，外傾して立ち上がる。

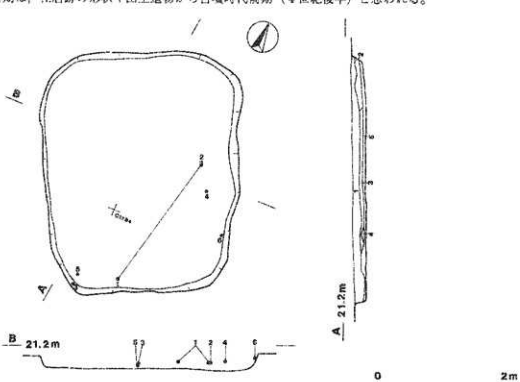
床　全体的に平坦である。

覆土　5層からなり，人為堆積と思われる。

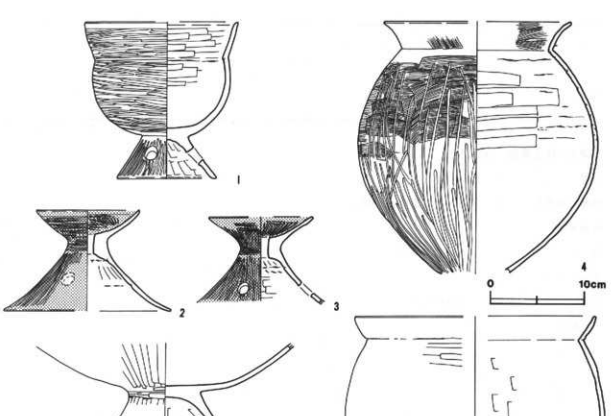
土層断面
1　褐暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量
3　褐　色　焼土粒子微量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　焼土粒子多量
5　明 褐 色　黒色粒子中量

遺物　土師器片23点が覆土から出土している。第515図1の土師器鉢付近は，南壁付近の覆土中層から横位の状態で出土している。2の土師器器台と6の土師器台付甕は，東壁付近の覆土中層からともに出土している。3の土師器器台は，南西コーナーの覆土下層から斜位の状態で出土している。4の土師器台付甕と5の土師器甕は，東壁付近の覆土中層と南西コーナーの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，住居跡の形状や出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）と思われる。



第514図　第496号住居跡実測図



第515図　第496号住居跡出土遺物実測図

第496号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第515図 1	脚付坩 土師器	A〔12.2〕 B　12.5 D　8.0	坩の体部、口縁部一部欠損。脚部はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内彎する。脚部に3孔。	口唇部外面横ナデ。坩部の外面横方向、脚部縦方向のヘラ磨き。坩部内面横方向のヘラナデ。	砂粒・長石・雲母にぶい橙色 良好	P540 70% PL68 覆土中層
2	器　台 土師器	A　8.2 B　8.0 D〔13.2〕	脚部から器受部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎しながら立ち上がる。器受部中央の貫通孔は上から下にあけられている脚部内面に輪積痕がある。	器受部内・外面は横方向、脚部外面は縦方向のヘラ磨き。脚部内面上位は縦方向のヘラナデ。表面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア(外)暗赤色 (内)にぶい橙色 普通	P541 30% PL68 覆土中層
3	器　台 土師器	A〔 8.2〕 B〔 7.1〕	脚部から器受部にかけての破片。脚部は外反して開く。器受部は外傾して口縁部に至る。器受部中央に単孔がある。脚部に3孔。	器受部内面縦方向のヘラ磨き。外面横方向のヘラ磨き後、脚部横方向のヘラ磨き。脚部内面横方向のヘラナデ。表面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア(外)赤褐色 (内)黄橙色 普通	P542 60% PL68 覆土下層
4	台付甕 土師器	A〔19.8〕 B〔26.5〕	体部から口縁部にかけての破片。脚部欠損。体部は上位に最大径を持ち口縁部は外反する。体部内面に輪積痕がある。	口縁部外面は斜め方向、内面は横方向のハケ目整形後、縦方向のヘラ磨き。体部内面横方向のヘラナデ。	砂粒・スコリアにぶい黄橙色 普通	P543 50% PL68 覆土中層
5	甕 土師器	A〔19.0〕 B〔15.5〕	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、下位に最大径を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横方向のヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色 普通	P544 40% PL68 覆土下層
6	台付甕 土師器	B〔10.6〕 D　11.8	台部から体部にかけての破片。台部はハの字状に開き、体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面縦方向のヘラナデ。脚部下端内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母　にぶい黄橙色　普通	P545 10% PL68 覆土中層

第498号住居跡（第516図）

位置　調査区中央部，C14b3区。

規模と平面形　長軸6.41m，短軸5.81mの長方形。

主軸方向　N－9°－W

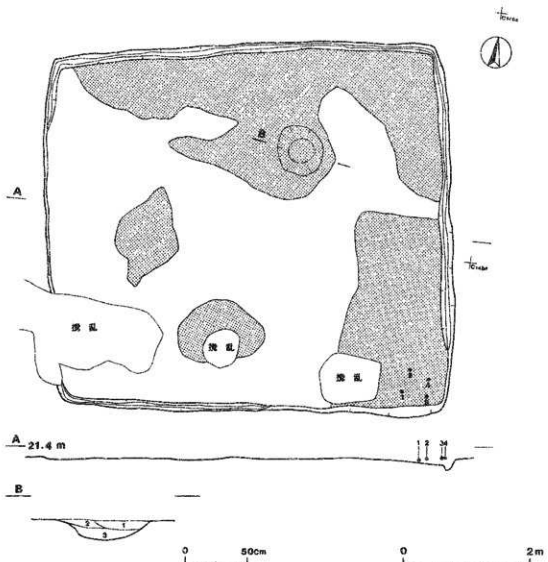
壁　壁高は3～9cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

壁溝　南東コーナー付近と西壁中央部を除いて検出した。上幅16cm，下幅2～8cm，深さ9cmで，断面形はU字形をしている。

床　全体的に平坦である。焼土が広範囲にわたり床面に堆積している。

炉　中央部やや北東寄りに付設されている。規模は長径82cm，短径72cmの楕円形で，床面を15cmほど掘りくぼめている。炉床にはわずかに焼土粒子と焼土ブロックが見られる。

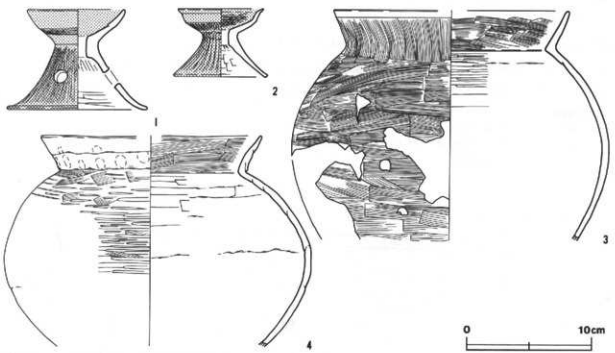
炉土層解説
1　極暗赤褐色　焼土粒子多量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック微量，炭化粒子中量
3　極暗赤褐色　焼土粒子多量



第516図　第498号住居跡実測図

遺物　土師器片33点が覆土から出土している。第517図１の土師器器台は南東コーナーの覆土下層から，２の土師器器台は南東コーナーの覆土中層から正位の状態で出土している。３の土師器甕は，南東コーナーの覆土中層から逆位の状態で出土している。４の土師器甕は，南東コーナーの覆土中層から出土している。

所見　本跡は，床面の広範囲に焼土が広がっていることから焼失家屋と思われる。時期は，住居跡の形状や出土遺物から古墳時代前期（４世紀後半）と思われる。



第517図　第498号住居跡出土遺物実測図

第498号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第517図 1	器台 土師器	A 7.5 B 7.9 D 11.2	器受部一部欠損。脚部はラッパ状に開き，器受部は内湾して立ち上がる器受部中央に単孔がある。脚部に３孔。	器受部の外面上位横ナデ。脚部外面縦方向のヘラ磨き，内面横方向のヘラナデ。表面赤彩。	砂粒・長石・雲母（外）にぶい赤褐色（内）にぶい褐色 普通	P546 95% PL69 覆土下層
2	器台 土師器	A 6.7 B 5.4 D 7.4	器受部一部欠損。脚部はハの字状に開く。器受部中位に稜を持ち，端部は外傾する。器受部中央に単孔がある。脚部に孔はない。	器受部内面横方向のヘラ磨き。器受部外面下位から脚部にかけて縦方向のヘラ磨き。表面赤彩。	砂粒・雲母（外）明赤褐色（内）灰黄褐色 普通	P547 95% PL69 覆土中層
3	甕 土師器	A (18.7) B (18.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球形状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部外面横方向，内面横方向のハケ目整形。体部外面横方向のハケ目整形。内面上位ヘラナデ。	砂粒・長石・スコリア　にぶい赤褐色 普通	P548 20% PL69 覆土中層 外面煤耀
4	甕 土師器	A (17.3) B (16.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は大きく内湾し，算盤玉状を呈する。口縁部は外反する。口縁部外面に輪積痕がある。	口縁部外面に指頭圧痕。内面は横方向のハケ目整形。体部外面はハケ目整形後，横方向のヘラナデ。体部内面横方向のヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母　にぶい黄橙色　良好	P549 30% PL69 覆土中層

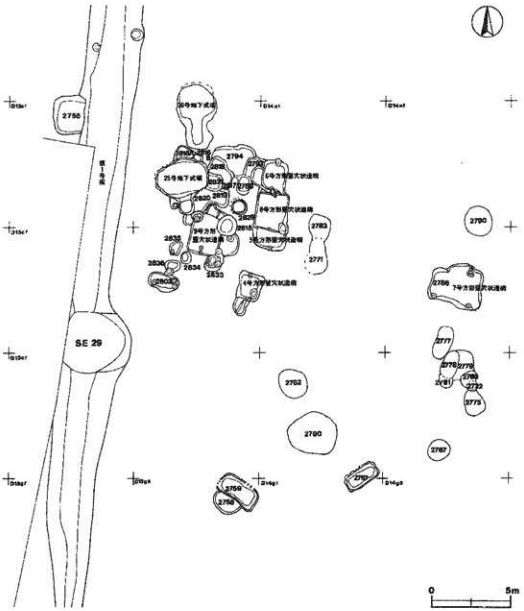
表11　前田村遺跡H区古墳時代住居一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)（長軸×短軸）	壁高(cm)	床面	内部施設 炉跡	内部施設 主柱穴	内部施設 ピット	内部施設 貯蔵穴	内部施設 竈	重複	埋土	出土遺物	時期	備考（重複関係）
485	C12..	N-17°-W	長方形	6.93×6.28	6～21	平坦	全面	2	—	—	—	SI[illegible]	人為	甕、高杯、壺	前期	SI2890より古
486	C12..	N-22°-W	隅丸方形	6.44×6.44	12～47	平坦	3/4	1	—	—	—	重(1)	人為	支脚	後期	SI487より古
488	B12..	N-39°-E	隅丸長方形	5.41×4.77	31～37	平坦	—	…	—	—	1	竈(1)	人為	高杯、壺、甕、土玉	前期	
489	C12..	N-26°-E	方形	4.47×4.47	4～7	平坦	—	—	—	—	—	竈(1)	—	ミニチュア土器	前期	SI933より古
490	B12..	N-23°-W	隅丸方形	3.96×(1.62)	12～20	平坦	一部	—	4	—	1	竈(1)	人為	ミニチュア土器	前期	SI929より古
491	B12..	N-37°-W	(隅丸方形)	(3.52×3.47)	3	平坦	1/4	2	1	—	—	—	—	高杯、壺(同巻一群)、土玉	前期	
492	B13..	N-27°-W	隅丸長方形	6.58×5.63	9～16	平坦	1/4	—	—	—	1	竈[illegible]	自然	土師器(甕)、須恵器(甕)	前期	
494	D12..	N-24°-W	長方形	6.08×4.70	18～20	平坦	—	—	—	—	—	竈(1)	自然	須恵器(甕)、小型壺、埴輪(朝顔)	後期	
495	C13..	N-9°-W	隅丸長方形	8.03×6.52	15～31	平坦	2段	4	—	1	1	竈(1)	人為	甕、高杯、鉢、台付甕、土玉	前期	
496	C13..	N-26°-W	隅丸長方形	3.79×3.08	17～26	平坦	—	—	—	—	—	—	人為	高杯、甕、壺、台付甕	前期	
498	C14..	N-9°-W	長方形	6.41×5.81	3～9	平坦	3/4	—	—	…	—	竈(1)	—	器台、壺、甕	前期	

3　中・近世の遺構と遺物

中世第３号遺構群（第518図）

調査日区で中世遺構と思われるものは，ピット群１か所，方形竪穴状遺構８基，長方形土坑６基，地下式壙４基，井戸２基，堀３条，溝１条である。このうち方形竪穴状遺構５基，地下式壙２基等の中世遺構が集中する調査区南部のC13a9～D14d1のグリッドに囲まれた範囲を第３号遺構群とする。ここでは，第３号遺構群及び検出した遺構と遺物につて記載する。



第518図　第３号遺構群配置図

（1）方形竪穴状遺構

土坑として調査した第2774，2782，2785，2787，2788，2814，2881号土坑及び第487号住居跡については，その形態などから整理の段階で方形竪穴状遺構とした。以下，遺構と出土遺物について記載する。

第4号方形竪穴状遺構〔SK－2774〕（第519図）

位置　調査区南部，D13d0区。

規模と平面形　長軸1.67m，短軸1.40mの隅丸長方形。

長軸方向　N－19°－E

出入り口　南壁西部の壁外に張り出し，確認面から床面に至る3段の階段状の出入り口部を有している。規模は長さ104cm，幅83cmである。

壁　壁高は59cmで，垂直に立ち上がる。

底　平坦で，踏み締められている。南東コーナーには長径66cm，短径41cmの楕円形で，深さ11cmの突出した掘り込みがあり，そこから西側にかけて炭化物が広がっている。

ピット　2か所（P_1～P_2）。P_1は長径23cm，短径20cmの楕円形で，深さ26cmである。P_2は長径24cm，短径21cmの楕円形で，深さ43cmである。いずれも主柱穴と思われる。

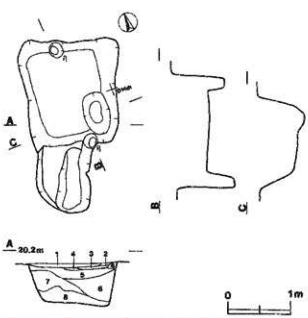
覆土　8層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子少量，炭化粒子中量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子多量，炭化物中量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック多量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
6　褐褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
8　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，炭化物少量

遺物　覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の竪穴状遺構と思われる。



第519図　第4号方形竪穴状遺構実測図

第5号方形竪穴状遺構〔SK－2782〕（第520図）

位置　調査区南部，D14c1区。

重複関係　第8号方形竪穴状遺構に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸2.10m，短軸（1.12）mの隅丸長方形と推定される。

長軸方向　N－8°－E

壁　壁高は27cmで，垂直に立ち上がる。

ピット　2か所（P_1～P_2）。P_1は長径29cm，短径23cmの楕円形で，深さ8cmである。P_2は長径20cm，短径15cmの楕円形で，深さ15cmである。P_1は主柱穴と思われるが，P_2の性格は不明である。

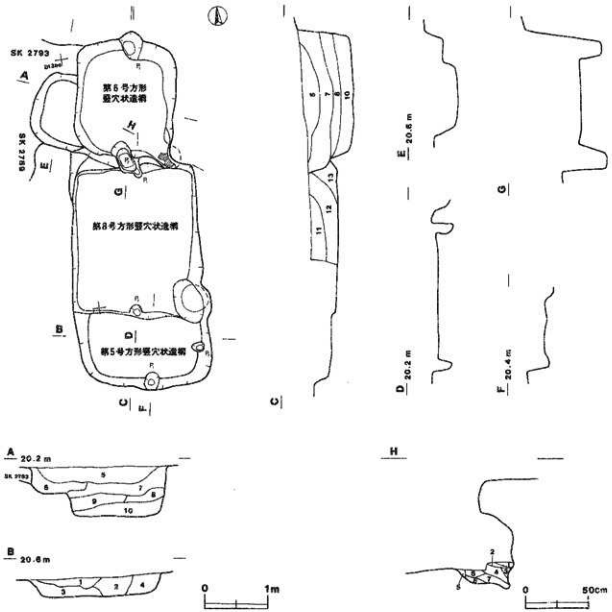
覆土　4層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の竪穴状遺構と思われる。



第520図　第5・6・8号方形竪穴状遺構実測図

第6号方形竪穴状遺構〔SK－2785〕（第520図）

位置　調査区南部，D14b1区。

重複関係　西側部分で第2793号土坑を，南側部分で第8号方形竪穴状遺構を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸2.25m，短軸1.55mの隅丸長方形。

長軸方向　N－12°－E

出入り口　西壁南部の壁外に張り出し，床面から高さ35cmの所に段を持つ。規模は長さ68cm，幅115cmである。

壁　壁高は74～87cmで，垂直に立ち上がる。

床　平坦で，踏み締められている。南東コーナーには奥行き55cm，深さ21cmの突出した掘り込みがあり，灰が広がっている。

掘り込み部土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化物少量
2　黒 褐 色　焼土粒子少量，炭化物多量，灰少量
3　黒 褐 色　焼土粒子少量，炭化物多量
4　暗 灰 色　焼土粒子少量，炭化物少量，灰多量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物中量
6　黒 褐 色　焼土粒子少量，炭化物少量，灰中量
7　暗 赤 褐 色　ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化物少量
8　黒 褐 色　焼土粒子少量，炭化物多量

ピット　2か所（P_1～P_2）。P_1は長径45cm，短径33cmの楕円形で，深さ35cmである。P_2は長径50cm，短径24cmの楕円形で，深さ46cmである。いずれも主柱穴と思われる。

覆土　6層からなり，自然堆積と思われる。

土層解説

5　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子少量，炭化物中量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック多量，焼土粒子少量，炭化物少量
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック多量，焼土粒子微量，炭化物少量
8　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，炭化物中量
9　にぶい褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック多量，炭化物少量
10　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック中量，炭化物少量

遺物　覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の竪穴状遺構と思われる。

第７号方形竪穴状遺構〔ＳＫ－2787〕（第521図）

位置　調査区南部，D14d4区。

重複関係　第2786号土坑の東側を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸2.81m，短軸（2.10）mの隅丸長方形。

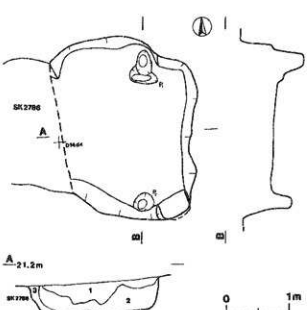
長軸方向　Ｎ－５°－Ｅ

壁　壁高は45～50cmで，垂直に立ち上がる。

床　平坦で，踏み締められている。南東コーナーには長径57cm，短径30cmの楕円形の突出した掘り込みがある。

ピット　2か所（P_1～P_2）。P_1は長径40cm，短径24cmの楕円形で，深さ45cmである。P_2は長径32cm，短径29cmの楕円形で，深さ30cmである。いずれも主柱穴と思われる。

覆土　3層からなり，人為堆積と思われる。



第521図　第７号方形竪穴状遺構実測図

土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量

遺物　遺物は出土していない。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の竪穴状遺構と思われる。

第８号方形竪穴状遺構〔ＳＫ－2788〕（第520図）

位置　調査区南部，D14b1区。

重複関係　本跡は，第５号方形竪穴状遺構の北側を掘り込むため新しく，第６号方形竪穴状遺構に北側を掘り込まれているので古い。

規模と平面形　長軸2.47m，短軸2.07mの長方形。

長軸方向　Ｎ－９°－Ｅ

壁　壁高は10～25cmで，垂直に立ち上がる。

床　平坦で，踏み締められている。南東コーナーには長径72cm，短径44cmの楕円形の突出した掘り込みがある。

ピット　２か所（P_1～P_2）。P_1は長径16cm，短径11cmの楕円形で，深さ28cmである。P_2は径20cmの円形で，深さ23cmである。いずれも主柱穴と思われる。

覆土　３層からなり，自然堆積と思われる。

土層解説
1l　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
12　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
13　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量

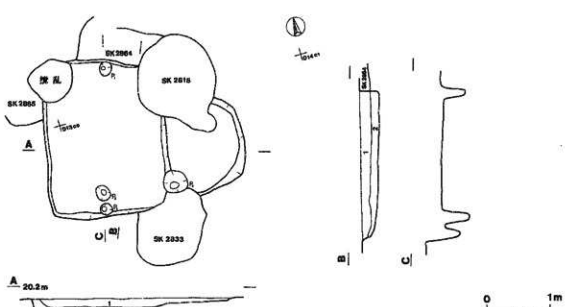
遺物　覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の竪穴状遺構と思われる。

第９号方形竪穴状遺構〔ＳＫ－2814〕（第522図）

位置　調査区南部，D13c0区。

重複関係　第2815号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。また，第2833・2864・2865号土坑との新旧関係は不明である。



第522図　第９号方形竪穴状遺構実測図

規模と平面形　長軸2.50m，短軸1.93mの長方形。

長軸方向　N－12°－E

出入り口　東壁の壁外に張り出し，床面から20cmの所に段を持つ。規模は長さ120cm，幅〔165〕cmで，段から確認面にかけて緩やかなスロープ状を呈している。

壁　壁高は25cmで，垂直に立ち上がる。

床　平坦で，特に中央部が踏み締められている。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1は長径21cm，短径19cmの楕円形で，深さ35cmである。P_2は径19cmの円形で，深さ25cmである。P_1・P_2は主柱穴と思われる。P_3は長径25cm，短径21cmの楕円形，深さ42cmで，性格は不明である。P_4は長径40cm，短径35cmの楕円形，深さ53cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

覆土　2層からなり，自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，砂少量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，砂少量

遺物　覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の竪穴状遺構と思われる。

第10号方形竪穴状遺構〔ＳＫ－2881〕（第523図）

位置　調査区西部，C12j6区。

規模と平面形　長軸2.92m，短軸2.25mの長方形。

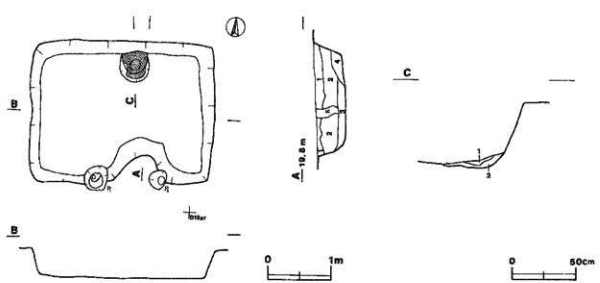
主軸方向　N－2°－W

出入り口　南壁中央部に半円状の掘り残しがある。規模は長さ70cm，幅95cmである。

壁　壁高は42～44cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み締められている。北壁中央部には径47cmの円形で，深さ7cmの掘り込みがあり，灰が広がっている。

掘り込み部土層解説
1　暗褐色　炭化粒子中量，赤土粒子中量
2　黒褐色　灰多量



第523図　第10号方形竪穴状遺構実測図

ピット　2か所（P1～P2）。P1は径37cmの円形で，深さ42cmである。P2は径29cmの円形で，深さ53cmである。いずれも出入り口施設に伴うピットと思われる。

覆土　4層からなり，自然堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量，ローム大ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物　覆土から混入と思われる縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構の形態から中世の竪穴状遺構と思われる。

第11号方形竪穴状遺構〔ＳＩ－487〕（第524図）

位置　調査区西部，Ｃ12ｅ2区。

重複関係　第486号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。また，第132号溝との新旧関係は不明である。

規模と平面形　長軸10.39m，短軸3.91mの長方形。

長軸方向　Ｎ－1°－Ｅ

出入り口　東壁南部に壁外に張り出し，床面から高さ14cmの所に緩斜のある段を持つ。規模は長さ148cm，幅212cmである。

壁　壁高は61～82cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　南壁下と西壁下及び東壁下で検出され，上幅12～20cm，下幅５～13cm，深さ３cmほどで，断面形は皿状をしている。

床　平坦で，出入り口付近を中心に踏み固められている。

ピット　4か所（P1～P4）。P1は径21cmの円形で，深さ21cmである。P2は，径25cmの円形で，深さ17cmである。P3は長径22cm，短径17cmの楕円形で，深さ81cmである。P4は，長径34cm，短径30cmの楕円形で，深さ90cmである。各ピットとも出入り口施設に伴うピットと思われる。

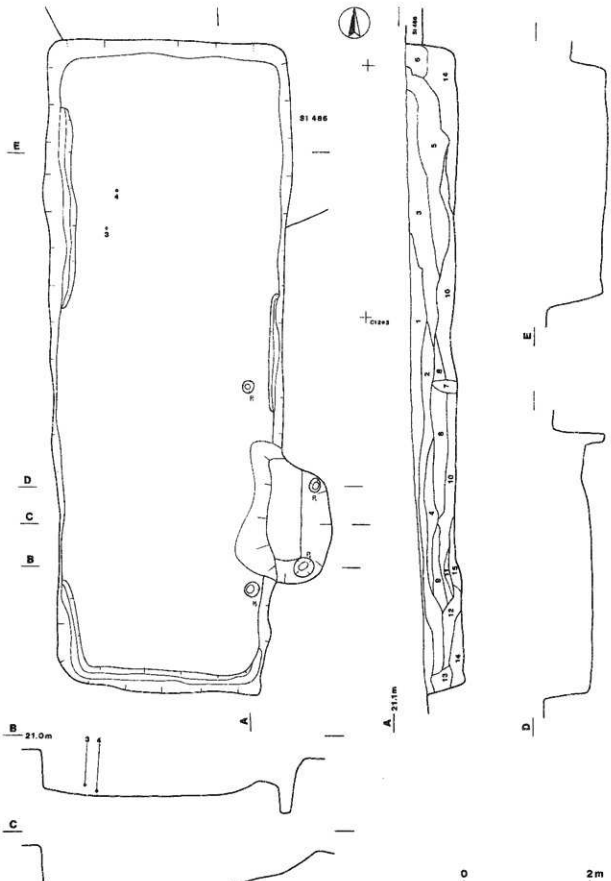
覆土　15層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量
4　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック少量
6　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量
7　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
8　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック微量
9　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，粘土粒子少量
10　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量
11　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，粘土粒子少量
12　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック中量
13　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
14　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
15　黒褐色　ローム粒子中量，粘土粒子多量

遺物　土師器片30点，土師質土器４点と陶器片８点が覆土から出土している。第525図１・２は土師質土器小皿である。３・４の土師質土器小皿は，北側西壁付近の床面から正位の状態で出土している。

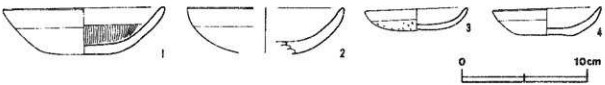
所見　本跡は，遺構の形態や出土遺物から中世の竪穴状遺構と思われる。



第524図　第11号方形竪穴状遺構実測図

第11号方形竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第525図 1	小皿 土師質土器	A 12.6 B 3.7	底部。体部一部欠損。丸底。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。非ロクロ成形。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P505 80% PL69 覆土 内面剥離
2	小皿 土師質土器	A [12.4] B 3.3	底部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。非ロクロ成形。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P506 30% 覆土
3	小皿 土師質土器	A 8.2 B 1.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。非ロクロ成形。	細砂・スコリア にぶい橙色 良好	P507 95% PL69 床面
4	小皿 土師質土器	A 8.6 B 2.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ。非ロクロ成形。	細砂・雲母 橙色 良好	P508 90% PL69 床面 内・外面剥離



第525図　第11号方形竪穴状遺構出土遺物実測図

表12　前田村遺跡H区方形竪穴状遺構一覧表

遺構番号	位置	長軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	確高(cm)	床面	内部施設				覆土	出土遺物	時期	備考(重複関係)
							種類	主柱穴	ピット	出入口ピット				
4	D13₁₀	N-19°-E	隅丸長方形	1.67×1.40	59	平坦	—	2	—	—	人為		中世	
5	D14₁₁	N-8°-E	隅丸長方形	6.58×[4.92]	27	平坦	—	1	1	—	人為		中世	SK2788より古
6	D14₁₁	N-12°-E	隅丸長方形	2.25×1.55	74~87	平坦	—	2	—	—	自然		中世	SK2788より新，SK2793より新，SK2799と重複
7	D14₁₁	N-5°-E	隅丸長方形	2.81×2.10	45~50	平坦	—	2	—	—	人為		中世	SK2786より新
8	D14₁₁	N-9°-E	長方形	2.47×2.07	10~25	平坦	—	2	—	1	自然		中世	SK2782より新，SK2785より古
9	D13₁₀	N-12°-E	長方形	2.50×1.93	25	平坦	—	2	1	2	自然		中世	SK2815より古，SK2833，2864，2865と重複
10	C12₁₁	N-2°-E	長方形	2.92×2.25	42~44	平坦	—	—	—	4	自然		中世	
11	C12₁₁	N-1°-E	長方形	10.39×3.91	61~82	平坦	—	—	—	—	人為	皿，小皿	中世	SI486より新，SD132と重複

（2）長方形土坑

H区では，中世の地下式壙及び長方形の竪穴状遺構が確認されている。これらの遺構の近くから，平面形が長方形の土坑が，６基検出されている。これらは前者と覆土が近似することから中世の土坑と思われるが，地下式壙や竪穴状遺構との関連を考慮すると，土坑のいくつかは中世の墓壙の可能性もある。ここでは，検出された長方形土坑について記載する。

第2756号土坑（第526図）

位置　調査区南部，D13ａｓ区。

重複関係　第１号堀と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長軸2.40m，短軸(1.95m)の隅丸長方形と推定され，深さ66cmである。

長軸方向　N－1°－E

壁　外傾して立ち上がる。

底　平坦である。

覆土　４層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，炭化物微量
2　暗褐色　　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック中量
3　暗褐色　　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック少量
4　暗褐色　　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック中量

遺物　覆土から縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないため，時期及び性格は不明である。

第2759号土坑（第526図）

位置　調査区南部，D13ｇｏ区。

重複関係　第2758号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸2.68m，短軸1.37mの隅丸長方形で，深さ50cmである。

長軸方向　N－52°－W

壁　厚さ２～９cmの粘土貼りで，外傾して立ち上がる。

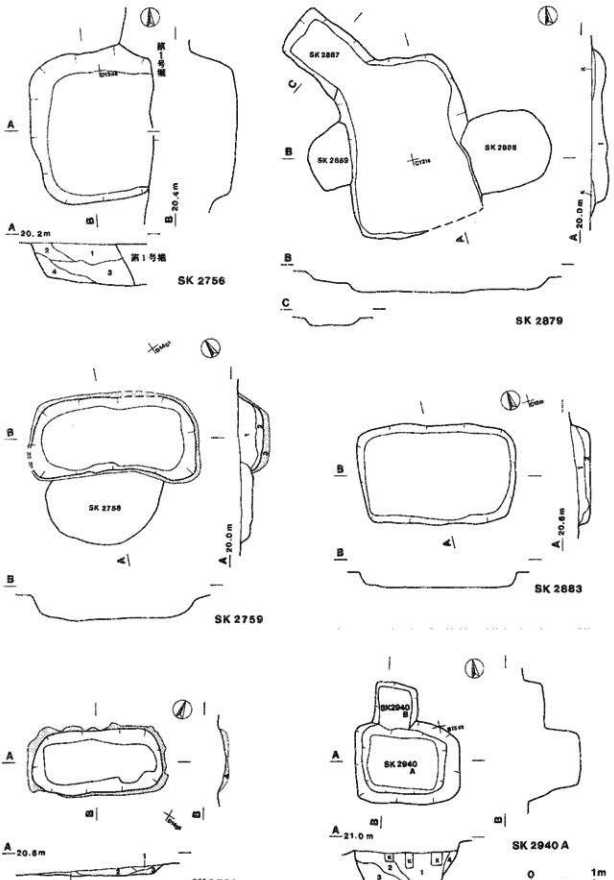
床　厚さ９cmの粘土貼りで，平坦である。

覆土　２層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説
1　褐　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量
2　褐　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　黄褐色　　粘土粒子多量

遺物　覆土から縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構全体を粘土で貼っていることから墓壙の可能性がある。



第526図　第2756・2759・2761・2879・2883・2940A号土坑実測図

第2761号土坑（第526図）

位置　調査区南部，D14 f2区。

規模と平面形　長軸2.18m，短軸1.12mの隅丸長方形で，深さ17cmである。

長軸方向　N－56°－E

壁　厚さ1～15cmの粘土貼りで，外傾して立ち上がる。

床　厚さ4～8cmの粘土貼りで，平坦である。

覆土　3層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒褐色　　ローム粒子中量，黒色粒子多量
2　暗褐色　　ローム粒子多量，粘土粒子少量
3　黒褐色　　ローム粒子少量，黒色粒子多量，粘土粒子少量
4　黄褐色　　粘土粒子多量

遺物　覆土から縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定する遺物は出土していないが，遺構全体を粘土で貼っていることから墓壙の可能性がある。

第2879号土坑（第526図）

位置　調査区西部，C12 i6区。

重複関係　第2887・2888・2889号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長軸2.85m，短軸1.90mの隅丸長方形で，深さ30cmである。

長軸方向　N－4°－W

壁　外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

覆土　単一層であり，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック少量

遺物　遺物は出土していない。

所見　遺物が出土していないため，時期及び性格は不明である。

第2883号土坑（第526図）

位置　調査区西部，C12 f9区。

規模と平面形　長軸2.46m，短軸1.57mの隅丸長方形で，深さ25cmである。

長軸方向　N－73°－W

壁　外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

覆土　2層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒褐色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
2　極暗褐色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック中量

遺物　遺物は出土していない。

所見　遺物が出土していないため，時期及び性格は不明である。

第2940A号土坑（第526図）

位置　調査区北東部，B15e1区。

重複関係　第2940B号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長軸1.66m，短軸1.32mの隅丸長方形で，深さ85cmである。

長軸方向　N－74°－W

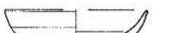
壁　外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

覆土　4層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
4　黒褐色　ローム粒子多量



第527図　第2940A号土坑出土遺物実測図

遺物　覆土から縄文土器片と土師質土器片1点が出土している。第527図1は土師質土器小皿である。

所見　出土遺物が少ないが，中世のものと思われる。

第2940A号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第527図 1	小皿 土師質土器	A〔11.2〕 B 3.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底，体部は内湾しながら立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。非ロクロ成形。	砂粒・雲母・スコリア(外)橙色 (内)にぶい赤褐色 普通	P608 30% 覆土

表13　前田村遺跡H区中世土坑一覧表

土坑番号	位置	長軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	規模 深さ(cm)	壁断	底面	覆土	出土遺物	備考(重複関係)
2756	D13ₐₒ	N-1°-E	〔隅丸長方形〕	2.40 × 〔1.95〕	66	外傾	平坦	人為		SD128と重複
2759	D13ₐₒ	N-52°-W	隅丸長方形	2.68 × 1.37	30	外傾	平坦	人為		SK2758より古
2761	D14ₐₒ	N-56°-E	隅丸長方形	2.18 × 1.12	17	外傾	平坦	人為		
2879	C12ₐₒ	N-4°-W	隅丸長方形	2.85 × 1.90	30	外傾	平坦	人為		SK2887，2888，2889と重複
2883	C12ₐₒ	N-73°-W	隅丸長方形	2.46 × 1.57	25	外傾	平坦	人為		
2940A	B15ₐₒ	N-74°-W	隅丸長方形	1.66 × 1.32	85	外傾	平坦	人為	小皿	SK2940Bと重複

表14　前田村遺跡H区その他の土坑一覧表

土坑番号	位置	長軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考（重複関係）
2758	D14ｽｴ	N-58°-W	不整楕円形	1.82 × (1.13)	18	外傾	平坦	自然		SK2759より新
2777	D14ｽｴ	N-22°-E	長楕円形	2.10 × 1.00	20	緩斜	平坦	自然		
2786	D14ｽｴ	N-10°-E	（台　形）	(2.00) × (0.81)	55	垂直	平坦	自然		SK2787より古
2789	D13ｽｳ	N-0°	（楕円形）	1.24 × (0.84)	29	外傾	平坦	—		SK2793, 2794, 2817と重複
2793	D14ｽｴ	N-18°-E	〔方　形〕	(1.39) × (1.13)	31	緩斜	平坦	人為		SK2785より古, SK2794より古, SK2789と重複
2794	D13ｽｴ	N-82°-W	（不定形）	(2.77) × (2.02)	23	緩斜	平坦	自然		SK2789, 2793, 2817, 2818と重複
2815	D13ｽｳ	—	円　形	1.33 × 1.25	87	外傾	平坦	人為		SK2814と重複
2816A	D13ｽｳ	N-80°-W	（長方形）	(1.23) × (0.82)	44	外傾	平坦	—		SK2813, 2816Bと重複
2816B	D13ｽｳ	N-73°-W	（方　形）	(0.54) × (0.45)	21	緩斜	平坦	—		SK2813, 2816Aと重複
2817	D13ｽｳ	N-12°-E	（不整長円形）	(1.31) × (0.66)	19	緩斜	平坦	人為		SK2821より新, SK2793, 2794, 2818, 2819と重複
2818	D13ｽｴ	N-18°-E	〔隅丸方形〕	(1.19) × (1.10)	—	—	—	—		SK2794, 2813, 2817, 2821と重複
2819	D13ｽｴ	N-13°-E	〔隅丸台形〕	(1.05) × (0.97)	40	外傾	平坦	人為		SK2817, 2820, 2821と重複
2820	D13ｽｴ	—	不　明	(1.60) × (1.04)	45	緩斜	平坦	—		SK2813, 2814, 2819, 2821, 2864, 2865と重複
2821	D13ｽｴ	N-19°-E	（隅丸長方形）	(1.05) × (0.95)	62	緩斜	平坦	自然		SK2817より古, SK2818より古, SK2819・2820と重複
2825	D13ｽｴ	N-77°-E	長楕円形	2.50 × 1.21	31	緩斜	平坦	人為		
2833	D13ｽｴ	N-18°-E	〔楕円形〕	(1.14) × (1.05)	52	垂直	平坦	人為		SK2814と重複
2864	D13ｽｳ	N-85°-W	（不定形）	(0.85) × (0.70)	14	緩斜	平坦	—		SK2814と重複
2865	D13ｽｳ	—	不　明	(0.70) × (0.69)	20	緩斜	平坦	—	土師質土器小皿	SK2813, 2814, 2820と重複
2887	C12ｽｴ	N-33°-W	〔長方形〕	(1.27) × 0.87	12	緩斜	平坦	—		SK2879と重複
2888	C12ｽｴ	—	不整円形	(1.33) × 1.25	17	緩斜	平坦	—		SK2879と重複
2889	C12ｽｴ	N-19°-E	不定形	1.09 × (0.76)	21	緩斜	平坦	—		SK2879と重複
2890	C12ｽｴ	N-7°-E	楕円形	1.51 × 1.07	26	外傾	平坦	人為		
2904	C14ｽｳ	N-83°-E	卵　形	1.74 × 1.52	19	外傾	平坦	自然		
2929	C13ｽｴ	N-42°-W	隅丸方形	1.78 × 1.30	21	外傾	平坦	人為		
2930	B15ｽｴ	N-12°-W	隅丸方形	1.99 × 1.92	23	緩斜	平坦	人為		SK2936と重複
2940B	B15ｽｴ	N-17°-E	方　形	0.74 × 0.69	31	外傾	平坦	—		SK2940Aと重複
2948	C12ｽｴ	—	円　形	1.05 × 0.97	40	外傾	平坦	自然		
2955	B15ｽｴ	N-76°-W	長方形	(7.10) × 1.20	52	外傾	平坦	人為		SK2956と重複, 下層に焼土物を多量に含む
2956	B15ｽｴ	N-26°-E	〔楕円形〕	1.12 × (0.68)	15	—	平坦	自然		SK2930・2955と重複
2962	B15ｽｳ	—	円　形	1.36 × (1.29)	36	外傾	平坦	自然		
2963	B15ｽｴ	N-71°-W	不整楕円形	2.16 × 1.45	58	垂直	平坦	自然		
2968	A15ｽｳ	—	円　形	1.23 × 1.14	66	垂直	平坦	自然		
2969	C13ｽｴ	N-46°-E	楕円形	1.74 × 1.12	18	緩斜	平坦	自然		
2972	C13ｽｴ	N-32°-W	楕円形	0.97 × 0.81	56	外傾	平坦	自然		SI495と重複
2973	C12ｽｴ	N-4°-E	楕円形	2.12 × 1.47	21	緩斜	平坦	人為		
2975	B15ｽｴ	N-58°-W	楕円形	1.74 × 1.03	12	垂直	平坦	自然		
2977	B13ｽｳ	N-8°-W	不整楕円形	1.45 × 0.94	30	外傾	平坦	人為		
2980	B15ｽｴ	N-8°-E	〔隅丸方形〕	1.25 × (0.86)	69	垂直	平坦	自然		
2981	B15ｽｴ	N-87°-E	卵　形	1.82 × 0.68	29	外傾	凹凸	人為		

（3）地下式壙

H区では，地下式壙4基を検出した。

第25号地下式壙〔SK－2813〕（第528図）

位置　調査区南部，D13b9区。

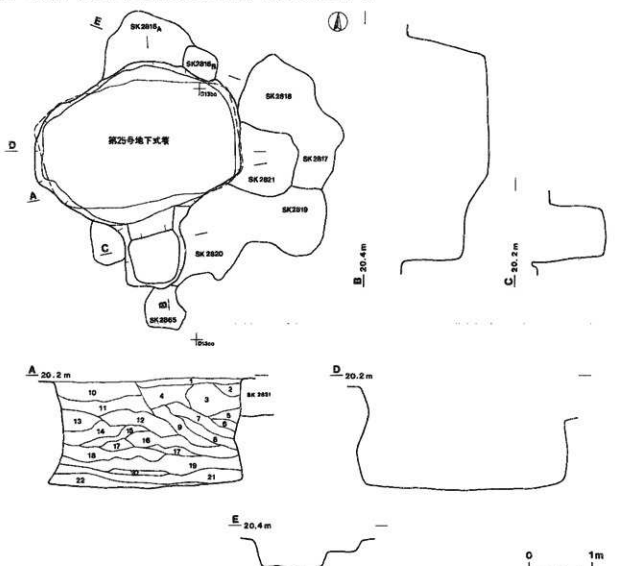
重複関係　第2820・2821号土坑を掘り込んでおり，本跡が新しい。また，第2816A・B，2817，2818，2819，2865号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

主軸方向　N－8°－E

竪坑　上面は，長径0.97m，短径0.87mの不整楕円形で，深さ1.12mである。底面は，長径0.80m，短径0.77mの不整楕円形である。主室に向かって，スロープ状になっている。

主室　底面は，長径3.11m，短径1.94mの不整楕円形で，平坦である。常総粘土層まで掘り込まれており，確認面から底面までの深さは，1.61mである。

壁　竪坑は，ほぼ垂直に立ち上がる。主室は，内傾して立ち上がる。



第528図　第25号地下式壙実測図

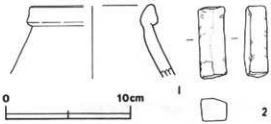
覆土　22層からなる。1～18層には，ロームブロックが含まれ，人為的に埋め戻されたものと思われる。19～22層は，天井部の崩落土と思われる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子微量
3	褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，黒色粒子多量
4	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，ローム大ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
5	褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，黒色粒子中量
6	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量，ローム大ブロック微量
7	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量
9	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック微量，ローム大ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量，炭化粒子微量
11	極暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
12	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック微量，ローム大ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
13	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
14	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック少量，焼土粒子微量
15	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
16	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
17	褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック中量，黒色粒子少量
18	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック中量
19	褐色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック多量，黒色粒子微量
20	褐色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック少量，黒色粒子少量
21	褐色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック中量，粘土粒子少量
22	褐色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，粘土粒子中量

遺物　覆土から砥石，陶器甕，土師質土器片や縄文土器片が出土している。第529図1は陶器甕，2は凝灰岩の砥石である。

所見　出土遺物や遺構の形態から中世のものと思われる。



第529図　第25号地下式壙出土遺物実測図

第25号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第529図 1	甕 陶器	A〔9.8〕 B〔5.7〕	体部から口縁部にかけての破片。口唇部は二重口縁で，断面は三角形を呈している。	外面ロクロナデ。体部外面に自然釉がかかる。	砂粒・石英・スコリア 褐灰色 普通	P597 15% 覆土 常滑

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	計測値 幅(cm)	計測値 厚さ(cm)	計測値 重量(g)	石質	備考
第529図2	砥石	(5.7)	2.2	1.9	(38.0)	凝灰岩	Q508 覆土

第26号地下式壙〔SK－2830〕(第530図)

位置　調査区南部，D13a9区。

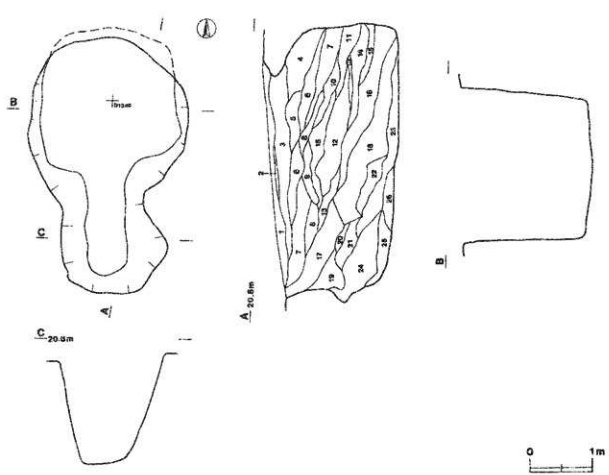
主軸方向　N－3°－W

竪坑　上面は，長径2.05m，短径1.70mの不整楕円形で，深さ1.68mである。底面は，長軸1.68m，短軸0.64mの長方形である。主室の底面との段差はなく平坦である。

主室　底面は，長軸2.22m，短軸2.20mの方形で，平坦である。粘土層まで掘り込まれており，確認面から底面までの深さは，2.00mである。

壁　竪坑は，外傾して立ち上がる。主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　26層からなる。12・14・16・18・22・26層は天井部が崩落したものと思われる。他の土層はロームブロックを多量に含むことから，人為的に埋め戻されたものと思われる。



第530図　第26号地下式壙実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
2	褐　色	焼土粒子微量，炭化粒子微量，黒色粒子多量
3	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
4	褐　色	ローム大ブロック微量，黒色粒子中量
5	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック少量，炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック少量
7	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム大ブロック中量
10	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック微量
11	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック中量
12	褐　色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック少量，黒色粒子少量
13	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量
14	褐　色	ローム大ブロック多量，黒色粒子中量
15	黒褐褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子微量★
16	明褐色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック多量
17	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック微量
18	明褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック多量，黒色粒子微量
19	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量
20	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック少量
21	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック中量
22	明褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック多量
23	暗褐色	ローム粒子微量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック少量
24	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック少量，粘土粒子微量
25	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック中量，粘土粒子微量
26	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，粘土粒子多量

遺物　覆土から土師器土器片や縄文土器片が出土している。

所見　時期を判定できる出土遺物はないが，遺構の形態から中世のものと思われる。

第27号地下式壙〔SK－2944〕(第531図)

位置　調査区北東部，B15e1区。

重複関係　第137号溝と重複しているが，新旧関係は不明である。

主軸方向　N－9°－E

竪坑　上面は，長径0.99m，短径0.92mの不整円形で，深さ1.91mである。底面は，長径0.97m，短径0.85mの不整楕円形である。主室への通路は，やや狭くなっており天井部が残っている。主室の底面との段差はなく平坦である。

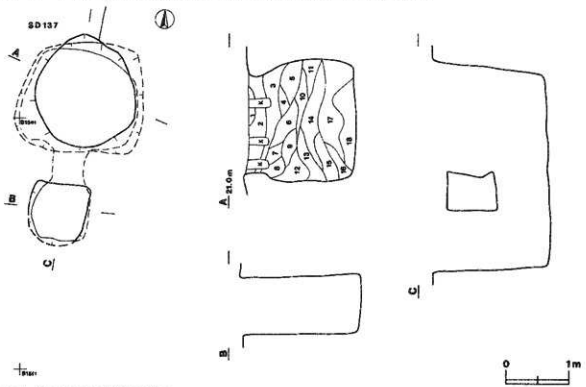
主室　底面は，長径1.84m，短径1.52mの不整楕円形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，1.80mである。天井部が，一部残存している。

壁　竪坑と主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　18層からなる。15～18層は天井部が崩落したものと思われる。他の土層はローム ブロックを多量に含むことから，人為的に埋め戻されたものと思われる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック多量
4	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック少量
5	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック多量
6	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子微量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
8	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量
9	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
10	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック少量
11	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量
12	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック微量
13	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック少量
14	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
15	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック中量
16	黒褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック多量
17	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック中量
18	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量，ローム大ブロック多量



第531図　第27号地下式壙実測図

遺物　遺物は出土していない。

所見　出土遺物はないが，遺構の形態から中世のものと思われる。

第28号地下式壙〔ＳＫ－2947〕(第532図)

位置　調査区北東部，Ａ15j7区。

主軸方向　Ｎ－16°－Ｅ

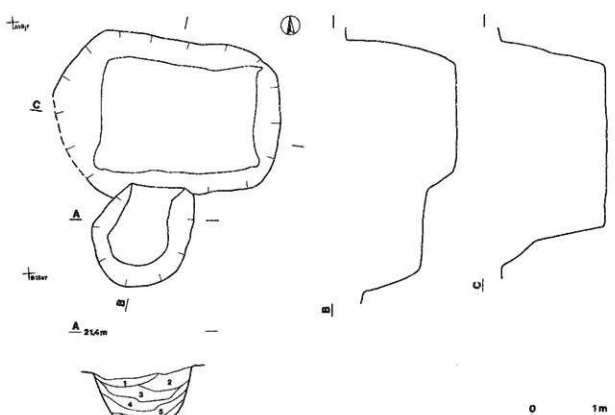
竪坑　上面は，長径１.63m，短径1.53mの不整円形で，深さ0.88mである。底面は，長径1.29m，短径0.95mの楕円形である。主室に向かってわずかに傾斜し，0.4mほどの段差が見られる。

主室　底面は，長軸2.60m，短軸1.84mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，1.74mである。

壁　竪坑と主室は，外傾して立ち上がる。

覆土　６層からなる。４～６層は天井部が崩落したものと思われる。他の土層はロームブロックを含むことから，人為的に埋め戻されたものと思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
6　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量



第532図　第28号地下式壙実測図

遺物　遺物は出土していない。

所見　出土遺物はないが，遺構の形態から中世のものと思われる。

表15　前田村遺跡H区地下式壙一覧表

地下式壙番号	位置	長軸方向	平面形と規模(m)						壁面	底面	覆土	出土遺物	備考(重複関係)
				底面		底面		深さ					
				平面形	長径(幅)×短径(幅)	平面形	長径(幅)×短径(幅)						
25	D13$_{44}$	N-8°-W	竪坑	不整楕円形	0.97×0.87	不整楕円形	0.80×0.77	1.12	垂直	平坦			SK2820より新，2821より新．
			主室			不整楕円形	3.11×1.94	1.61	内傾	平坦	人為	砥石，陶器塊，土師質土器片	SK2816A-B～2819，2865と重複
26	D13$_{49}$	N-3°-W	竪坑	不整楕円形	2.05×1.70	長方形	1.68×0.64	1.68	外傾	平坦			
			主室			方形	2.22×2.20	2.00	垂直	平坦	人為		
27	B15$_{41}$	N-9°-E	竪坑	不整楕円形	0.99×0.92	不整楕円形	0.97×0.85	1.91	垂直	平坦			
			主室			不整楕円形	1.84×1.52	1.80	垂直	平坦	人為		SD137と重複
28	A15$_{17}$	N-16°-E	竪坑	不整楕円形	1.63×1.53	楕円形	1.20×0.95	0.88	外傾	平坦			
			主室			長方形	2.60×1.84	1.74	外傾	平坦	人為		

（4）井戸

H区では，井戸２基を検出した。調査では第26・27号井戸としたが，前回の調査・整理で井戸としたものが増加したため，第29・30号井戸と改称した。

第29号井戸〔ＳＥ26〕（第533図）

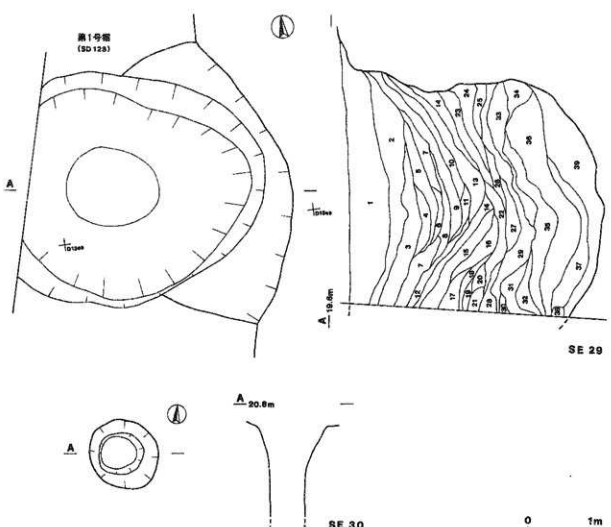
位置　調査区南部，D13ds区。

重複関係　第１号堀を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と形状　掘り方は，長径（4.20）m，短径（3.65）mの楕円形と推定され，深さ4.03mである。底面は皿状で，形状は瓢箪形である。

覆土　39層からなる。ロームブロックを含む層が多いことから，人為的に埋め戻されたものと思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
4　黒褐色　ローム粒子微量，炭化物微量
5　暗褐色　ローム粒子少量
6　黒褐色　ローム粒子少量，炭化物少量，灰褐色粘土粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
8　暗褐色　ローム粒子微量，灰褐色粘土粒子微量

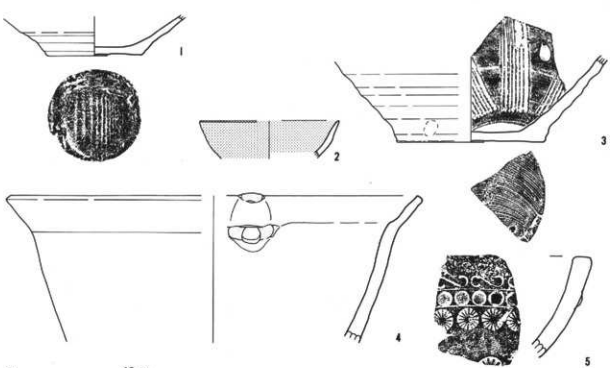


第533図　第29・30号井戸実測図

9　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量
11　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，炭化物微量
12　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
13　黒　褐　色　ローム粒子微量，ローム小ブロック微量，炭化物微量
14　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック少量
15　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量
16　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，灰褐色粘土粒子中量，灰褐色粘土小ブロック多量
17　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，灰褐色粘土粒子少量，灰褐色粘土ブロック多量
18　黒　褐　色　ローム粒子微量，炭化物微量
19　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量
20　黒　褐　色　ローム粒子多量，炭化物多量
21　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量
22　黒　褐　色　ローム粒子微量，炭化物微量，灰褐色粘土粒子微量
23　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量
24　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，灰褐色粘土粒子少量，灰褐色粘土小ブロック多量，
灰褐色粘土中ブロック中量
25　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，灰褐色粘土小ブロック中量
26　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，灰褐色粘土小ブロック少量
27　暗　褐　色　ローム粒子少量，灰褐色粘土粒子少量
28　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量，灰褐色粘土小ブロック多量，
灰褐色粘土中ブロック少量
29　黒　褐　色　ローム粒子微量，灰褐色粘土粒子微量
30　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，灰褐色粘土小ブロック多量，灰褐色粘土中ブロック少量
31　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，灰褐色粘土小ブロック多量，灰褐色粘土中ブロック中量，
灰褐色粘土大ブロック中量
32　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，灰褐色粘土小ブロック多量，灰褐色粘土中ブロック中量
33　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，灰褐色粘土小ブロック多量，灰褐色粘土中ブロック中量
34　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，灰褐色粘土小ブロック多量，灰褐色粘土中ブロック少量
35　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，灰褐色粘土小ブロック多量，灰褐色粘土中ブロック中量，
灰褐色粘土大ブロック微量
36　灰　黄　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，灰褐色粘土小ブロック多量
37　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，灰褐色粘土粒子少量，灰褐色粘土小ブロック多量
38　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，灰褐色粘土粒子少量，灰褐色粘土小ブロック多量，灰褐色粘土中ブロック中量
39　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，灰褐色粘土小ブロック多量，灰褐色粘土中ブロック中量，
灰褐色粘土大ブロック少量

遺物　覆土から瀬戸・美濃系陶器の擂鉢や小皿（室町時代），土師質土器の内耳鍋や鉢が出土している。第534図5は瓦器の火舎で，口縁部に2条の線刻，横位のS字文，貼付の円形浮文や押印を施している。また，底面から木杭2本が垂直に刺した状態で出土している。

所見　遺物が覆土から出土しているため時期を判定できないが，中世のものと思われる。



第534図　第29号井戸出土遺物実測図

第29号井戸出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・硬度	備　考
第534図 1	鉢 土師質土器	B (3.1) C 7.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外経する。	底部回転糸切り後，ナデ。	砂粒・石英・スコリア 橙色 普通	P.562 10% 覆土
2	小　皿 灰釉陶器	A [11.0] B (3.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	内・外面に釉が施されている。	緻密・白色粒子 オリーブ黄色 良好	P.565 10% 覆土 瀬戸・美濃系
3	椀　体 部　分	B (6.8) C [11.6]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。体部外面下位に指頭圧痕がある。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面には7条一単位の櫛目が施されている。底部回転糸切り。	砂粒・石英 灰赤色 良好	P.564 10%　P.170 覆土 瀬戸・美濃系
4	内耳鍋 土師質土器	A [31.6] B 12.6	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。内耳欠損。	口縁部内・外面ロクロナデ。二次焼成を受けている。	砂粒・雲母・石英・長石・小礫 橙色　普通	P.563 10% 覆土 内・外面磨耗

第30号井戸〔ＳＥ27〕(第533図)

位置　調査区北東部，Ｂ15ｃ1区。

重複関係　第137号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と形状　掘り方は，長径１.19m，短径1.03mの楕円形である。形状は，0.46mの深さまで傾斜を持ち，そこから下はほぼ垂直に掘り込まれ，湯斗状をしている。深さ1.56mまで調査したが，それ以下は未完掘である。

遺物　遺物は出土していない。

所見　遺物は出土してないため，時期は不明である。

（5）堀

第128・129号溝として調査した遺構は，整理の段階で堀として扱うことにした。以下，検出した堀と出土遺物について記載する。

第1号堀〔SD－128〕（付図・第535図）

位置　調査区中央部，B13～D13区。

重複関係　第29号井戸に掘り込まれており，本跡が古い。また，第2号堀Aと同時期で第2号堀Bより新しい。第130号溝，第2756号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状　規模は長さ（88.7）m，上幅1.55～4.00m，下幅1.55～2.15m，深さ0.60～1.37mである。断面形は箱薬研である。

方向　南北方向（N－5°－E）にほぼ直線的に延びているが，さらに南側は調査区域外に延びるものと思われる。

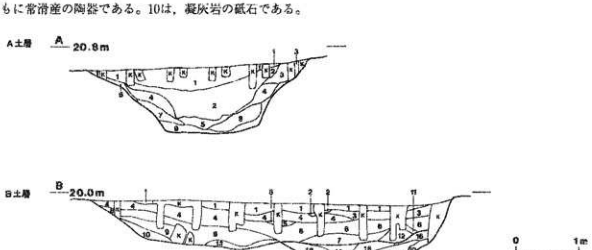
底　平坦である。

覆土　第13層までは，第1号堀の土層である。また，第14層から第20層までが第2B号堀の土層である。第1号堀は人為堆積と思われる。

A土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　黒褐色　ローム粒子微量，炭化物微量
3　黒褐色　ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量

B土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック多量，焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック多量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック多量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック多量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック多量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
8　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック中量
9　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
10　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック微量
11　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
6　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量
7　褐　色　ローム粒子多量
8　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック多量
9　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
12　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック多量
13　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
14　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量
15　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック多量
16　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック中量
17　褐　色　ローム粒子微量，ローム中ブロック中量
18　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，ローム中ブロック多量
19　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック多量
20　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック多量

遺物　第536図1～7は土師質土器の小皿で，1～4は平底，5～7は丸底である。8は壺，9は片口鉢で，ともに常滑産の陶器である。10は，凝灰岩の砥石である。

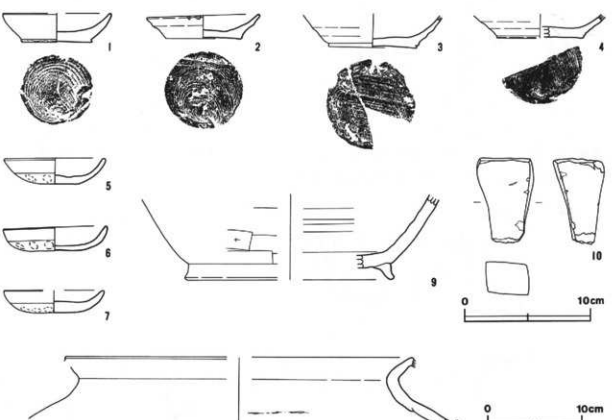


第535図　第1号堀実測図

所見　本跡の時期は，出土遺物から中世（13世紀前葉）と思われる。

第１号堀出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第536図 1	小　皿 土師質土器	A〔 8.4〕 B　2.3 C　5.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P552　60%　PL69 覆土
2	小　皿 土師質土器	A　8.9 B　2.0 C　6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部と口縁部の境に稜を持ち，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面及び体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P553　70%　PL69 覆土
3	小　皿 土師質土器	B〔 2.7〕 C　7.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎する。	底部回転糸切り後，ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 浅黄橙色　普通	P555　50% 覆土
4	小　皿 土師質土器	B〔 1.9〕 C〔 6.8〕	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎する。	底部回転糸切り後，ヘラナデ。	細砂・長石・雲母 橙色 良好	P556　30% 覆土
5	小　皿 土師質土器	A　7.9 B　2.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。体部外面に指頭圧痕がある。	口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。非ロクロ成形。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P550　99%　PL69 覆土
6	小　皿 土師質土器	A　8.2 B　2.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。体部外面に指頭圧痕がある。	口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。非ロクロ成形。	細砂・雲母・長石 明赤褐色 良好	P551　70%　PL69 覆土
7	小　皿 土師質土器	A〔 7.8〕 B　2.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。底部内面は内彎にわずかに膨らむ。体部外面に指頭圧痕がある。	口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。非ロクロ成形。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P554　65% 覆土



第536図　第１号堀出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第536図 8	壺 胴部	A〔36.4〕 B〔7.5〕	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に屈曲し，口縁は外反する。	体部内面ロクロナデ。体部外面に自然釉がかかる。	砂粒・石英・小礫 灰褐色 (釉)オリーブ褐色 良好	P557 5% 覆土 常滑13世紀
9	片口鉢 胴部	B〔6.8〕 D〔16.6〕 E 1.3	高台部から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下位横方向のヘラ削り，内面ヘラナデ。底部は切り離し後，高台貼り付け。高台部ロクロナデ。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P558 5% PL69 覆土 常滑13世紀

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第536図10	砥石	(6.8)	4.5	4.0	(137.0)	凝灰岩	Q501 覆土

第２Ａ・Ｂ号堀〔ＳＤ－129〕(付図・第537図)

位置 調査区北部，Ｂ13～14区。

重複関係 第１号堀と第２Ａ号堀は同時期と思われる。また，第２Ｂ号堀は第２Ａ号堀より古いと思われる。

規模と形状 堀Ａの規模は長さ〔33.7〕m，上幅3.60～4.60m，下幅2.40～2.90m，深さ0.90～0.95mである。堀Ｂの規模は下幅1.00～2.00mである。断面形はともに箱薬研である。

方向 東西方向（Ｎ－87°－Ｅ）にほぼ直線的に延びているが，さらに西側と東側は調査区域外に延びるものと思われる。

底 ともに平坦である。

覆土 第１層から第９層は堀Ａの土層，第10層から第12層は堀Ｂの土層で，ともに人為堆積と思われる。

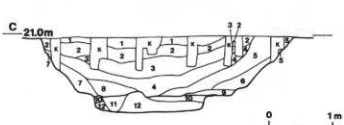
土層解説
1 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
2 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3 褐色 ローム小ブロック多量
4 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック多量
6 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック多量
7 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック少量
8 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
9 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量
10 褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック多量
11 極暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック多量
12 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック多量

遺物 覆土から土師質土器小皿，陶器片が出土している。獣骨はウマである。

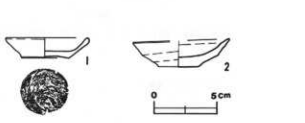
所見 本跡の時期は，出土遺物から中世と思われる。

第２Ａ・Ｂ号堀出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第538図 1	小皿 土師質土器	A 6.6 B 1.6 C 3.8	底部から口縁部にかけての破片。わずかに内彎する平底。体部はわずかに内彎し，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英・スコリア 淡赤橙色 普通	P560 60% PL70 覆土
2	小皿 土師質土器	A〔7.6〕 B 2.3 C 3.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後，ヘラナデ。	細砂・雲母 橙色 良好	P559 60% PL70 覆土



第537図 第２Ａ・Ｂ号堀実測図



第538図 第２Ａ・Ｂ号堀出土遺物実測図

（6）溝

H区では溝13条を検出した。ほとんどの溝は掘り込みが浅く，遺物も少量で，時期や性格は不明である。ここでは1条についてのみ記述し，その他は一覧表に記載する。

なお，一部の溝の土層と断面図をここで掲載するが，配置や全体の形状については付図を参照されたい。

第137号溝（付図・第540図）

位置　調査区北東部，B15区。

重複関係　第30号井戸を掘り込んでおり，本跡が新しい。また，第27号地下式壙と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　規模は長さ（15.3）m，上幅1.03～3.11m，下幅0.80～2.93m，深さ0.44mである。断面形は皿状である。

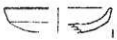
方向　南北方向（N－20°－E）にほぼ直線的に延びている。

底　皿状である。

覆土　人為堆積と思われる。

遺物　覆土から土師質土器小皿や陶器片が出土している。

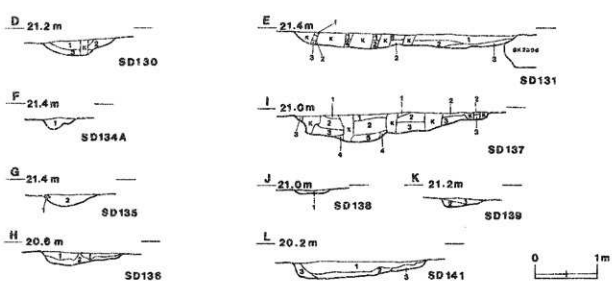
所見　本跡の時期は，出土遺物から中世と思われる。



第539図　第137号溝出土遺物実測図

第137号溝出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第539図 1	小　皿 土師質土器	A［ 8.6］ B　 1.9	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は緩やかに内彎し，口縁部に至る。	口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。非ロクロ成形。	細砂・長石・雲母 橙色 普通	P561　30%　PL70 覆土



第540図　第130・131・134A・135～139・141号溝実測図

第130号溝土層解説

1　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
3　暗褐色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

第131号溝土層解説

1　黒褐色　　ローム粒子少量
2　黒褐色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　黒褐色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

第134A号溝土層解説

1　黒褐色　　ローム粒子微量，ローム小ブロック微量，炭化粒子微量

第135号溝土層解説
1 褐　色　ローム粒子小量
2 暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量

第136号溝土層解説
1 黒褐色　ローム粒子微量，ローム小ブロック微量，炭化粒子微量
2 暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

第137号溝土層解説
1 黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
2 暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，炭化粒子微量，粘土粒子微量
3 暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
4 暗褐色　ローム粒子中量
5 黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

第138号溝土層解説
1 褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子微量

第139号溝土層解説
1 褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子微量
2 暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子微量，炭化粒子微量

第141号溝土層解説
1 黒褐色　ローム粒子微量
2 暗褐色　ローム粒子少量
3 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック多量

表16　前田村遺跡H区溝一覧表

遺構番号	位置	長軸方向	規模（m） 長さ	幅	深さ	平面形	断面形	底面	覆土	出土遺物	時期	備考（重複関係）
130	B13	N-85°-W	(12.6)	1.05~1.25	0.24	直線状	U字形	平坦	自然	土師器		SD128と重複
131	C14	—	(26.98)	1.52~2.18	0.24	T字状	U字形	平坦	自然	陶器		SK2896より新，SK2985と重複
132	C12	N-23°-E	(9.23)	1.11~2.18	—	直線状	—	—	—			S1487と重複
133	C12	N-86°-E	26.5	0.30~0.70	0.20	直線状	U字形	平坦	—			S1489より新
134A	B12	N-86°-W	16.9	0.30~0.80	0.17	直線状	U字形	平坦	自然			
134B	B12	N-81°-W	11.2	0.50~0.90	—	直線状	—	—	—			
135	B13	N-86°-W	(5.7)	0.70~0.90	0.17	直線状	U字形	平坦	人為			SK2985と重複
136	B13	N-86°-W	10.78	0.49~1.31	0.08~0.20	直線状	U字形	平坦	人為			
137	B15	N-20°-E	(15.3)	1.03~3.11	0.44	直線状	U字形	平坦	人為	小皿，陶器	中　世	SE30より新，SK2944と重複
138	B15	N-7°-E	3.27	0.50~0.75	0.22	直線状	U字形	平坦	自然			
139	B15	N-11°-E	3.33	0.64~0.68	0.13	直線状	U字形	平坦	自然			
140	B12	N-2°-W	12.1	0.60~0.70	—	直線状	—	—	—			
141	C12	N-79°-W	9.79	1.96~2.53	0.10~0.49	直線状	U字形	平坦	人為			

（7）ピット群

調査H区においてピット群1か所を検出した。建物跡あるいは柵列等の可能性もあるが，対応関係を把握することができなかったので，ここではピット群として扱う。以下，その特徴について記載する。

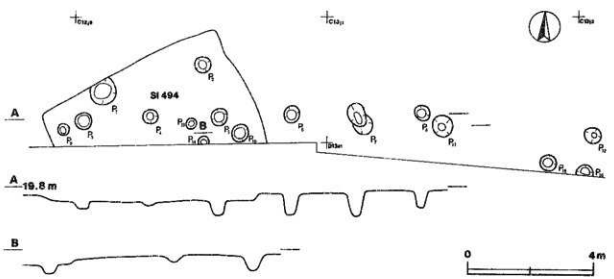
第1号ピット群（第541図）

位置　調査区南西部，D12a9～D13a2区。

重複関係　P_1～P_5，P_9・P_{10}・P_{13}・P_{14}は，第494号住居跡を掘り込んでおり，ピット群が新しい。

規模と平面形　南北4.73m，東西17.44mの長方形の範囲に，16か所のピット（P_1～P_{16}）を確認した。ピットの平面は，ほとんどのものが長径24～60cm，短径21～55cmの円形あるいは楕円形で，深さは12～81cmである。

所見　P_3～P_8は，ほぼ一直線上に並び掘立柱建物跡の可能性もあるが，ピットの対応関係がはっきりしないためピット群として扱った。また，出土遺物もなく時期は不明である。



第541図　第1号ピット群実測図

4　遺構外出土遺物

H区内の遺構外からは旧石器時代，縄文時代，古墳時代，中世，近世の遺物が出土している。ここでは遺構の覆土に混入したもの及び表土として出土したものを遺構外出土遺物とし，その一部を時代別に掲載する。

旧石器時代

1は硬質頁岩の縦長剥片である。表面と裏面との剥離はことなる。

縄文時代（第542～548図）

縄文土器の分類はG区に順じ，解説は以下の通りである。

縄文土器

第Ⅰ群　早期

1類　田戸下層式土器　2は尖底深鉢の底部片で，横位に太い沈線文を施している。

第Ⅱ群　前期

2類　浮島式　3は深鉢の口縁部片で，半截竹管による変形爪形文を施している。浮島Ⅱ式と思われる。

第Ⅲ群　中期前葉

第Ⅲａ群　阿玉台式

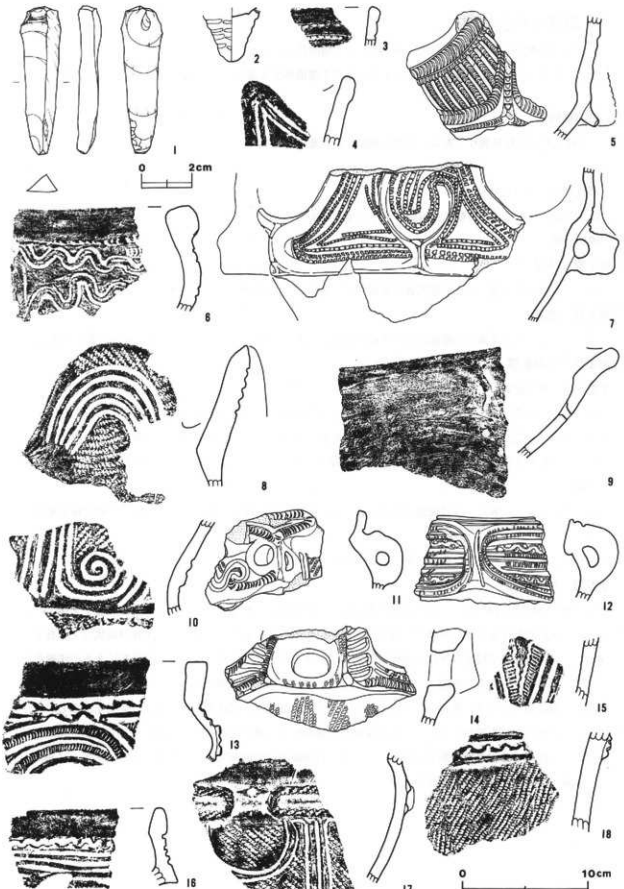
3類　阿玉台Ⅲ式（4～7）　4は把手の破片で，半截竹管による結節平行沈線文を施している。5は深鉢の波状口縁で，隆帯にキザミを加え，隆帯に沿って爪形文を施している。6は深鉢の口縁部片で，爪形文と半截竹管による蛇行沈線文を施している。7は深鉢の波状口縁部片で，隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。

4類　阿玉台Ⅳ式（8）　8は深鉢の把手の破片で，ＲＬの単節縄文を地文とし，半楕円形の沈線文を施している。

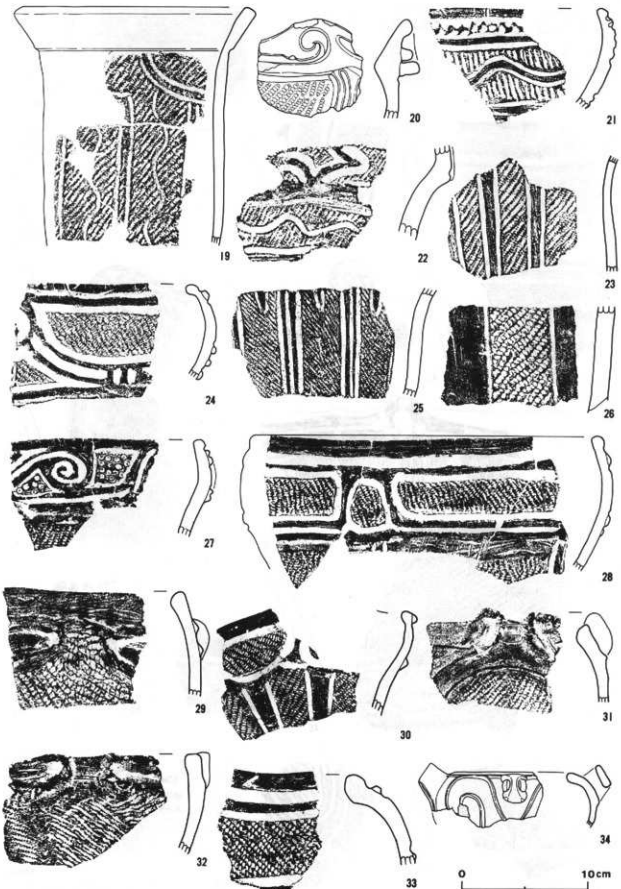
5類　阿玉台式（9）　9は胴部に補修孔のある無文の浅鉢の破片である。

第Ⅳ群　中期中葉

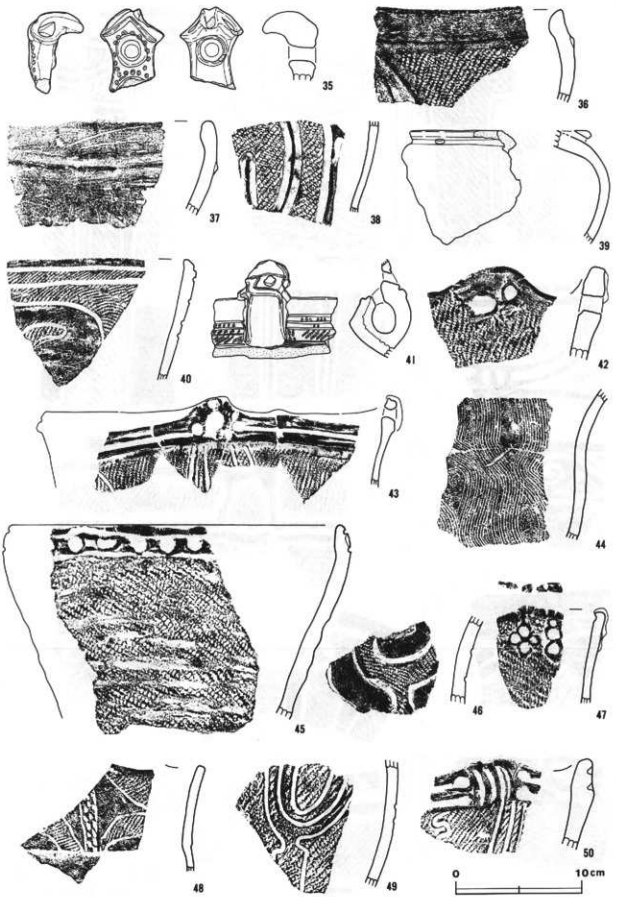
第Ⅲｅ類　中峠式（10～18）　10は深鉢の胴部片で，単節縄文を地文とし，沈線文による渦巻文を描出している。11は眼鏡状把手を有する深鉢の口縁部片で，隆帯に爪形文を施している。12は深鉢の環状把手を有する口縁部片で，孔は沈線で縁取りされ，沈線の外側にはキザミを連続して施している。口唇部に2本の沈線を施している。14は深鉢の波状口縁部片で，孔を有し，その両側に横位の沈線を施している。15は深鉢の胴部片で，沈線の内側に沿ってキザミを施している。13は深鉢の口縁部片で，口縁部下に連続コの字文を巡らし，キザミを施した隆帯で文様を描出している。16は深鉢の口縁部片で，波状沈線と平行沈線を施している。18は深鉢の胴部片で，隆帯上の沈線間に刺突を施している。17は深鉢の口唇部を欠損する口縁部片で，隆帯上に縄文を施し，沈線で区画した中を複節縄文で充填している。



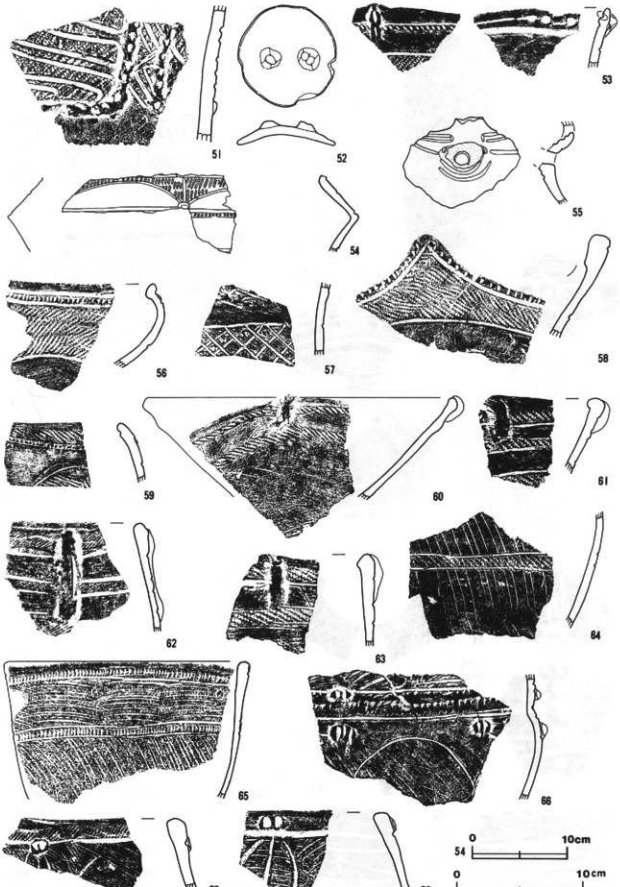
第542図　遺構外出土遺物実測図（1）



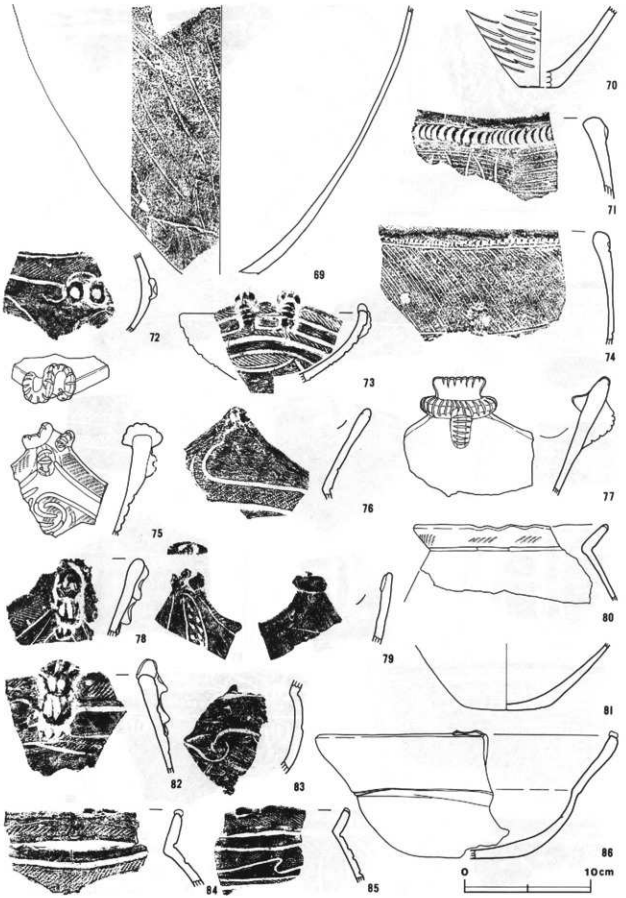
第543図　遺構外出土遺物実測図（２）



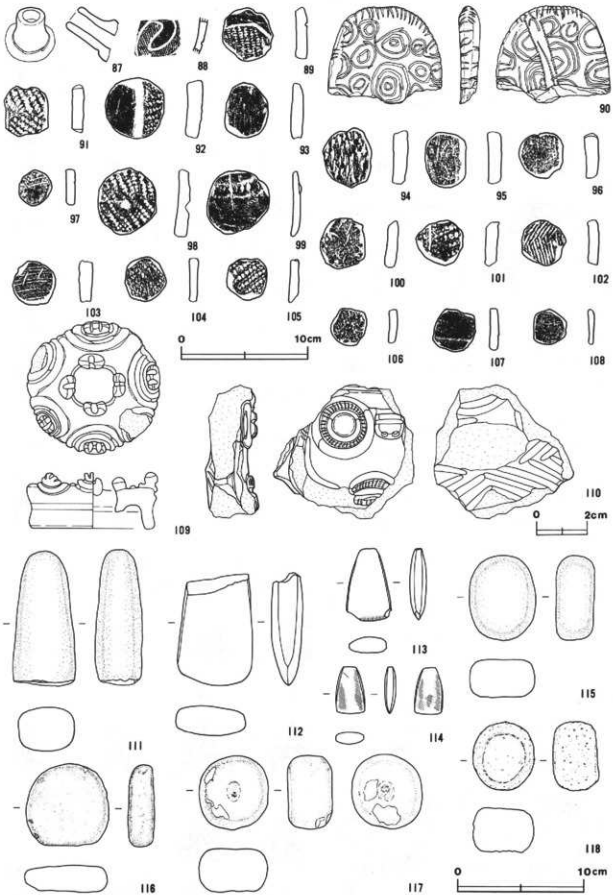
第544図　遺構外出土遺物実測図（3）



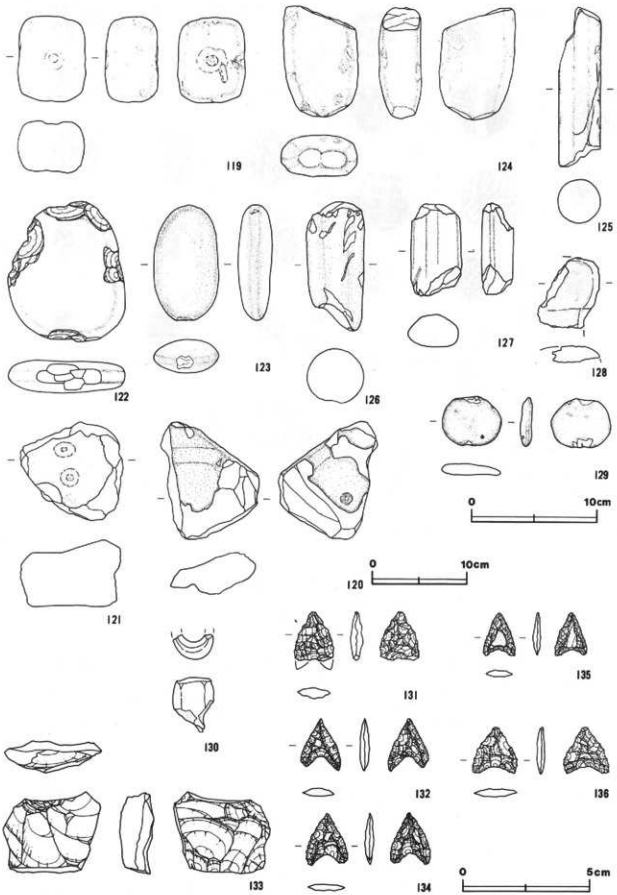
第545図　遺構外出土遺物実測図（4）



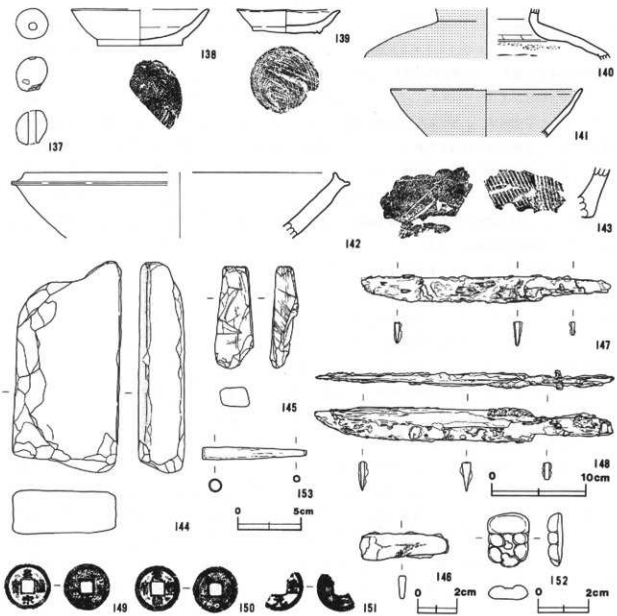
第546図　遺構外出土遺物実測図（5）



第547図　遺構外出土遺物実測図（6）



第548図　遺構外出土遺物実測図（7）



第549図　遺構外出土遺物実測図（8）

第Ⅳ群　中期後葉

第Ⅳa群　加曽利E式

1類　加曽利EⅠ式（19・20・22・24）　19は深鉢の胴部から口縁部にかけての破片で，口縁部は無文である。単節縄文を地文とし，沈線による蛇行懸垂文を施している。22は深鉢の胴部片で，単節縄文を地文とし，隆帯や波状沈線を施している。20は深鉢の波状口縁部片で，渦巻文と沈線のある隆帯で文様を描出している。24は内彎する深鉢の口縁部片で，単節縄文を地文とし，隆帯で区画文を描出している。

2類　加曽利EⅡ式（21・23・25・27）　21は深鉢の口縁部片で，交互刺突文と横方向の沈線文と波状沈線文を施している。25は単節縄文を地文とする深鉢の胴部片で，垂下する3本の沈線間を磨り消している。23は単節縄文を地文とする深鉢の胴部片で，垂下する2本の沈線間を磨り消している。27は深鉢の胴部から口縁部にかけての破片で，隆帯で区画された中に渦巻文と円形の刺突文を施し，胴部には単節縄文を施している。

3類　加曽利EⅢ式（26・28・30・33・38）　28は深鉢の口縁部片で，単節縄文を地文とし，隆帯で楕円形と長方形の区画文を描出している。33は深鉢の口縁部片で，口縁部に沿って沈線が巡る。30は深鉢の胴部から口

縁部にかけての破片で，口縁部は隆帯によって半裁円形に区画し，区画内に単節縄文を施している。胴部は垂下する沈線間を磨り消している。26は単節縄文を地文とする深鉢の胴部片で，沈線区画の磨消帯が垂下する。38は単節縄文を地文とする深鉢の胴部片で，微隆起線で文様を描出している。

4類　加曽利EⅣ式（29・31・32・34～37）　32は小波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，波頂部に指頭により作り出した微隆起線による双耳状の小突起を有している。31は小波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，微隆起線によって区画された磨消帯を有している。29は深鉢の口縁部片で，口縁部下に微隆起線による双耳状の小突起を有し，突起部まで単節縄文を施している。36は深鉢の口縁部片で，微隆起線により文様を施し，RLの単節縄文を充填している。37は小波状の深鉢の口縁部片で，横位に微隆起線が巡っている。34は小形広口壺の口縁部片で，2対の環状把手を有し，微隆起線で文様を描出している。35は鳥頭形を呈する把手の破片で，孔の周囲に円形刺突文を施している。

5類　加曽利E式（39）　39は有孔鍔付土器の鉢で，鍔部に孔がある。

第Ⅵ群　後期前葉

1類　称名寺Ⅰ式（40・46）　40は深鉢の口縁部片で，沈線によって区画し，縄文を充填している。46は深鉢の胴部片で，沈線による区画内に単節縄文と磨り消しを施している。

3類　堀之内Ⅰ式（41～45・47・49～52・55）　41は鉢部が屈曲する鉢の口縁部片で，橋状把手を有し，口唇部に沈線を施している。43は小波状口縁を呈する深鉢の胴部から口縁にかけての破片である。波状部に孔があり，口縁部に円形刺突と沈線を施している。42は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，孔と刺突文を施している。45は深鉢の胴部から口縁部にかけての破片で，口縁部に沿っての沈線間に円形刺突文を施している。44は深鉢の胴部片で，櫛歯状施文具による複列の沈線が蛇行して垂下する。47は浅鉢の小波状口縁部片で，単節縄文と条線文を地文とし，細かい条線文と指頭押圧痕を施している。49は単節縄文を地文とする深鉢の胴部片で，沈線で文様を描出している。50は深鉢の胴部から波状口縁部にかけての破片で，波頂部に円形刺突文と縦位の沈線を施し，口縁部に沿って沈線を巡らしている。また，単節縄文を地文とする胴部には，蛇行沈線と沈線を垂下させている。51は深鉢の胴部片で，沈線と刺突のある隆帯で文様を描出している。52はほぼ完形の鉢で，内面は緩やかに内彎し，外面中央付近に2単位の把手が付いている。55は注口土器で，注口部の両側に円形刺突文を施している。

4類　堀之内Ⅱ式（53）　53は深鉢の口縁部片で，口唇直下にキザミのある隆線を巡らし，内面に円形刺突と沈線を施している。8の字状の貼付文を施している。

第Ⅶ群　後期中葉

4類　加曽利B式（54・56～59）　54は算盤玉状を呈する深鉢の胴部片で，単節縄文と沈線と磨消帯で文様を描出している。56は内彎する鉢の口縁部片で，LRの単節縄文を地文とし，口唇部直下の沈線文間にキザミを施している。57は深鉢の胴部片で，単節縄文を地紋に斜格子目文と磨り消しを施している。58は波状口縁を呈する深鉢で，口唇部にキザミを施し，単節縄文と磨消帯で文様を描出している。59は口唇部内面に沈線のある深鉢の口縁部片で，単節縄文と沈線間のキザミで文様を描出している。

第Ⅷ群　後期後葉

1類　安行Ⅰ式（60～65）　60は浅鉢の口縁部片で，縄文帯を2段施し，口縁部に斜位の貼付文を施している。61～63は隆起帯縄文のある深鉢の口縁部片で，縦長貼付文を施している。64は斜行条線を地文とする粗製深鉢の胴部片で，沈線区画内を単節縄文で充填している。※65は粗製深鉢の胴部から口縁部の破片で，口唇部と胴部にキザミ文を巡らしている。胴部のキザミ文から上には横位の条線，下には斜行条線を施している。

2類　安行2式（66～71・73・74・77）　※66は斜行条線を地文とする深鉢の胴部片で，ブタ鼻状貼付文を施している。67は斜行条線を地文とする粗製深鉢の口縁部片で，一部単節縄文を施し，口唇部下の沈線上にブタ鼻状貼付文を施している。68は斜行条線を地文とする粗製深鉢の口縁部片で，太い沈線と口唇部の間にブタ鼻状貼付文を施している。71は斜行条線を地文とする粗製深鉢の口縁部片で，口唇部は肥厚し，紐線文には爪形文を施している。74は斜行条線を地文とする粗製深鉢の口縁部片で，口唇部直下には刺突文を巡らしている。69は粗製深鉢の胴部から底部にかけての破片で，粗い斜行条線を施している。70は粗製深鉢の底部片で，条線を施している。73は台付鉢の口唇部片で，横位沈線の縦長貼付文を施している。77は深鉢の波状口縁部片で，波状部には縦位沈線と横位沈線のある突起を施している。

8類　後期安行式（72）　72は深鉢の胴部片で，円形の刺突文のある貼付文と沈線文を施している。

第Ⅸ群　晩期

1類　安行3a式土器（75・78・82）　75は波状口縁を呈する深鉢の波状口縁部片で，波頂部に沈線のあるS字状突起を持ち，無節縄文を施している。78は波状口縁を呈する深鉢の波頂口縁部片，82は深鉢の口縁部片で，共に大形のブタ鼻状貼付文を施している。

2類　安行3b式土器（48・76・79～81・83～86）　48は深鉢の口縁部片で，沈線間に列点文あるいはLRの単節縄文を施している。76は深鉢の波状口縁部片で，沈線区画内に単節縄文を充填している。79は波状口縁を呈する深鉢の波状口縁部片で，波頂部に粘土紐をハチマキ状に貼り付けている。84は広口壺の胴部から口縁部にかけての破片で，口唇部に貼付文，口縁部と沈線区画内に単節縄文を施している。85は広口壺の胴部から口縁部にかけての破片で，口縁部には縄文を，胴部には入組文を施している。83は浅鉢の胴部片で，沈線文を施している。86は無文の浅鉢で，中位にくびれを持ち，丸底である。80は広口壺の波状口縁部片，81は無文の底部片で，胎土や色調が同じことから同一個体と思われる。

4類　晩期安行式（87・88）　87は注口土器の注口部である。88は胴部片で，沈線により渦巻区画文を描出し，LRの単節縄文を充填している。

土製品（89～110）

90は楕円形の土版で，表・裏面ともに2重から4重の円や楕円文が沈線で描かれ，縁には縦の沈線文が施されている。89・91は土器片錘で中期の土器が使用されている。92～108は土器片円盤で，92・94～98は中期の土器片，93・99～107は後期の土器片，108は後晩期の土器片をそれぞれ利用している。109は土製耳飾りで，外縁にキザミのある突起を6単位有し，内縁にキザミのある突起を4単位施している。時期は安行2式と思われる。110はみみずく形土偶の右頭部片で，キザミを施した隆帯による，ボタン状貼瘤で目と口が描かれている。後頭部は沈線文が施されている。

石器・石製品（111～136）

111は磨製石斧である。112は定角式磨製石斧，113・114は小形定角式磨製石斧である。115～119は磨石である。117・119は両面にくぼみを持つ。120・121は石皿である。121は表面にくぼみを持つ。120は両面石皿として使われ，片面に窪みを持つ。122・129は石錘である。123・124は敲石である。123は楕円形で両端に使用痕がある。125～127は石棒である。127は断面形が楕円形の石棒，125・126は断面形が円形の石棒である。128は有頭石剣の頭部と思われる。130は垂れ飾りである。131・132・134～136は石鏃である。131・132・135・136は基部が凹状で，135は側縁が直線的である。133は石核である。

古墳時代（第549図）

土製品（137）

137は土玉で，ほぼ完形品である。

中世（第549図）

土器（138～143）

138・139は土師質土器の小皿で，糸切りの平底である。140は古瀬戸系の四耳壺で13世紀のものと思われる。141は瀬戸・美濃系の平椀で，灰釉を施しており，室町時代のものと思われる。142は陶器の鉢で，口唇部両端が突出している。143は瀬戸・美濃系の擂鉢の底部片で，砂目がある。

石製品（144・145）

144・145は砥石である。

鉄・銅製品（146～151）

147・148は短刀で，146は刀子の茎部片である。146～148は，古墳時代前期の第494号住居跡から出土しているが，これらの遺物は中世以降のものと考えられることから遺構外とした。148の短刀は全長（31.5）cm，身部長23.3cm，茎長（8.2）cmを測る。両関で，関部より2.4cmの位置に径0.5cmの目釘孔が穿たれる。147の短刀は全長26.3cm，身部長19.7cm，茎長6.6cmを測る。両関で，茎は尻に向けて徐々に幅を減じる。両短刀とも全体に木質が遺存しており，147の短刀が148の短刀の上に重なった状態で出土している。146の刀子の茎部は147・148短刀の近くから出土している。また，これらの短刀が出土した地点は，次年度に調査した中世の墓域に隣接することから，住居跡と墓域が重複していた可能性が考えられる。149～151は古銭である。149は皇宋通寶，150は元豊通寶で，共に中国銭である。151は半分しか残っていないが安南銭の紹豊元寶と思われる。

近世（第549図）

土製品（152）

152は泥面子である。

銅製品（153）

153は銅製の煙管である。

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	現存率 (%)	備考
第545図 52	垂	8.1	7.7	2.0	(64.0)	95	DP535 SI422 覆土
第547図 89	上器片錘	4.1	3.9	0.8	18.0	100	DP513
90	土 板	(7.7)	9.0	1.7	(123.0)	50	DP534
91	土器片錘	4.0	3.5	0.8	16.0	100	DP514 SK2479 覆土
92	土器片円版	4.7	4.7	1.0	3.2	100	DP515 SK2479 覆土
93	土器片円版	4.4	3.3	0.8	16.0	100	DP519 SK2479 覆土
94	土器片円版	4.7	3.7	1.1	22.0	100	DP518
95	土器片円版	4.2	3.0	0.9	19.0	100	DP521
96	土器片円版	3.6	3.4	1.0	(16.0)	90	DP522 SK2436 覆土
97	土器片円版	2.8	2.6	0.7	6.9	100	DP537 SK2968 覆土
98	土器片円版	5.3	4.6	0.9	30.0	100	DP516 第1号堀 覆土
99	土器片円版	5.0	5.1	0.6	20.0	100	DP517
100	土器片円版	3.8	3.5	0.7	15.0	100	DP520
101	土器片円版	3.5	3.7	0.8	15.0	100	DP523
102	土器片円版	3.5	3.4	0.7	12.0	100	DP524 SK2804 覆土
103	土器片円版	3.4	3.3	0.9	13.0	100	DP525 SK2394 覆土
104	土器片円版	3.5	3.3	0.6	8.7	100	DP526
105	土器片円版	3.3	3.2	0.7	10.3	100	DP528
106	土器片円版	2.8	2.6	0.5	3.8	100	DP529
107	土器片円版	3.4	3.2	0.7	11.0	100	DP536 SK2490 覆土
108	土器片円版	2.8	(2.6)	0.4	(3.9)	90	DP527
109	耳飾り	5.2	5.2	2.2	(32.0)	75	DP531
110	土 偶	(5.2)	(5.6)	2.2	(47.6)	15	DP533
第549図 152	泥面子	2.1	1.7	0.6	(1.7)	95	DP532

図版番号	器種	計測値 (cm) 長さ	径	孔径	重量 (g)	現存率 (%)	備考
第549図 137	土 玉	2.7	2.5	0.6	(16.0)	95	DP530 SK2825 覆土

図版番号	器種	計測値 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
第542図 1	剥 片	5.9	1.6	1.1	6.7	硬質頁岩	Q521
第547図 110	磨製石斧	(10.7)	5.0	3.7	(345.0)	砂 岩	Q510
112	磨製石斧	(8.9)	5.9	2.3	(219.0)	チャート	Q512
113	磨製石斧	5.7	3.5	1.3	(41.0)	粘板岩	Q513
114	磨製石斧	3.7	2.3	0.9	12.0	粘板岩	Q514
115	磨 石	6.7	5.2	3.0	180.0	安山岩	Q516
116	磨 石	6.5	6.5	2.1	135.0	安山岩	Q531 第1号堀 覆土下層
117	敲 石	5.9	5.3	3.7	160.0	安山岩	Q532 SI494 覆土 凹石兼用
118	磨 石	5.5	4.9	3.6	117.0	安山岩	Q517 SK2479 覆土
第548図 119	磨 石	6.8	5.4	4.2	263.0	安山岩	Q533 SI486 覆土 凹石兼用
120	石 皿	(12.5)	(10.3)	4.5	(572.0)	砂 岩	Q505 SI480 覆土中層
121	石 皿	(10.3)	(10.9)	7.0	(990.0)	安山岩	Q504
122	敲 石	11.1	9.4	2.8	376.0	砂 岩	Q509 第2号堀 覆土
123	敲 石	9.1	5.2	2.7	183.0	砂 岩	Q511 第2号堀 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
124	敲石	(8.8)	6.1	3.4	(300.0)	緑色凝灰岩	Q534 第1号溝 覆土
125	石棒	(12.7)	3.4	3.4	(268.0)	緑泥片岩	Q519 第2号溝 覆土
126	石棒	(10.3)	4.6	4.3	(333.0)	ホルンフェルス	Q518 第2号溝 覆土
127	石棒	(7.3)	4.0	2.6	(115.0)	緑泥片岩	Q503 SD131 覆土
128	石棒	(5.6)	(4.9)	(1.3)	(46.0)	緑泥片岩	Q518
129	石錐	4.7	3.9	1.0	25.0	安山岩	Q330
130	楔形石器	(2.2)	(1.6)	(1.0)	(3.2)	チャート	Q629
131	石鏃	(1.9)	1.5	0.4	(0.9)	黒曜石	Q526
132	石鏃	2.1	1.6	0.4	0.7	石英	Q523
133	石鏃	3.2	3.9	1.3	16.0	チャート	Q502 第1号堆 覆土
134	石鏃	2.1	1.6	0.4	0.8	チャート	Q535 SK2968 覆土
135	石鏃	1.7	1.3	0.4	0.5	黒曜石	Q324
136	石鏃	1.8	1.8	0.3	0.8	チャート	Q527
第549図 144	紡石	(16.7)	8.4	3.7	(877.0)	砂岩	Q506 SK2747 覆土
145	紡石	(8.1)	3.1	2.2	(51.0)	凝灰岩	Q507

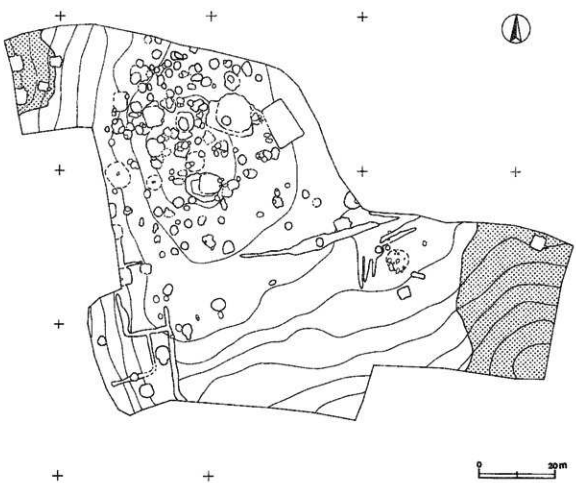
図版番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	材質	備考
		長さ	幅	厚さ			
第548図 146	刀子	(4.8)	(1.5)	(0.6)	(6.7)	鉄	M503 SI494 覆土
147	短刀	26.3	3.0	1.0	97.0	鉄	M502 SI494 覆土
148	短刀	(31.5)	3.2	2.0	(203.0)	鉄	M501 SI494 覆土
153	煙管	8.3	1.0	—	11.0	銅	M504

図版番号	器種	直径 (cm)	重量 (g)	初鋳年		備考
				時代	年号	
第549図 149	皇宋通寶	2.3	3.40	北宋	1038年	M505 中国銭
150	元豊通寶	2.3	3.02	北宋	1078年	M506 中国銭
151	紹豊元寶	(2.2)	(1.14)	南	1341年	M507 安南銭

第5節　Ⅰ区の遺構と遺物

Ⅰ区は，当遺跡の南部に位置している。Ⅰ区の東側はD区，西側はJ区，北側はH区である。Ⅰ区の地形は，南向きに突出する小舌状台地の先端部にあたり，中央部が平坦である以外は傾斜している。谷津に面する北西部と東部の傾斜地には，縄文時代を主体とする遺物包含層が堆積している。縄文時代の遺構と中世の塚は主に中央部の平坦面に集中し，平安時代と中世の遺構は主に傾斜地に位置している。Ⅰ区における遺構の残存状況は，ゴボウ耕作のトレンチャーによる撹乱のため不良である。

Ⅰ区で検出した遺構は，縄文時代の竪穴住居跡19軒，炉跡3基，集石遺構1基，土坑161基，焼土遺構1基，遺物包含層2か所，平安時代の竪穴住居跡6軒，中世の墳墓1基，方形竪穴遺構2基，土坑3基，地下式壙3基，井戸2基，溝7条，塚1基である。遺物は，縄文時代の遺物を主体とし，遺物収納箱（60×40×20cm）に206箱が出土している。以下，時代別に遺構と遺物を記載していくことにする。



第550図　Ⅰ区全体図

1　縄文時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

I区では，縄文時代の竪穴住居跡19軒を調査した。第464号住居跡は2軒の住居跡が重複していることが判明したため，第464A号住居跡と第464B号住居跡とに分けた。第442～445・449・452・455・459～461・462・465・466・468～470・472～474号住居跡は，炉跡や土坑に改称したり，遺構ではないことが判明したことから，欠番とした。

第441号住居跡（第551図）

位置　調査区北西部，F14d6区。

確認状況　耕作による撹乱が著しく，本跡の残存状況は不良である。

重複関係　本跡は第2548・2595号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。第2542号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長軸［4.98］m，短軸3.90mの隅丸長方形である。

長軸方向　N－87°－W

壁　壁高は12cm で，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，ローム を床にしている。中央部は踏み固められている。

ピット　2か所。撹乱が著しく，他は確認できなかった。P_1は，径48cmの円形で，深さは43cmである。P_2は，径38cmの円形で，深さは36cmである。P_1・P_2は規模から主柱穴と考えられるが，主柱穴数は不明である。

覆土　2層に分層され，自然堆積と考えられる。

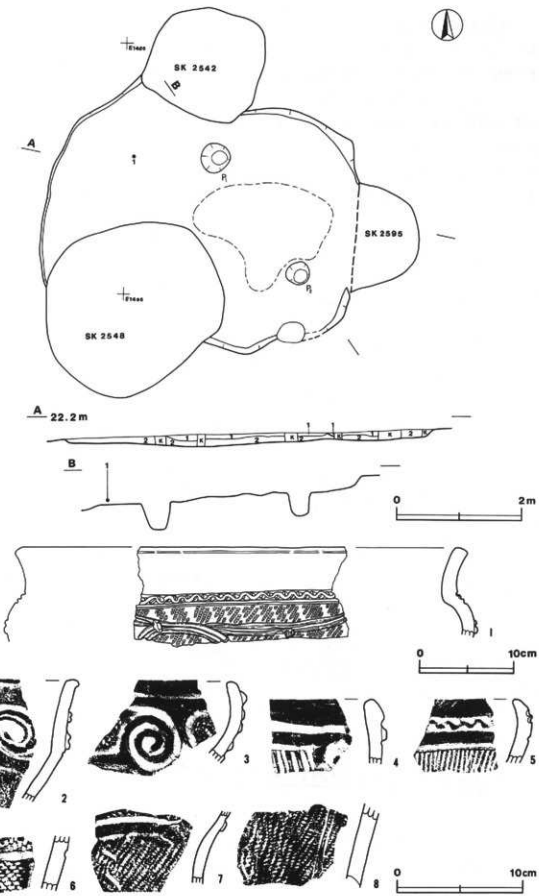
土層解説
1　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

遺物　縄文土器片463点，石皿片1点が覆土から出土している。1は深鉢の口縁部片で，覆土下層から出土している。2は深鉢の口縁部片で，沈線を有する隆帯により文様を描出している。3は深鉢の口縁部片で，RLの単節縄文を地文とし，隆帯により渦巻文を施している。4は深鉢の口縁部片で，縦位の沈線を地文とし，隆帯により文様を描出している。5は深鉢の口縁部片で，撚糸文を地文とし，口唇部直下に交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。6は深鉢の口縁部付近から胴部の破片で，LRの単節縄文を地文とし，口縁部は沈線により文様を描出し，胴部は沈線による懸垂文を施している。7は深鉢の頸部片で，沈線を有する隆帯を巡らしている。8は深鉢の胴部片で，RLの単節縄文を地文とし，半截竹管による懸垂文を施している。

所見　本跡の時期は，1の出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。

第441号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	形 状 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備　考
第551図 1	深　鉢 縄文土器	A［46.0］ B（9.5）	口縁部破片。胴部は内彎し，口縁上部は短く外反する。頂部には交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。口縁下部はRLの単節縄文を地文とし，沈線を有する隆帯により文様を描出している。	長石・雲母・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P1 5% 覆土下層 加曽利EⅠ式併行



第551図　第441号住居跡・出土遺物実測図

第446号住居跡（第552図）

位置　調査区北部，F14g7区。

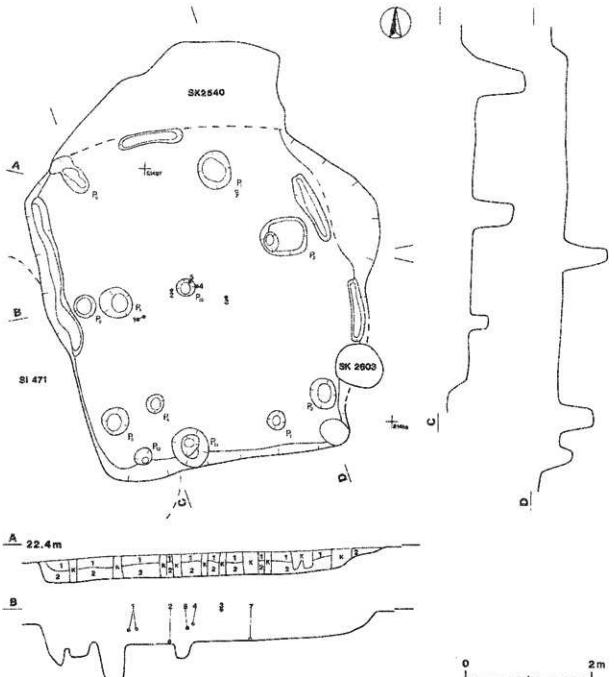
重複関係　本跡は第2603号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。第471号住居跡・第2540号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長軸〔5.50〕m，短軸4.82mの隅丸長方形である。

長軸方向　N－21°－W

壁　壁高は34cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南壁以外の壁下を断続的に巡っている。上幅16～30cm，下幅8～22cm，深さ18～26cmである。



第552図　第446号住居跡実測図

床　平坦で，ロームを床にしている。

炉　炉は確認できなかった。床の残存状況が不良なため明確でないが，本跡は炉をもたない住居跡である可能性がある。

ピット　12か所。P_1～P_6は長方形状に巡り，長径30～74cm，短径26～61cmの円形で，深さ30～74cmである。P_1～P_6は，規模と配列から6本柱の主柱穴と考えられる。P_7～P_{10}は，長径30～44cm，短径28～40cmのほぼ円形で，深さ17～88cmである。P_7～P_{10}は，補助柱穴と考えられる。P_{11}は，長径66cm，短径54cmの楕円形で，深さ80cmである。P_{12}は，径26cmのほぼ円形で，深さ30cmである。P_{11}・P_{12}は，本跡に伴う柱穴かどうかは不明である。

覆土　2層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック含量，炭化物微量
2　褐黒色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量

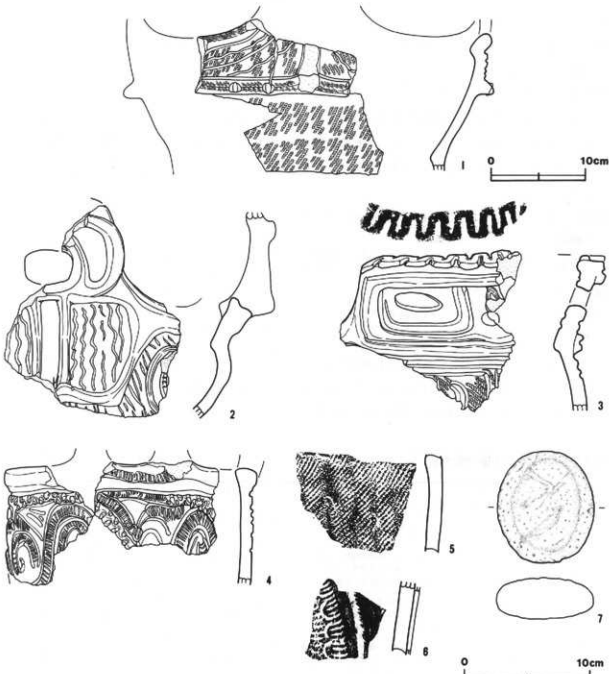
遺物　縄文土器片1,246点，磨石1点が出土している。1は波状口縁を呈する深鉢の口縁部から胴部の破片で，覆土上層から出土している。2は深鉢の把手を有する口縁部の破片で，床面から出土している。3・4は深鉢の把手を有する口縁部の破片で，覆土上層から出土している。5は深鉢の胴部片で，RLの単節縄文を施している。6は深鉢の胴部片で，隆帯により区画文を描出し，隆帯に沿ってペン先状の工具により結節沈線文を施している。隆帯による文様内には爪形文により文様を描出している。7は磨石である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第446号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第663図 1	深鉢 縄文土器	A (34.0) B (15.0)	口縁部から胴部の破片，波状口縁を呈し，口縁部は外傾する。口縁部は隆帯により文様を描出し，隆帯に沿って沈線を施している。地文はRLの単節縄文である。	石英・長石・雲母 黒褐色 普通	P5 5% 覆土上層 阿玉台Ⅳ式
2	深鉢 縄文土器	高 (16.8)	把手を有する口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。把手には円孔を有する。口縁部は隆帯及びキザミを有する隆帯により文様を描出し，区画文内には縦位の沈線文を充填している。	石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P6 5% PL82 床面 中峠式併行
3	深鉢 縄文土器	高 (9.6)	把手部及び口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。把手の頂部には隆帯により鎖状装飾帯を施している。口縁部はRLの単節縄文を地文とし，沈線により文様を描出している。	石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P7 5% PL82 覆土上層 中峠式
4	深鉢 縄文土器	B (7.2)	把手部を有する口縁部の破片。口縁部はほぼ直立し，把手部は欠損している。キザミを有する隆帯により文様を描出し，一部に沈線側を交互刺突による連続コの字状文を施している。	雲母・スコリア 黒褐色 普通	P8 10% 覆土上層 中峠式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第553図 7	磨石	8.9	7.8	3.2	286	安山岩	Q2 東側 PL105



第553図　第446号住居跡出土遺物実測図

第447号住居跡（第554図）

位置　調査区中央部，F14 i 7区。

重複関係　本跡が第2559・2561号土坑を掘り込んでいることから本跡が新しく，第1号集石遺構が本跡の覆土上面に付設されていることから本跡が古い。

規模と平面形　長径5.54m，短径4.62mの楕円形である。

主軸方向　N－50°－W

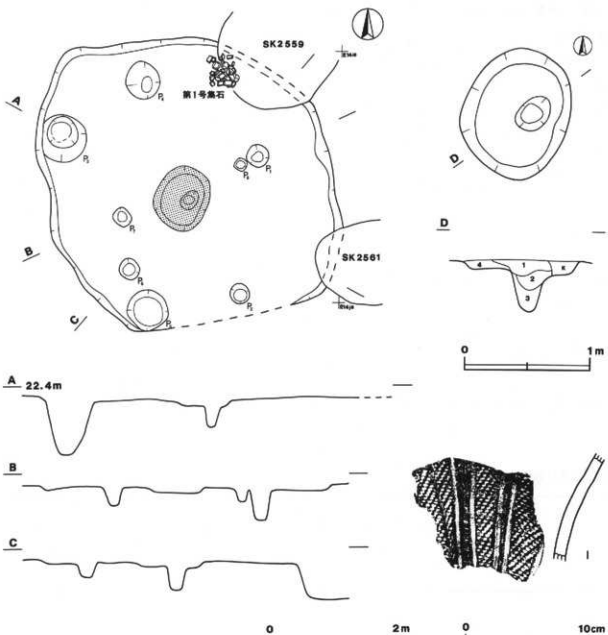
壁　壁高は8㎝で，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，ロームを床にしている。

炉　中央部に付設されている。長径96cm，短径84cmのほぼ円形で，深さ８cmの地床炉である。炉の中央部には，長径32cm，短径23cm，深さ42cmのピットを有する。炉床面は火熱により赤変硬化している。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子少量，第２層より明るい
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土ブロック中量

ピット　８か所。P_1～P_4は炉を中心に長方形状に巡り，長径32～94cm，短径30～76cmのほぼ円形で，深さ47～91cmである。P_1～P_4は，規模と配列から４本柱の主柱穴と考えられる。P_5～P_8は，径16～66cmのほぼ円形で，深さ19～27cmである。P_5～P_8の性格は，不明である。



第554図　第447号住居跡・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片206点，石皿片１点，磨石片１点，凹石片１点が覆土から出土している。１は深鉢の胴部片で，ＲＬの単節縄文を地文とし，沈線による懸垂文間を磨り消している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少量で明確でないが，出土遺物と住居跡の形態から縄文時代中期後葉（加曽利Ｅ式期）と考えられる。

第448号住居跡（第555図）

位置　調査区北部，Ｅ14ｆ5区。

確認状況　本跡は傾斜地に位置し，斜面側である西側半分が流失しているため，東側半分を確認する。

重複関係　本跡は第2565・2571号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.00m，短軸〔3.86〕mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向　Ｎ－2°－Ｅ

壁　外傾して立ち上がり，壁高は42cmである。

床　平坦で，ロームを床にしている。

炉　中央部に付設されている。長径48cm，短径42cmのほぼ円形で，深さ12cmである。深鉢の口縁部から胴部の大形破片を埋設させた土器埋設炉である。炉内には，焼土等の痕跡はほとんどなく，炭化物を少量含んでいるだけである。

炉土層解説
1　褐　色　　ローム粒子中量，炭化物少量

ピット　５か所。Ｐ1～Ｐ5は炉を中心に長方形状に巡り，長径48～70cm，短径44～60cmのほぼ円形で，深さ60～84cmである。Ｐ1～Ｐ5は６か所目のピットは確認できなかったが，規模と配列から６本柱の主柱穴と考えられる。

覆土　２層に分層され，自然堆積と考えられる。

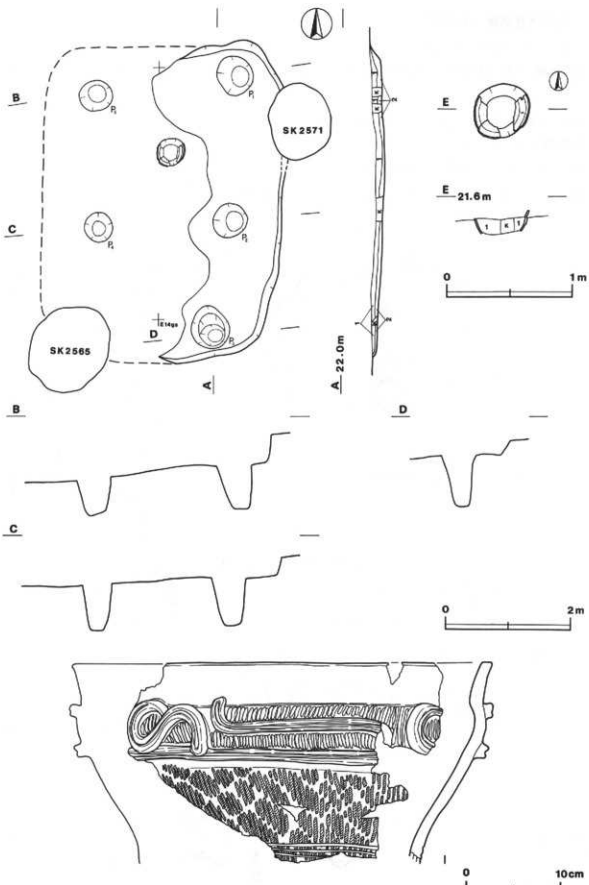
土層解説
1　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物少量
2　褐　色　　ローム粒子少量，ロームブロック少量，炭化物微量

遺物　縄文土器片194点，磨製石斧片２点が覆土から出土している。１は深鉢の口縁部から胴部の破片で，炉埋設土器である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。

第448号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	器高値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第555図 1	深　鉢 縄文土器	A〔44.0〕 B〔21.1〕	口縁部から胴部の破片。口縁部は内湾し，口縁部はわずかに外反する。口縁部に沈線を有する隆帯を巡らし，口縁部文様帯を形成している。口縁部には沈線を有する隆帯によりＳ字状とクランク文を交互に施している。口縁の空白部には縦位の沈線を充填している。胴部の地文はＲＬの単節縄文である。	石英・長石・雲母 黒褐色 普通	Ｐ９ 10% Ｐ Ｌ52 炉埋設土器 加曽利ＥⅠ式



第555図　第448号住居跡・出土遺物実測図

第450号住居跡（第556図）

位置　調査区の北部，E14g9区。

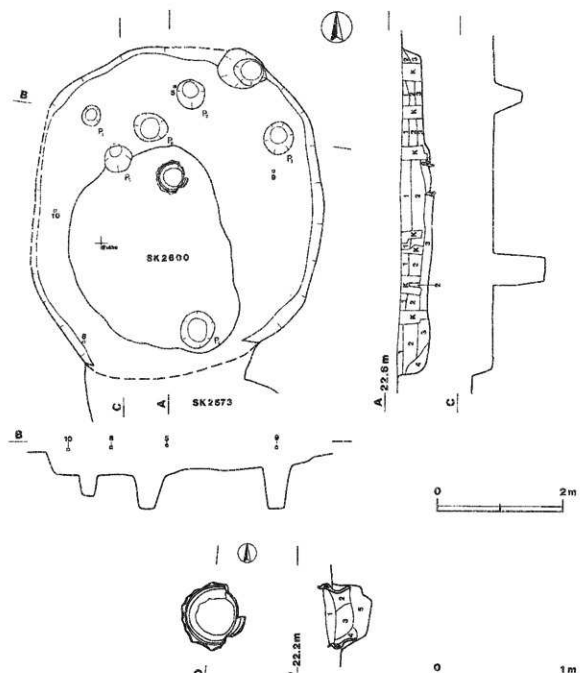
重複関係　本跡は第2600号土坑上面を床とし，第2573号土坑を掘り込んでいることから，本跡が両土坑より新しい。

規模と平面形　長径〔5.26〕m，短径4.60mの楕円形と推定される。

主軸方向　N－2°－E

壁　壁高は48cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，ロームを床にしている。第2600号土坑上面の貼床部はわずかに沈下している。



第556図　第450号住居跡実測図

炉　中央部やや北寄りに付設されている。長径54cm，短径50cm，深さ31cmで，深鉢の上半部を埋設させた土器埋設炉である。炉内の土層は5層に分層され，第1～4層は埋設土器内の覆土，第5層は炉の掘り方の覆土である。埋設土器内の覆土には焼土等はほとんどなく，炭化物を少量含んでいるだけである。

炉土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
2　褐　色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック微量，炭化物少量
4　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック微量，炭化物少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック少量

ピット　6か所。P_1～P_4は炉を中心に巡り，長径32～60cm，短径30～52cmの楕円形で，深さ33～78cmである。P_1～P_4は確認できなかった柱穴があるものの，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_5は，径46cmのほぼ円形で，深さ83cmである。P_6は，長径55cm，短径44cmの楕円形で，深さ54cmである。P_5とP_6の性格は不明である。

覆土　4層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック少量

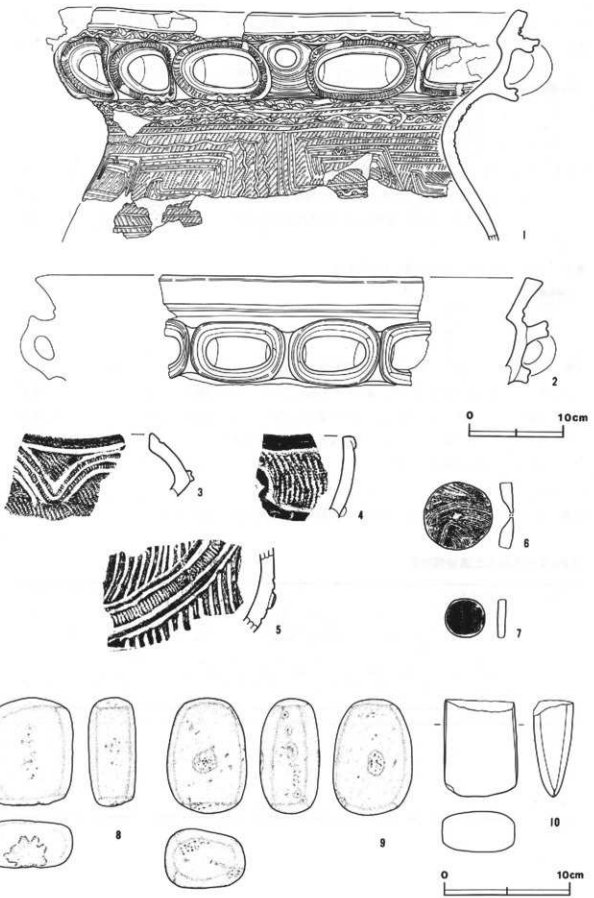
遺物　縄文土器片1,055点，磨石2点，磨製石斧1点が覆土から出土している。1は深鉢の上半部で，炉埋設土器である。2は深鉢の口縁部片で，覆土から出土している。3は浅鉢の口縁部片で，RLの単節縄文を地文とし，沈線とキザミを有する隆帯により文様を描出している。4は深鉢の口縁部片で，RLの単節縄文を地文とし，隆帯により文様を描出している。5は深鉢の口縁部付近の破片で，キザミを有する隆帯により文様を描出し，空白部に縦位の沈線文を充填している。6・7は土器片円盤で，混入したものである。8・9は磨石で，10は磨製石斧である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第450号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第557図 1	深鉢 縄文土器	A (47.6) B (24.5)	上半部。頸部はくびれ，口縁部はわずかに内湾し，口縁部直下で屈折して外反する。口縁部には連続する楕状把手を高らし，その直上には連続コの字状文を施している。胴部はRの羽節縄文を地文とし，沈線により文様を描出している。	石英・長石・雲母 暗褐色 普通	P10 30% PL82 炉埋設土器 中峠式
2	深鉢 縄文土器	A (50.2) B (11.3)	口縁部片。口縁部はわずかに内湾し，口唇部直下で屈折して外反する。口縁部には連続する楕状把手を高らし，口唇部直下は縄文である。	石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P11 5% 覆土 中峠式

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第557図 8	磨石	8.6	7.2	3.7	423	安山岩	Q5 覆土 PL105
9	磨石	9.2	6.3	4.7	400	安山岩	Q6 覆土 PL108
10	磨製石斧	(7.7)	5.7	3.2	(244)	緑色凝灰岩	Q7 覆土 PL103



第557図　第450号住居跡出土遺物実測図

第451号住居跡（第558図）

位置　調査区の北部，E14h4区。

確認状況　本跡は西向きの傾斜地に立地しているため，西側が流出し，東側半分を確認した。

重複関係　本跡は第2592・2593号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。第4号炉跡と重複するが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　長径3.76m，短径（2.98）mの楕円形と推定される。

長軸方向　N－8°－W

壁　壁高は16cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，ローム を床にしている。

炉　炉は確認できなかった。本跡は炉をもたない住居跡である可能性がある。

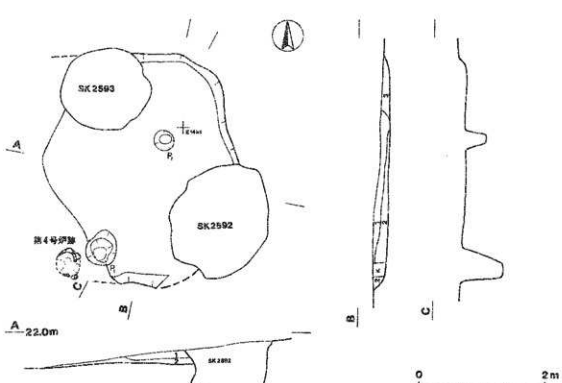
ピット　2か所。P_1は，長径58cm，短径48cmの楕円形で，深さ67cmである。P_2は，径34cmのほぼ円形で，深さ32cmである。P_1は規模から主柱穴と考えられるが，主柱穴の数や配列等は不明である。P_2の性格は，不明である。

覆土　3層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子少量

遺物　本跡に伴う遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は，住居跡の形態や覆土が縄文時代中期のものと類似していることから縄文時代中期と考えられる。



第558図　第451号住居跡実測図

第453号住居跡（第559図）

位置　調査区の中央部，F14 a 7区。

確認状況　壁や床は残存していないが，炉とピットを確認したことから住居跡と判断した。

規模と平面形　長径〔3.82〕m，短径〔3.80〕mの円形と推定される。

主軸方向　N－78°－E

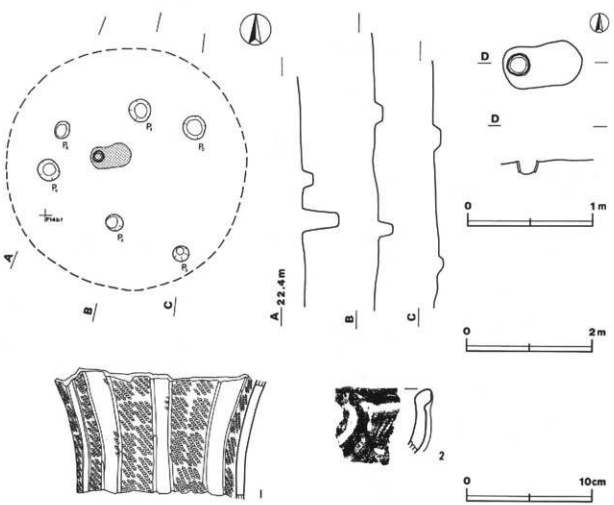
炉　中央部やや西寄りに付設されている。長径64cm，短径50cmの楕円形で，炉の西部に深鉢の胴部を埋設させた土器埋設炉である。炉確認面が炉床面で，炉床面は火熱により赤変硬化している。埋設土器の覆土は1層で，焼土粒子を少量含んでいる。

炉土層解説
1　暗褐色　焼土粒子少量

ピット　6か所。P_1～P_6は炉を中心に巡り，径28～38cmのほぼ円形で，深さ29～71cmである。P_1～P_6は，規模と配列から6本柱の主柱穴と考えられる。

遺物　縄文土器片5点が出土している。1は深鉢の胴部で，炉埋設土器である。2は深鉢の口縁部片で，RLの単節縄文を地文とし，隆帯により文様を描出している。

所見　本跡の時期は，1の炉埋設土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。



第559図　第453号住居跡・出土遺物実測図

第453号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第559図 1	深鉢 縄文土器	B (10.1)	胴部片。胴部は外反する。沈線による懸垂文間にＬＲの単節縄文を充填している。	長石・スコリア 明黄褐色 普通	P12 30% ＰＬ82 沖堀設土器 加曽利ＥⅢ式

第454号住居跡（第560・561図）

位置　調査区の中央部，Ｆ14ｅ4区。

確認状況　本跡の西半部は調査区域外となり，本跡の東半部のみを確認した。耕作による撹乱が著しく，残存状況は不良である。

規模と平面形　径〔3.82〕mのほぼ円形と推定される。

長径方向　〔Ｎ－6°－Ｅ〕

壁　壁高は40cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，ロームを床にしている。中央部は踏み固められている。

炉　炉は確認できなかった。本跡は炉をもたない住居跡である可能性がある。

覆土　２層に分層され，自然堆積である。

土層解説
1　褐色　ローム粒子微量
2　褐色　ローム粒子少量

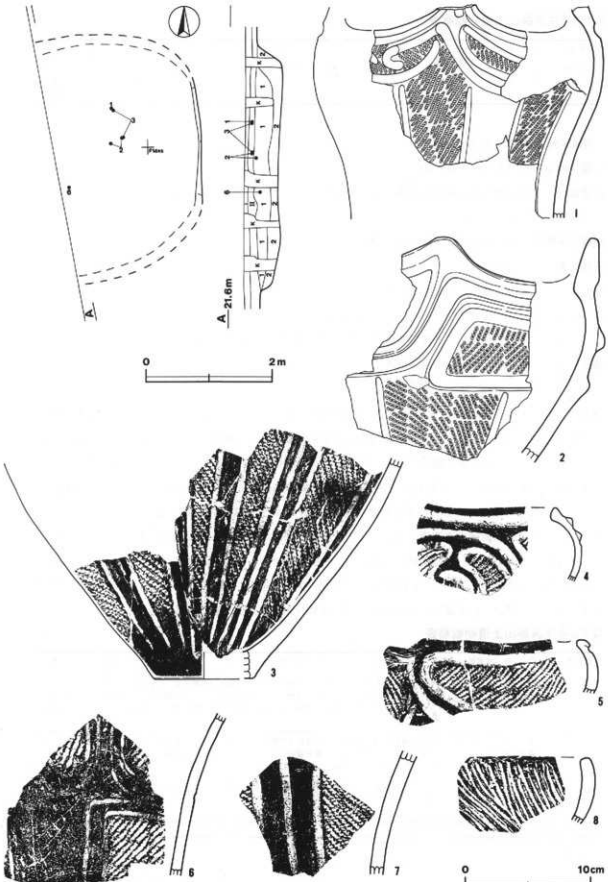
遺物　縄文土器片1,060点，土器片円盤３点が覆土から出土している。遺物の大部分は，投棄されたような状態で第１層から出土している。１・２は波状口縁を呈する深鉢の口縁部から胴部の破片，３は深鉢の底部から胴部の破片で，いずれも第１層から出土している。４は深鉢の口縁部片で，隆帯により文様を描出し，ＲＬの単節縄文を充填している。５は小波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，波頂部は双頭となる。波頂部を起点に隆帯により文様を描出し，ＬＲの単節縄文を充填している。６は深鉢の胴部片で，沈線による区画文を施し，区画文内にＲＬの単節縄文を充填している。７は深鉢の胴部片で，ＬＲの単節縄文を地文とし，沈線による懸垂文間を磨り消している。８は深鉢の口縁部片で，条線文を施している。９は深鉢の頸部片で，半截竹管による刺突文を有する隆帯を巡らし，半截竹管による縦位の平行沈線文を施している。10～12は土器片円盤である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。

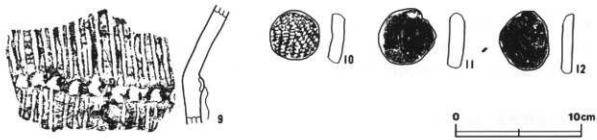
第454号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第560図 1	深鉢 縄文土器	B (16.8)	４単位の波状口縁を呈する口縁部から胴部の破片。口縁部は内彎する。口縁部はＲＬの単節縄文を横位に施し，沈線により文様を描出している。胴部はＲＬの単節縄文を縦位に施し，沈線による縦広の懸垂文間を磨り消している。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	P15 10% ＰＬ83 第１層 加曽利ＥⅢ式
2	深鉢 縄文土器	B (17.8)	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部はＬＲの単節縄文を横位に施し，隆帯により文様を描出している。胴部はＬＲの単節縄文を縦位に施し，沈線による縦広の懸垂文間を磨り消している。	砂粒・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P13 5% ＰＬ83 第１層 加曽利ＥⅢ式
3	深鉢 縄文土器	B (18.0) C〔 8.0〕	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部はＬＲの単節縄文を地文とし，沈線による縦広の懸垂文間を磨り消している。	砂粒・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P14 15% ＰＬ83 第１層 加曽利ＥⅢ式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量	現存率	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ	(g)	(%)		
第561図10	土器片円盤	4.0	3.9	1.1	22	100	ＲＬの単節縄文。	ＤＰ３　覆土
11	土器片円盤	4.4	4.6	1.2	(32)	90	沈線文。	ＤＰ４　覆土
12	土器片円盤	4.7	4.0	0.8	19	100	底部片。	ＤＰ５　覆土



第560図　第454号住居跡・出土遺物実測図（1）



第561図　第454号住居跡出土遺物実測図（2）

第456号住居跡（第562図）

位置　調査区の中央部，E14 i 9区。

重複関係　本跡は第2629・2589・2590号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長径〔4.12〕m，短径4.62mの楕円形と推定される。

長径方向　N－25°－E

壁　外傾して立ち上がり，壁高は8㎝である。

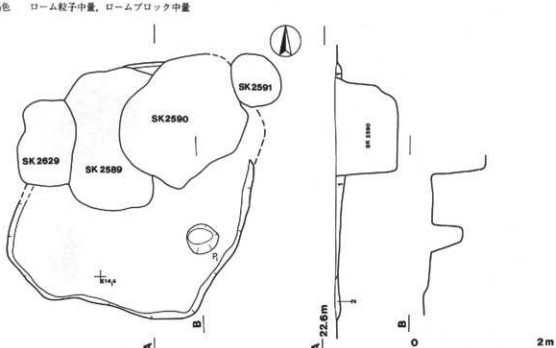
床　平坦で，ロームを床にしている。

炉　確認できなかった。本跡は炉を持たない住居跡の可能性がある。

ピット　1か所だけを確認する。P_1は，長径52㎝，短径46㎝の楕円形で，深さ50㎝である。規模から主柱穴と考えられるが，主柱穴の数や配列は不明である。

覆土　2層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子少量
2　暗褐色　　ローム粒子中量，ロームブロック中量



第562図　第456号住居跡実測図

遺物　本跡に伴う遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は，縄文時代中期の第2529・2589・2590号土坑に掘り込まれていること，覆土が縄文時代中期のものと類似することから縄文時代中期と考えられる。

第457号住居跡（第563図）

位置　調査区の南部，F14g5区。

確認状況　本跡の西半部は調査区域外にあり，東半部だけを確認した。

重複関係　本跡は第124号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。

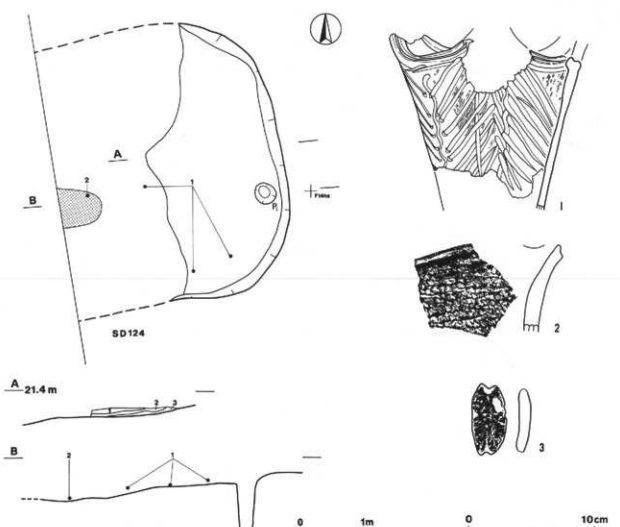
規模と平面形　長径〔3.64〕m，短径〔4.34〕mの楕円形と推定される。

主軸方向　N－76°－E

壁　東壁だけが残存している。壁高は8cmで，緩やかに立ち上がる。

床　平坦で，ロームを床としている。

炉　中央部に付設されている。長径98cm，短径62cmの楕円形で，地床炉である。炉床面は火熱により赤変硬化している。



第563図　第457号住居跡・出土遺物実測図

ピット　1か所だけを確認した。P_1は，長径36cm，短径31cmの楕円形で，深さ82cmである。P_1の性格は，不明である。

覆土　3層に分層され，自然堆積である。

土層解説
1　褐場色　ローム粒子微量，炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック中量

遺物　縄文土器片341点が出土している。1は波状口縁を呈する深鉢の口縁部で，覆土から出土している。2は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，口唇部直下に沈線を巡らし，LRの単節縄文を斜位に施している。3は土器片錘である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。

第457号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第563図 1	深　鉢 縄文土器	A　13.0 B　(14.1)	3単位の波状口縁を呈する口縁部から胴部の破片。LRの単節縄文を施文とし，沈線により文様を描出している。	砂粒 にぶい褐色 普通	P17 50% P183 覆土 堀之内Ⅰ式

図版番号	器　種	計測値(cm)			重量	現在率	備　考	備　考
		長さ	幅	厚さ	(g)	(%)		
第563図　3	土器片錘	5.6	2.8	1.0	92	100	LRの単節縄文。	DP6　覆土

第458号住居跡（第564図）

位置　調査区の中央部，E14j9区。

確認状況　壁や覆土は残存していないが，炉とピットを確認したことから住居跡と判断した。

規模と平面形　長径〔5.24〕m，短径〔4.76〕mの楕円形と推定される。

主軸方向　N－2°－E

炉　中央部に付設されている。長径118cm，短径88cmの楕円形で，深さ38cmの地床炉である。炉床面は火熱による硬化があまり認められない。炉床面の東壁際には，P_{11}が位置している。長径30cm，短径26cmの楕円形で，深さ52cmである。P_{11}が炉に伴うものなのか，重複しているものかは不明である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック微量

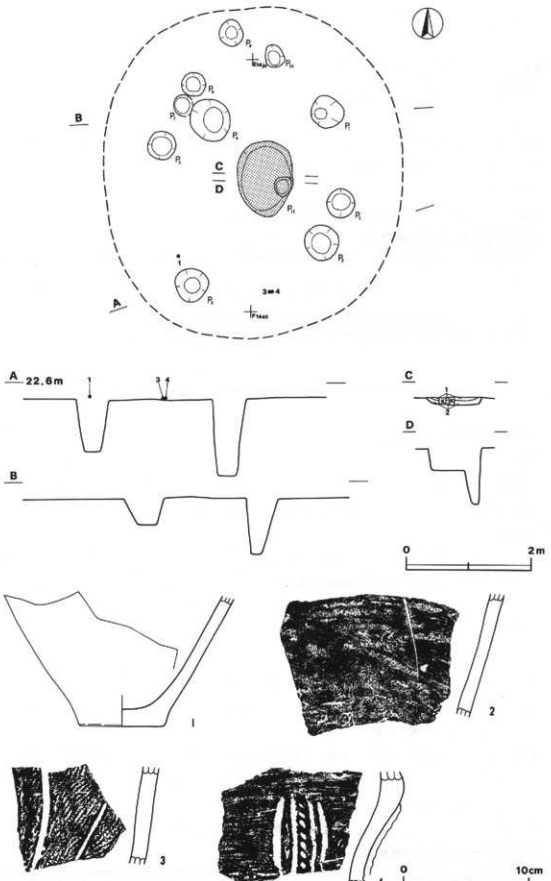
ピット　10か所。P_1～P_4は炉を中心に巡り，径52～68cmのほぼ円形で，深さ40～123cmである。P_1～P_4は，規模と配列から4本柱の主柱穴と考えられる。P_5～P_{10}は，径36～46cmのほぼ円形で，深さ32～52cmである。P_5～P_{10}の性格は，不明である。

遺物　縄文土器片213点が出土している。1は深鉢の底部から胴部の破片で，確認面から出土している。2は深鉢の胴部片で，無文である。3は深鉢の胴部片で，RLの単節縄文を施文とし，沈線により文様を描出している。4は深鉢の口縁部片で，キザミを有する隆帯を垂下させている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。

第458号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第564図 1	深　鉢 縄文土器	B　(10.4) C　6.9	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文。	砂粒 にぶい橙色 普通	P18 10% 覆土 堀之内Ⅰ式



第564図　第458号住居跡・出土遺物実測図

第463号住居跡（第565～568図）

位置　調査区の北東部，E15g5区。

規模と平面形　長軸11.10m，短軸7.54mの隅丸長方形である。

長軸方向　N－31°－W

壁　壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，ローム を床としている。

炉　炉は確認できなかった。

ピット　24か所。P_1～P_4は，長径60～94cm，短径54～84cmの楕円形で，深さ22～104cmである。P_1～P_4は，4本柱の主柱穴と考えられる。P_5～P_7は北東壁に沿って直線的に配置され，径33～48cmのほぼ円形で，深さ22～104cmである。P_8～P_{11}は南西壁に沿って直線的に配置され，長径38～52cm，短径32～44cmの楕円形で，深さ21～75cmである。P_8～P_{11}は，規模と配列から補助柱穴と考えられる。P_{12}～P_{24}は配列に規則性はなく，長径26～66cm，短径24～40cmの円形あるいは楕円形で，深さ17～61cmである。P_{12}～P_{24}の性格は，不明である。

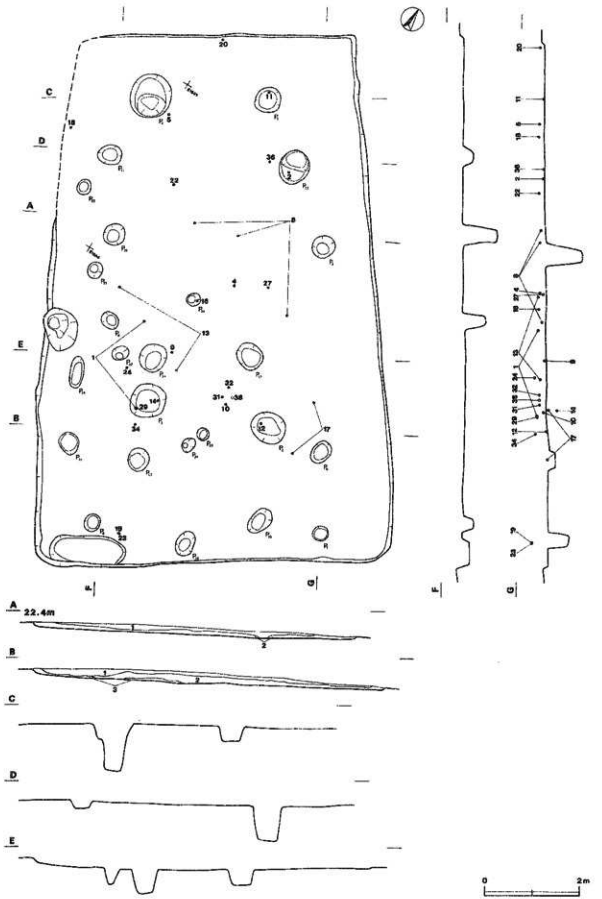
覆土　3層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層断説

1　黒褐色　ローム粒子微量，炭化物微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック少量

遺物　縄文土器片3,544点，土偶1点，石錘1点，石錐1点，石棒片1点，石剣片3点，銅片1点が出土している。覆土下層からは安行2式土器が多く，覆土上層からは安行3a・3b式土器が多く出土している。1は深鉢の口縁部片で，覆土上層から出土している。2～4は大波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，2は覆土下層から，3・4は覆土上層から出土している。5は深鉢の口縁部片で，覆土上層から出土している。6・7は注口土器の注口部片で，覆土から出土している。8は浅鉢の底部片で，覆土下層から出土している。9は粗製深鉢の底部から胴部の破片で，覆土下層から出土している。10・11は台付鉢の台部で，覆土下層から出土している。12は広口壺の口縁部から胴部の破片で，覆土から出土している。13は粗製深鉢の口縁部片で，覆土から出土している。14は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，大形のブタ鼻状の貼付文を施している。15は鉢の口縁部片で，キザミを有する貼付文を施し，凹凸のある隆帯を巡らしている。16～24は粗製深鉢の口縁部片である。17は条線文を施している。16・18～20・24は口唇部直下に押圧文あるいはキザミを有する隆帯を巡らし，条線文を地文とし，沈線文により文様を描出している。25は双頭の小波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，波頂部直下に三叉文を施している。26は大波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，波頂部には鉢巻き状の貼付文を施している。27～31は広口壺の口縁部片で，LRの単節縄文を地文とし，沈線により文様を描出している。27・29の口唇部には瘤状の貼付文を施している。32・33・35は浅鉢の口縁部片で，33・35の口唇部には貼付文を施している。34は深鉢の口縁部片で，枠状区画文を施している。36は皿の口縁部片で，口唇部にキザミを施している。37は鉢の口縁部付近の破片で，陽刻手法により羊歯状文を施している。38はほぼ完形のミミズク形土偶で，覆土下層から出土している。39は有茎の石鏃である。

所見　本跡は，炉をもたない隅丸長方形の住居跡である。本跡の時期は，遺物の出土状況から縄文時代後期後葉（安行2式期）と考えられる。



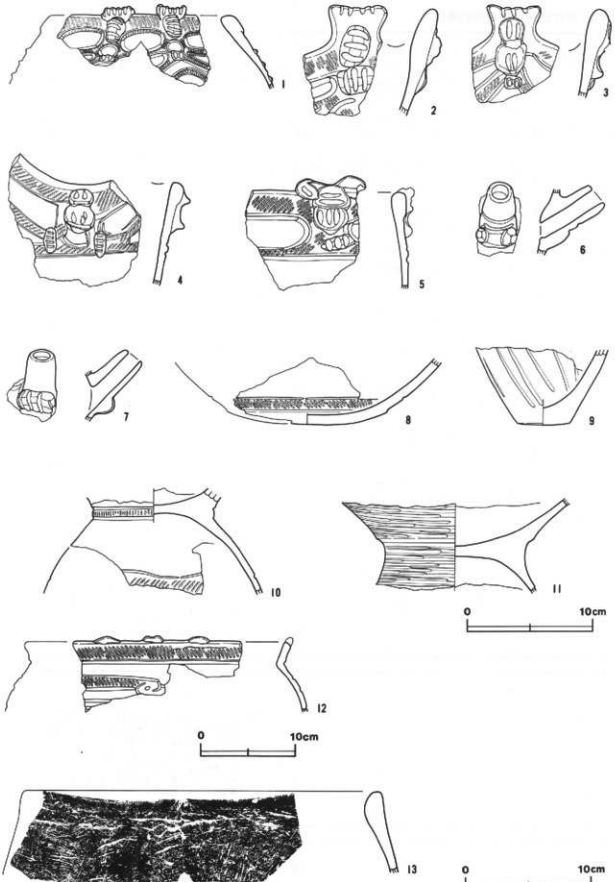
第565図　第463号住居跡実測図

第463号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第566図 1	深鉢 縄文土器	A〔16.0〕 B（5.7）	口縁部片。口縁部は内傾する。口唇部には鬼板の突起を有し、その直下にキザミを有する縦長の貼付文を施している。口縁部はキザミを有する隆帯により文様を描出し、隆帯の交点には7字鼻状の貼付文を施している。	長石・砂粒 にぶい褐色 良好	P38 5% PL83 縄土上層 安行2式
2	深鉢 縄文土器	B（8.6）	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波頂部には鬼板の突起を有し、その直下にキザミを有する縦長の貼付文を施している。	砂粒 にぶい褐色 良好	P37 5% PL84 縄土下層 安行2式
3	深鉢 縄文土器	B（8.0）	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波頂部には鬼板状の突起を有し、その直下に大形のブタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 にぶい黄橙色 良好	P41 5% PL84 縄土上層 安行3a式
4	深鉢 縄文土器	B（10.6）	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波底部直下に大形のブタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 にぶい赤褐色 良好	P42 5% PL83 縄土上層 安行3a式
5	深鉢 縄文土器	B（9.3）	口縁部片。口縁部は内傾する。口唇部には鬼板状の突起を有し、その直下に大形のブタ鼻状の貼付文を施している。	長石・砂粒 にぶい褐色 良好	P43 5% PL83 縄土上層 安行3a式
6	注口土器 縄文土器	B（6.0）	注口部片。注口の直下にキザミを有する横長の貼付文を施している。	長石・砂粒 にぶい褐色 良好	P39 10% 縄土 安行2式
7	注口土器 縄文土器	B（5.5）	注口部片。注口の直下にキザミを有する横長の貼付文を施している。	砂粒 橙色 良好	P40 10% 縄土 安行2式
8	浅鉢 縄文土器	B（5.1） C 12.6	底部から胴部の破片。底部は丸底で、胴部は外傾して立ち上がる。地文としてRLの単節縄文を施している。	長石・砂粒 褐灰色 良好	P49 20% 縄土下層 安行1・2式
9	粗製深鉢 縄文土器	B（6.2） C 4.0	底部から胴部の破片。底部は平底で、胴部は外傾して立ち上がる。条痕文を施している。	長石・砂粒 明赤褐色 良好	P46 5% 縄ヶ下層 安行式
10	台付鉢 縄文土器	B（7.6）	台部片。台部は内弯して立ち上がる。台部と胴部との接合部にはキザミを施らしている。	砂粒 にぶい橙色 良好	P47 10% PL84 縄土下層 安行1・2式
11	台付鉢 縄文土器	B（7.3）	台部から胴部の破片。台部は内弯し、胴部は外傾して立ち上がる。無文。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 良好	P48 20% PL84 縄土下層 安行2式
12	広口壺 縄文土器	A〔27.0〕 B（7.5）	口縁部から胴部の破片。胴部は内弯し、口縁部は短く外傾する。口唇部には貼付文を施している。胴部はRLの単節縄文を地文とし、沈線により玉抱き三叉文を施している。	砂粒 にぶい黄褐色 良好	P44 10% 縄土 安行3b式
13	粗製深鉢 縄文土器	A〔27.6〕 B（6.6）	口縁部片。口縁部は内傾する。無文。	砂粒 灰褐色 良好	P43 5% 縄土 安行式

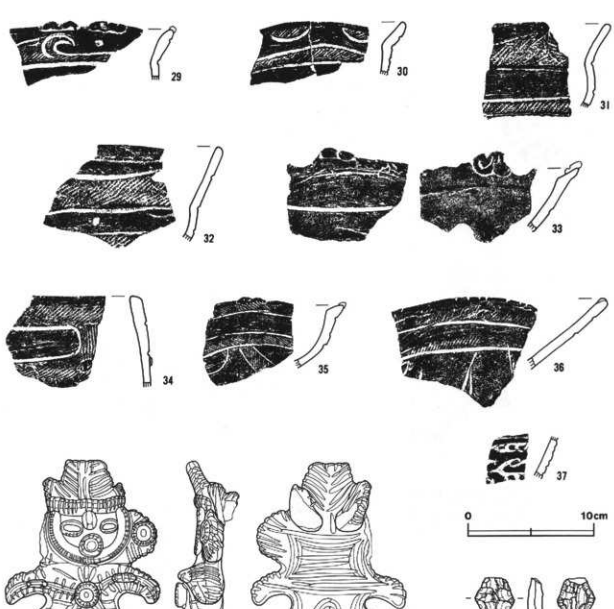
図版番号	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
第568図 38	土偶	12.1	5.2	3.2	(140)	80	ミミズク型土偶。頭部及び耳部の一部欠損。後頭部には角状の突起を有し、後頭部には欠損するものの頭ネクタイ状の突起を有することが考えられる。顔の輪郭はキザミを有する隆帯により施取りし、目・鼻・口は粘土文により描出している。腹部中央にはボタン状の貼付文を配し、背面は沈線による渦巻き文を施している。	DP7 PL96 後土下層

図版番号	器種	計測値 抉き(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第568図 39	石鏃	(2.8)	1.5	0.5	(1.84)	チャート	Q9 縄土



第566図　第463号住居跡出土遺物実測図（1）

第567図　第463号住居跡出土遺物実測図（２）



第568図　第463号住居跡出土遺物実測図（3）

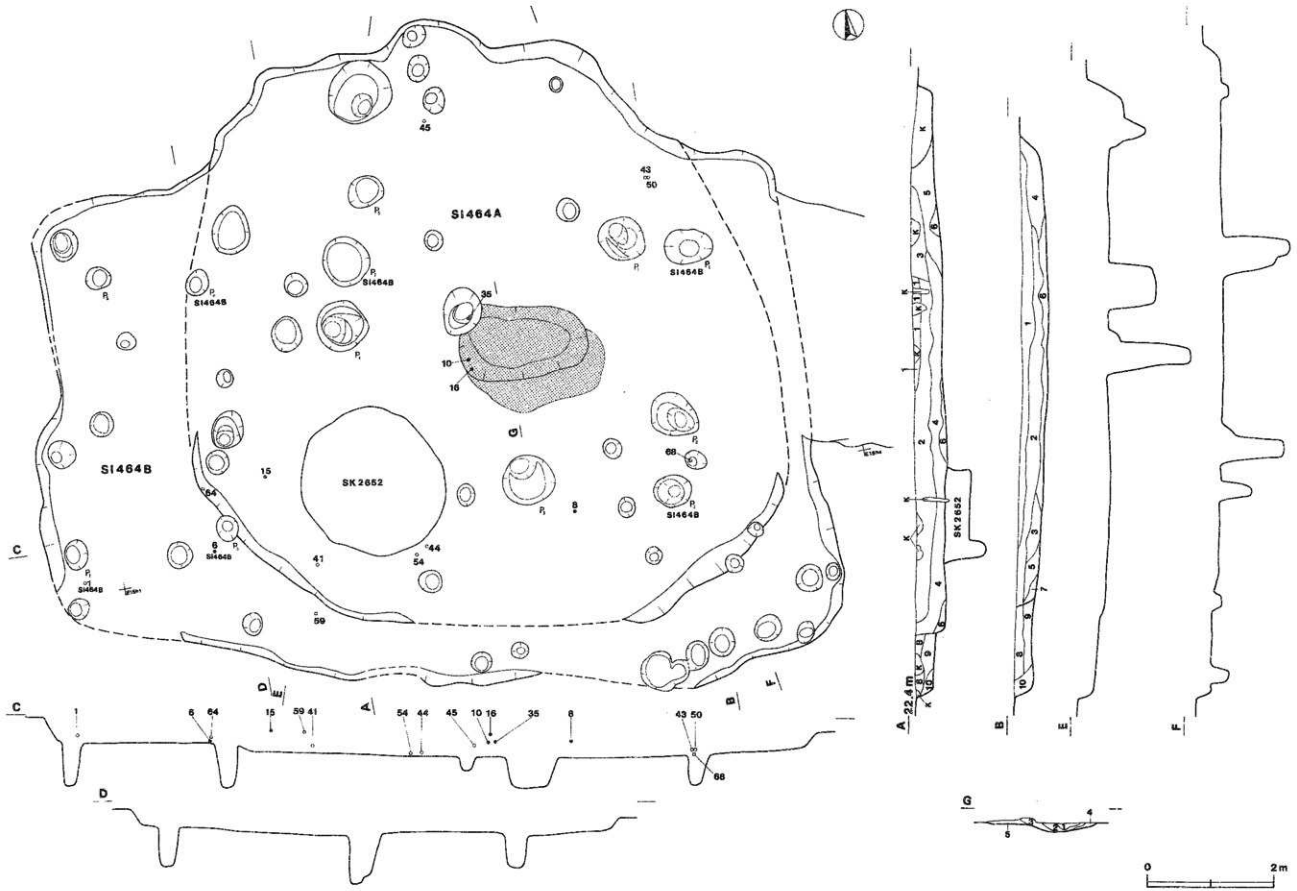
第464A号住居跡（第569～575図）

位置　調査区の北部，E15g1区。

確認状況　当初1軒の住居跡として調査していたが，2軒の重複であることが分かり，A号住居跡とB号住居跡に分けた。耕作による撹乱が著しく，残存状況は不良である。

重複関係　本跡は第464B号住居跡を掘り込み，第2652号土坑の上面を貼床にしていることから，本跡が新しい。

規模と平面形　長径10.80m，短径9.40mの楕円形である。



第569図　第464A・B号住居跡実測図

主軸方向　N－30°…W

壁　壁高は46cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，ロームを床としている。床のほぼ全面が踏み固められている。

炉　ほぼ中央に付設されている。長径2.06m，短径1.20mの楕円形で，深さ13cmの地床炉である。炉床面は火熱により赤変硬化し，赤変硬化はさらに炉の南側まで及んでいる。炉の覆土は5層に分層される。覆土に獣骨片を含んでいることから，覆土を採取し水洗選別を実施した。

炉土層説明

1	暗褐褐色	焼土粒子少量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量
3	赤 褐 色	焼土粒子中量
4	暗赤褐色	焼土粒子多量
5	赤 褐 色	焼土粒子多量，焼土ブロック中量

ピット　25か所。P_1～P_5は炉を中心に巡り，長径56～84cm，短径48～80cmの楕円形で，深さ103～134cmである。P_1～P_5は，規模と配列から5本柱の主柱穴と考えられる。P_6～P_{25}は，第464B号住居跡との重複部分にあり，配列や覆土による所属の識別はできなかった。

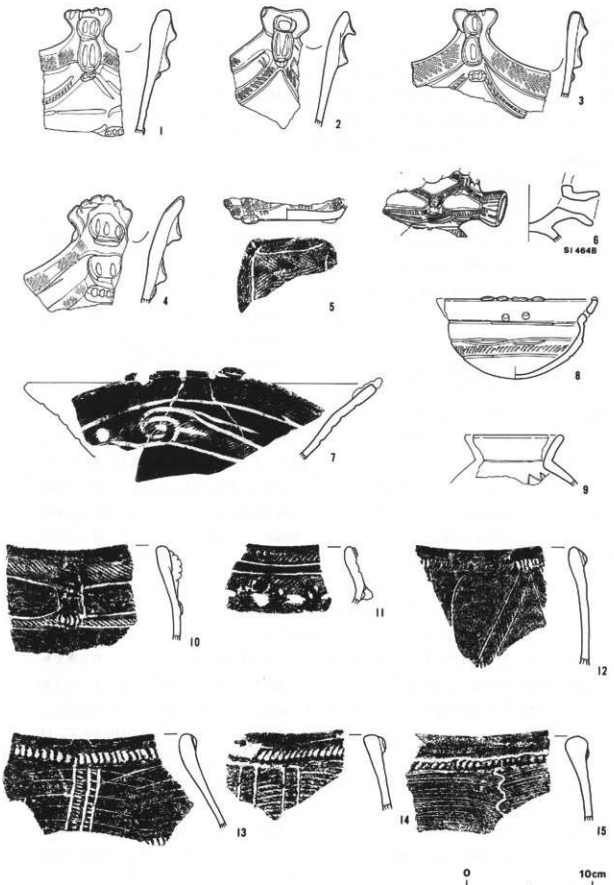
覆土　第1～7層が本跡の覆土で，自然堆積と考えられる。第3層と第7層は，焼土粒子を中量含む層である。

土層断説

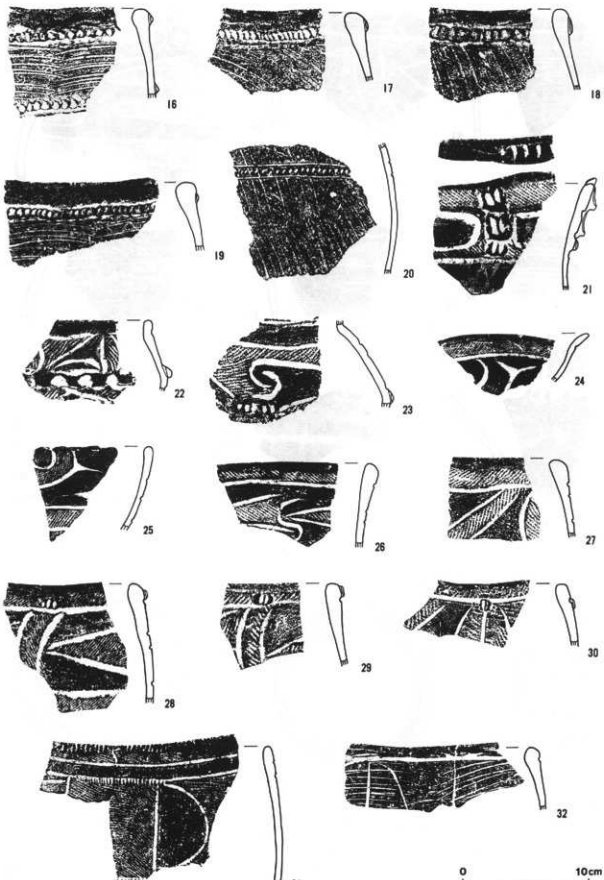
1	暗 褐 色	ローム粒子微量
2	黒 褐 色	ローム粒子少量，炭化物少量
3	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化物微量
4	褐　色	ローム粒子中量
5	暗 褐 色	ローム粒子微量，ロームブロック微量，焼土粒子少量，炭化物少量
6	暗 褐 色	ローム粒子微量，ロームブロック微量，炭化物少量
7	暗赤褐色	ローム粒子中量，焼土粒子中量

遺物　縄文土器片3970点，土製耳飾り14点，土器片円盤2点，石棒1点，磨石16点，獣骨片が出土している。1～5，7～58，60～68が本跡の遺物である。1～4は大波状口縁を呈する深鉢の口縁部片，5は角底を呈する鉢の底部片で，覆土から出土している。7は皿の口縁部片，8は口縁部の一部が欠損する鉢，9は壺の口縁部片で，覆土から出土している。10は深鉢の口縁部片で，キザミを有する縦長の貼付文とブタ鼻状の貼付文を施している。11は鉢の口縁部片で，口縁部の下部に凹凸のある隆帯を巡らしている。12～19は粗製深鉢の口縁部片で，20は粗製深鉢の胴部片である。12～19は口唇部直下にキザミあるいは押圧文を有する隆帯を巡らし，条線文を地文に沈線文により文様を描出している。20は条線文を地文とし，斜突文を有する平行沈線文を巡らしている。21は口唇部に貼付文を有する深鉢の口縁部片で，大形のブタ鼻状貼付文を施している。22は鉢の口縁部片で，口縁部の下部に凹凸のある隆帯を巡らしている。23は壺の胴部片で，入り組み弧線文を施している。24・25は浅鉢の口縁部片で，沈線による三叉文を施している。26は深鉢の口縁部片で，沈線により文様を描出している。27～34は粗製深鉢の口縁部片である。27～30は沈線により文様を描出し，単節縄文あるいは無節縄文を充填している。31は沈線により文様を描出し，細密集合沈線文を充填している。32～34は条線文を地文とし，沈線により文様を描出している。35は大波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，波頂部直下に大形のブタ鼻状貼付文を施し，沈線による入り組み弧線文を垂下させている。36・37は深鉢の口縁部片で，口唇部に瘤状の貼付文を施している。38は壺の口縁部から胴部の破片で，口唇部に瘤状の貼付文を施し，胴部には隆刻手法の羊歯状文を巡らしている。39は皿の口縁部片，40は広口壺の口縁部片で，口唇部に瘤状の貼付文を施している。41～54は土製耳飾りである。41は断面が1の字状，42～53は断面がくの字状を呈する。54は楕円形の窓が4か所開き，沈線により三叉文を施している。55は石製垂飾り，56は石錐，59は楔形石器，60は剝片である。57・58・61～67は磨石，68は石棒である。獣骨片は炉内から出土しており，イノシシ臼歯骨が同定されている。

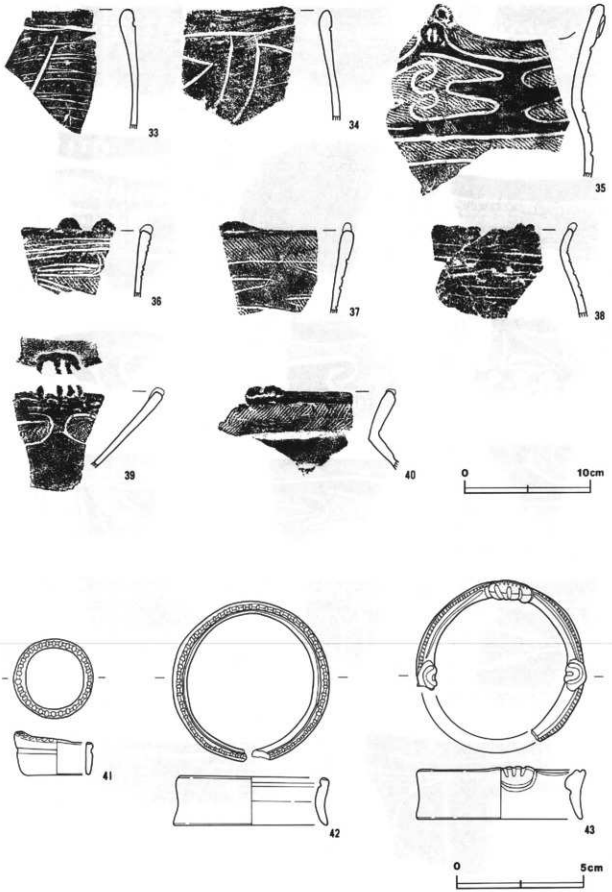
所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代晩期前葉（安行3a～3b式期）と考えられる。



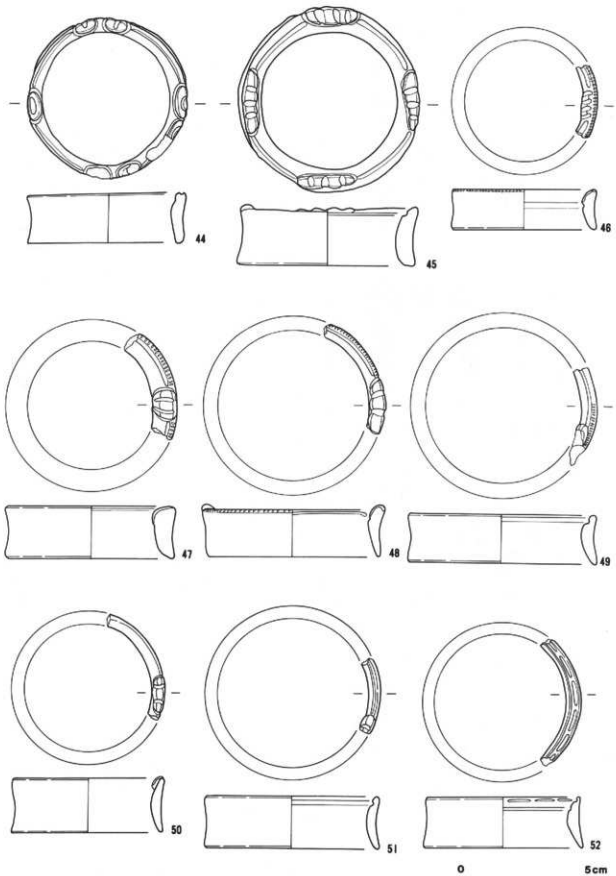
第570図　第464A・B号住居跡出土遺物実測図（1）



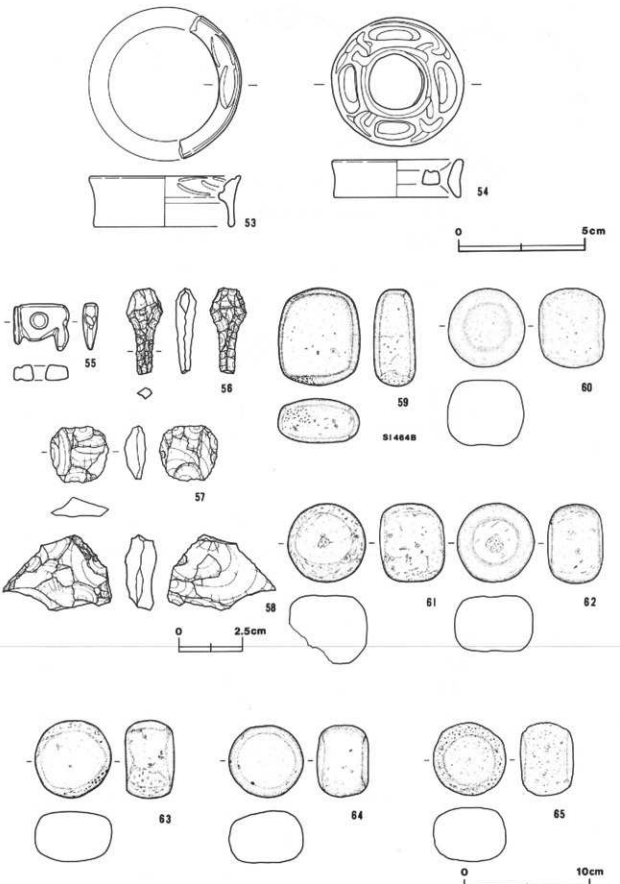
第571図　第464A・B号住居跡出土遺物実測図（2）



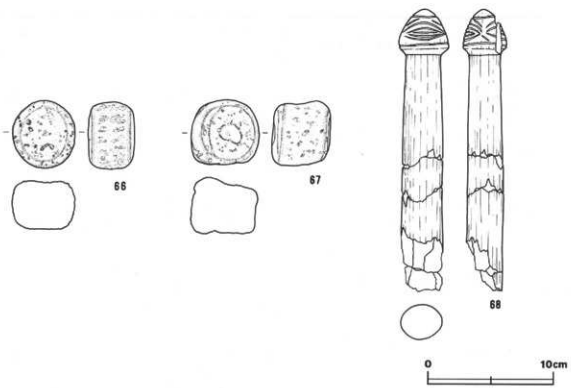
第572図　第464A・B号住居跡出土遺物実測図（3）



第573図　第464A・B号住居跡出土遺物実測図（4）



第574図　第464A・B号住居跡出土遺物実測図（5）



第575図　第464A・B号住居跡出土遺物実測図（6）

第464A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第570図 1	深鉢 縄文土器	B (10.2)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波頂部には魚尾状の突起を有し，その直下に大形のブタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 灰褐色 良好	P52 5% PL84 覆土 安行3a式
2	深鉢 縄文土器	B (9.5)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波頂部には魚尾状の突起を有し，その直下に大形のブタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 にぶい褐色 良好	P53 5% PL84 覆土 安行3a式
3	深鉢 縄文土器	B (6.6)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波頂部には魚尾状の突起を有し，その直下に大形のブタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 にぶい赤褐色 良好	P55 5% PL84 覆土 安行3a式
4	深鉢 縄文土器	B (8.6)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波頂部には魚尾状の突起を有し，その直下に大形のブタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 黒褐色 良好	P54 5% PL84 覆土 安行3a式
5	鉢 縄文土器	B (2.3) C 6.4	角底を呈する底部片。RLの羊歯縄文を地文とし，角底のコーナー部にはブタ鼻状の貼付文を施している。	砂粒 黒褐色 良好	P51 5% 覆土 安行3a式
7	浅鉢 縄文土器	A [26.8] B (6.0)	口縁部片。口縁部は外傾する。口縁部はLRの羊歯縄文を地文とし，沈線により文様を描出している。口唇部には貼付文を施している。補修孔がある。	砂粒 灰褐色 良好	P57 10% PL84 覆土 安行3a式
8	鉢 縄文土器	A [12.8] B (6.5)	口縁部の一部欠損。丸底。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。口縁部は無文で，口唇部に貼付文が施されている。直下には2孔一組の円孔がある。胴部の沈線間にはLの無節縄文を充填している。	砂粒 にぶい黄橙色 良好	P56 60% PL85 覆土 安行3b式
9	壺 縄文土器	A (7.6) B (4.0)	口縁部から胴部の破片。胴部は内彎し，口縁部は外傾する。口縁部は無文で，胴部には沈線により波状文を施している。	砂粒 橙色 良好	P58 5% 覆土 安行3b式

図版番号	器種	計測値 (cm) 径	器高	器厚	重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
第572図41	土製耳飾り	3.2	1.7	0.6	6.4	100	器高が一定で異なる。器厚が薄い。胴縁にキザミを施している。	DP12 PL99 覆土
42	土製耳飾り	6.3	1.9	0.4	(21.0)	90	くの字状の断面形を呈する。周縁キザミを施している。	DP13 覆土 PL98
43	土製耳飾り	6.7	2.0	0.8	(23.0)	70	くの字状の断面形を呈する。キザミを有する隆付文を4単位施している。周縁にキザミを施している。	DP14 覆土
第573図44	土製耳飾り	6.4	2.0	0.6	(24.0)	90	くの字状の断面形を呈する。キザミを有する隆付文を施している。	DP10 PL98 覆土
45	土製耳飾り	7.4	2.4	0.7	47.0	100	くの字状の断面形を呈する。キザミを有する隆付文を4単位施している。	DP9 PL98 覆土
46	土製耳飾り	[5.6]	1.6	0.5	(3.5)	15	くの字状の断面形を呈する。キザミを有する隆付文を施している。周縁にキザミを施している。	DP22 覆土
47	土製耳飾り	[6.4]	2.1	0.8	(9.1)	20	くの字状の断面形を呈する。キザミを有する隆付文を施している。周縁にキザミを施している。	DP19 覆土
48	土製耳飾り	[7.0]	2.1	0.6	(7.0)	25	くの字状の断面形を呈する。キザミを有する隆付文を施している。周縁にキザミを施している。	DP17 覆土
49	土製耳飾り	[7.4]	2.0	0.6	(4.8)	20	くの字状の断面形を呈する。キザミを有する隆付文を施している。周縁にキザミを施している。	DP20 覆土
50	土製耳飾り	[6.0]	2.2	0.6	(7.0)	25	くの字状の断面形を呈する。キザミを有する隆付文を施している。	DP16 覆土
51	土製耳飾り	[6.8]	2.1	0.5	(3.8)	15	くの字状の断面形を呈する。キザミを有する隆付文を施している。	DP21 覆土
52	土製耳飾り	[6.2]	2.0	0.6	(6.6)	25	くの字状の断面形を呈する。周縁に沈線文を施している。	DP15 覆土
第574図53	土製耳飾り	[6.0]	2.0	0.9	(9.7)	30	くの字状の断面形を呈する。周縁に沈線文を施している。	DP18 覆土
54	土製耳飾り	5.2	1.5	1.6	23.0	100	環状で中央に孔がある。楕円形の意匠が表出される。沈線による三叉文を施している。	DP11 PL99 覆土

図版番号	器種	計測値 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
第574図55	石製垂飾り	1.85	2.2	0.6	3.2	砂質片岩	Q19 覆土 PL106
56	石 錐	(3.4)	1.5	0.8	(3.0)	チャート	Q22 覆土
60	磨 石	6.3	6.2	5.2	300	安山岩	Q11 覆土 PL103
57	横形石器	2.2	2.3	0.8	4.1	チャート	Q21 覆土 PL106
58	剥 片	2.8	4.3	1.2	13	チャート	Q20 覆土
61	磨 石	6.3	6.3	5.3	(288)	安山岩	Q14 覆土 PL103
62	磨 石	6.2	6.3	4.5	264	安山岩	Q12 覆土 PL103
63	磨 石	6.2	6.1	3.9	219	安山岩	Q13 覆土 PL103
64	磨 石	5.7	5.9	4.1	206	安山岩	Q15 覆土 PL104
65	磨 石	5.8	5.8	4.2	167	安山岩	Q16 覆土 PL104
第575図66	磨 石	5.4	5.0	3.8	143	安山岩	Q17 覆土
67	磨 石	5.2	5.4	4.5	135	安山岩	Q18 覆土
68	石 棒	(22.5)	4.0	2.8	(364)	緑泥片岩	Q23 床面 PL106

第464B号住居跡（第569・570・574・576図）

位置　調査区の北部，E15g1区。

確認状況　耕作による撹乱が著しく，残存状況は不良である。

重複関係　本跡は第464A号住居跡に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸11.44m，短軸8.04mの隅丸長方形である。

長軸方向　N－83°－W

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，ロームを床としている。

炉　確認できなかった。本跡は第464Ａ号住居跡に掘り込まれているため，本跡が炉を有するかどうかは不明である。

ピット　26か所で，P_{26}～P_{51}が本跡のピットである。P_{26}～P_{32}は，長径40～78cm，短径36～72cmの楕円形で，深さ71～163cmである。P_{26}～P_{32}は規模と配列から８本柱の主柱穴と考えられるが，８か所目のピットは確認できなかった。P_{33}～P_{51}の性格は，不明である。

覆土　第８～10層が本跡の覆土で，自然堆積と考えられる。

土層解説

8	暗褐色　ローム粒子微量，炭化物微量	10	褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック微量
9	褐　色　ローム粒子中量		

遺物　第570図６の異形台付土器，第574図57の磨石，第576図１の土偶が本跡の遺物である。第576図１はほぼ完形の土偶で，覆土下層から出土している。

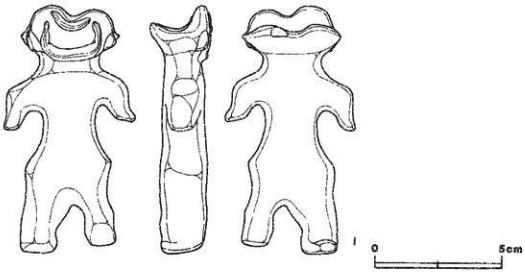
所見　本跡の時期は，重複関係と出土遺物から縄文時代晩期前葉（安行３ａ式期）と考えられる。

第464Ｂ号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第570図 6	異形台付土器 縄文土器	B（5.2）	胴部から台部の破片。胴部には一対の有孔突起を有する。キザミを有する隆帯により文様を描出し，隆帯の交点には胎付文を施している。	砂粒 黒褐色 良好	P50 30% PL85 覆土中層 安行２式

図版番号	器　種	計測値 長さ（cm）	計測値 幅（cm）	計測値 厚さ（cm）	計測値 重量（g）	石　質	備　考
第574図59	磨　石	7.8	6.5	3.5	288	安山岩	Q10 覆土 PL105

図版番号	器　種	計測値（cm） 長さ	計測値（cm） 幅	計測値（cm） 厚さ	重量（g）	現存率（%）	形状及び文様の特徴	備　考
第576図 1	土　偶	13.2	6.9	3.2	179	100	頭部隆はくぼみ，顔はつぶれたハート形を呈する。顔の輪郭は隆帯により半円形に接取りするが，目・鼻・口の表現はない。腹部・背面ともに無文である。	DP８ PL99 覆土下層



第576図　第464Ｂ号住居跡出土遺物実測図

第467号住居跡（第577図）

位置　調査区の中央部，F14 a o区。

確認状況　本跡は第１号墳墓と重複し，耕作による撹乱が多いため，残存状況は不良である。

重複関係　本跡は第2661号土坑を掘り込んでいることから，本跡が新しく，第１号墳墓の主体部と周溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。

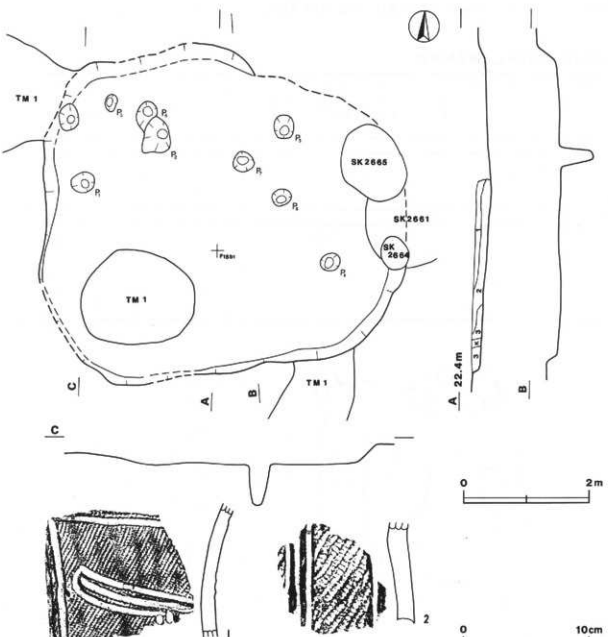
規模と平面形　長径5.74m，短径5.30mの楕円形である。

長軸方向　N－87°－W

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，ロームを床としている。

炉　炉は確認できなかった。本跡は炉をもたない住居跡の可能性がある。



第577図　第467号住居跡・出土遺物実測図

ピット　8か所。P_1～P_4は床面の北部を弧状に巡り，長径32～56cm，短径28～44cmの楕円形で，深さ42～88cmである。P_1～P_4は，規模と配列から主柱穴と考えられる。床面の南部にも弧状に巡る主柱穴の存在が考えられるが，撹乱により確認できなかった。P_5～P_8は，長径26～32cm，短径20～32cmの楕円形で，深さ20～98cmである。P_5～P_8の性格は，不明である。

覆土　3層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層断説
1　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック微量
3　褐　色　ローム粒子少量

遺物　縄文土器片69点が覆土から出土している。1は深鉢の胴部片で，RLの単節縄文を地文とし，沈線により文様を描出している。2は深鉢の胴部片で，RLの単節縄文を地文とし，沈線による3本一組の懸垂文を施している。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。

第471号住居跡（第578図）

位置　調査区の北部，F14h6区。

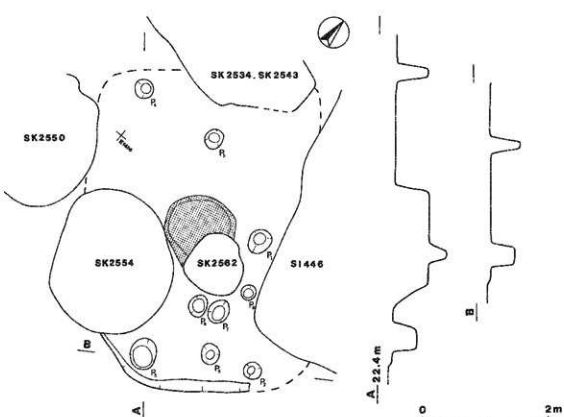
重複関係　本跡は第446号住居跡・第2554・2562号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸〔5.10〕m，短軸〔3.72〕mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向　N－37°－W

壁　南東壁だけが残存している。壁高は6cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，ロームを床としている。



第578図　第471号住居跡実測図

炉　ほぼ中央に付設され，第2562号土坑に掘り込まれている。径114cmのほぼ円形と推定され，深さ6cmの地床炉である。炉床面は火熱により赤変硬化している。

ピット　9か所。P_1～P_4は炉を中心に長方形状に巡り，長径28～48cm，短径26～42cmの楕円形で，深さ36～50cmである。P_1～P_4は規模と配列から6本柱の主柱穴と考えられるが，他の遺構の重複部分が多いため6本柱の内の2か所は確認できなかった。P_5～P_9は，長径24～40cm，短径22～32cmの楕円形で，深さ12～47cmである。P_5～P_9の性格は，不明である。

遺物　本跡に伴う遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は，出土遺物がないため明確でないが，住居跡の形態から縄文時代中期と考えられる。

第475号住居跡（第579～582図）

位置　調査区の南東部，F16f3区。

確認状況　壁や覆土は確認できなかったが，炉とピットを確認したことから住居跡と判断した。

規模と平面形　主体部は，長径〔5.46〕m，短径〔5.16〕mの楕円形と推定され，南西側に出入り口と考えられる対ピットを有する楕鏡形である。

主軸方向　N－22°－E

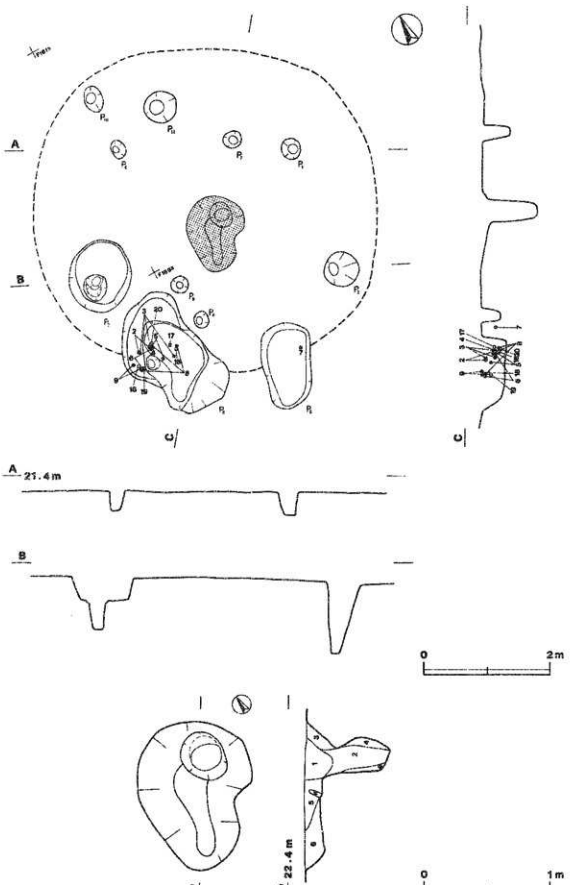
炉　長径118cm，短径92cmの楕円形で，深さ14cmの地床炉である。炉床面の北東部にはピットを有する。ピットは長径41cm，短径34cmの楕円形で，深さ68cmである。ピットの壁面及び炉床面は火熱により赤変硬化している。炉の覆土は6層に分層される。

土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化物微量，骨片微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化物微量，骨片微量，1層より色調が明るい
3　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化物微量，骨片微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土ブロック中量
5　黒　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック中量
6　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

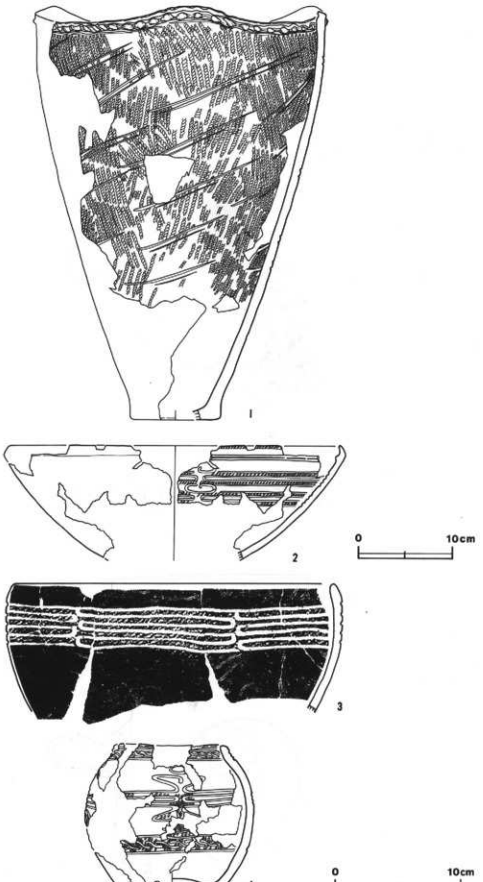
ピット　11か所。P_1～P_4は，炉を中心に台形状に巡る。P_1とP_2は，長径30cmと34cm，短径22cmと30cmの楕円形で，深さ32cmと36cmである。P_3とP_4は，長径56cmと114cm，短径52cmと98cmの楕円形で，深さはいずれも112cmである。P_1～P_4は規模と配列から4本柱の主柱穴と考えられる。P_5は，長径116cm，短径78cmの楕円形で，深さ46cmである。P_6は，長径202cm，短径120cmの楕円形で，二段に掘り込まれ，下段までの深さ34cmである。P_5・P_6は，出入り口と考えられる対ピットである。P_7～P_{11}は，長径24～54cm，短径22～50cmの楕円形で，深さ28～70cmである。P_7～P_{11}の性格は，不明である。

遺物　縄文土器片110点，石棒1点，敲石2点，磨石2点，浮子1点が，P_5・P_6の覆土から出土している。1は3単位の波状口縁を呈する深鉢の口縁部から底部の破片，2は浅鉢の口縁部から胴部の破片，3は鉢の口縁部片，4は口縁部と胴部の一部を欠損する壺，5は粗製深鉢の口縁部から胴部片で，P_6の覆土上層から出土している。6は平底の鉢，7・8は丸底の鉢で，6・8はP_6の覆土上層から，7はP_5の覆土から出土している。9は無文の深鉢である。10・11は鉢の口縁部片で，LRの単節縄文を地文としている。12～15は粗製深鉢の口縁部片で，12・13は押圧文を有する隆帯を口唇部直下に巡らしている。16は浮子，17は磨石である。18・19は敲石，20は石棒で，P_6の覆土下層から出土している。

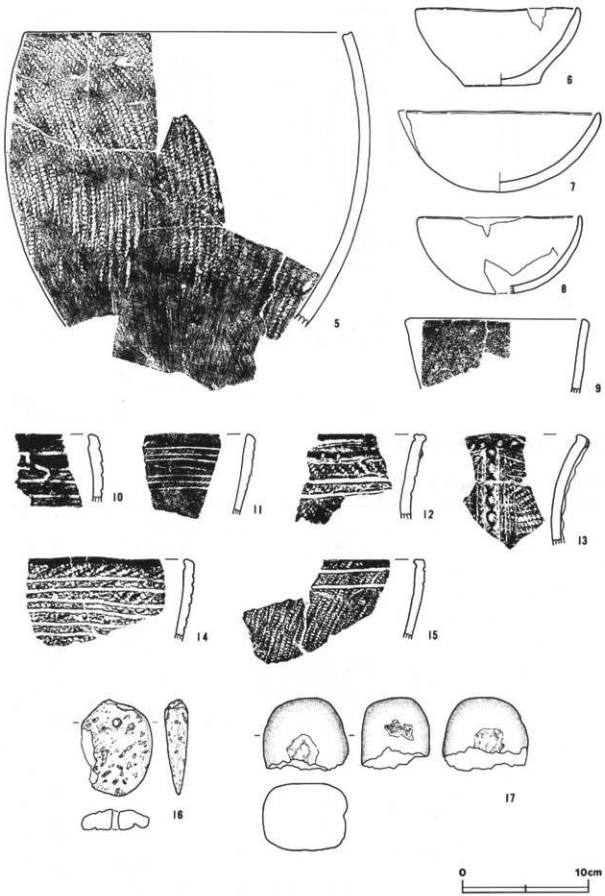
所見　本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期中葉（加曽利B1式期）と考えられる。



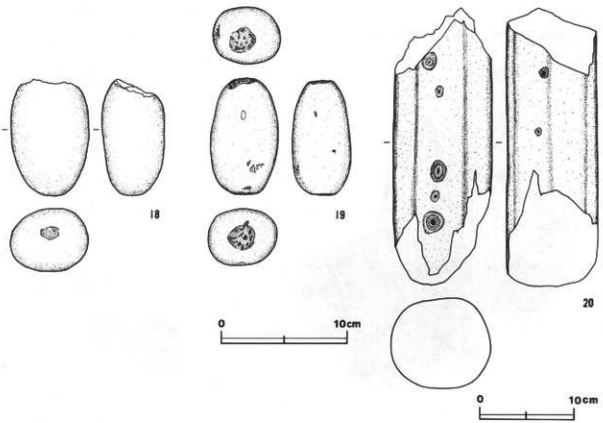
第579図　第475号住居跡実測図



第580図　第475号住居跡出土遺物実測図（1）



第581図　第475号住居跡出土遺物実測図（2）



第582図　第475号住居跡出土遺物実測図（3）

第475号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第580図 1	深鉢 縄文土器	A [29.0] B 44.0 C [9.4]	口縁部から底部まで一部欠損。外傾して立ち上がり，口縁部は3単位の波状口縁を呈し，わずかに内雪する。RLの単節縄文を地文とし，半截竹管による平行沈線文を施している。	砂粒 黒褐色 普通	P67 50% PL85 P1覆土上層 加曽利B1式
2	浅鉢 縄文土器	A [34.8] B (12.2)	口縁部から胴部の破片。外傾して立ち上がり，口縁部は短く内傾する。外面は無文で，内面は沈線文間にキザミを施している。区切り文は沈線によるのの字文である。	砂粒 にぶい褐色 普通	P66 15% PL85 P4覆土上層 加曽利B1式
3	鉢 縄文土器	A (25.4) B (10.2)	口縁部片。口縁部はわずかに内雪する。Lの無節縄文を地文とし，沈線文を巡らしている。	砂粒 明赤褐色 良好	P64 20% PL85 P4覆土上層 加曽利B1式
4	壺 縄文土器	A [8.5] B 11.6 C 8.2	胴部一部欠損。胴部は内雪して立ち上がり，口縁部は短く内傾する。LRの単節縄文を地文とし，口縁部と胴部には沈線間に逆S字状の沈線文を連続して施している。胴部にはのの字文を4単位施している。	砂粒 にぶい橙色 普通	P65 80% PL85 P1覆土上層 加曽利B1式
第581図 5	鉢 縄文土器	A (26.0) B (24.6)	口縁部から胴部の破片。口縁部は内雪する。RLの単節縄文を施している。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P68 30% P1覆土上層 加曽利B1式
6	鉢 縄文土器	A 13.0 B 6.3 C 6.0	口縁部一部欠損。平底で，口縁部はわずかに内雪する。無文。	砂粒 にぶい褐色 普通	P69 95% PL85 P4覆土上層 加曽利B1式
7	鉢 縄文土器	A 16.0 B 6.6	口縁部一部欠損。丸底で，口縁部はわずかに内雪する。無文。	砂粒 黒褐色 普通	P70 70% PL85 P1覆土 加曽利B1式
8	鉢 縄文土器	A [13.4] B 6.4	口縁部から底部の破片。丸底で，口縁部はわずかに内雪する。無文。	砂粒 明赤褐色 普通	P71 50% PL84 P4覆土上層 加曽利B1式
9	深鉢 縄文土器	A [13.4] B (6.0)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。無文。	砂粒 黒褐色 普通	P72 50% P4覆土上層 加曽利B1式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第581図16	浮子	7.6	5.6	1.9	(8.3)	軽石	Q28 覆土 PL106
17	礫石	(5.8)	6.7	5.5	307	安山岩	Q27 覆土
第582図18	敲石	(9.2)	6.2	5.0	418	安山岩	Q25 覆土 PL103
19	敲石	9.2	5.5	4.9	338	安山岩	Q26 覆土 PL103
20	石棒	(29.3)	10.6	9.6	(5450)	緑泥片岩	Q24 覆土

第476号住居跡（第583図）

位置　調査区の北東部，F15b0区。

確認状況　本跡の北東部は調査区域外となり，南西部のみを確認した。

重複関係　本跡は第2753号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。

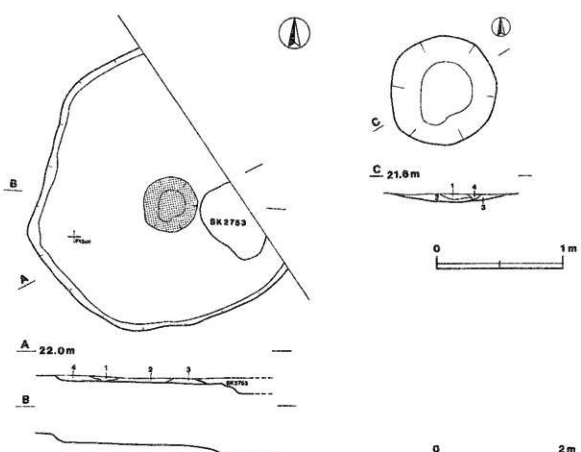
規模と平面形　径〔4.40〕mのほぼ円形と推定される。

壁　壁高は8cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，ロームを床としている。

炉　ほぼ中央に付設されている。径88cmの円形で，深さ6cmの地床炉である。炉の覆土は3層に分層される。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子少量
2　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　灰褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量



第583図　第476号住居跡実測図

覆土　4層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　　ローム粒子少量，炭化物微量
2　暗褐色　　ローム粒子少量
3　暗褐色　　ローム粒子微量，焼土粒子中量，炭化物微量
4　褐　色　　ローム粒子中量

遺物　本跡に伴う遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は，遺構の形態と覆土が縄文時代中期のものと類似していることから縄文時代中期と考えられる。

第477号住居跡（第584・585図）

位置　調査区の中央部，F14a4区。

確認状況　壁や覆土は残存していないが，炉とピットを確認したことから住居跡と判断した。

規模と平面形　長径〔7.06〕m，短径〔5.60〕mの楕円形と推定される。

主軸方向　N－36°－W

炉　ほぼ中央に付設されている。長径92cm，短径58cmの不整楕円形で，深鉢の底部から胴部片を埋設した土器埋設炉である。埋設土器片内の覆土は1層である。

炉土層解説
1　暗赤褐色　　焼土粒子中量

ピット　11が所。P_1～P_{10}は炉を中心に楕円形に巡り，径22～54cmのほぼ円形で，深さ17～76cmである。P_1～P_{10}は壁柱穴と考えられる。P_{11}は，長径36cm，短径32cmの楕円形で，深さ60cmである。P_{11}の性格は，不明である。

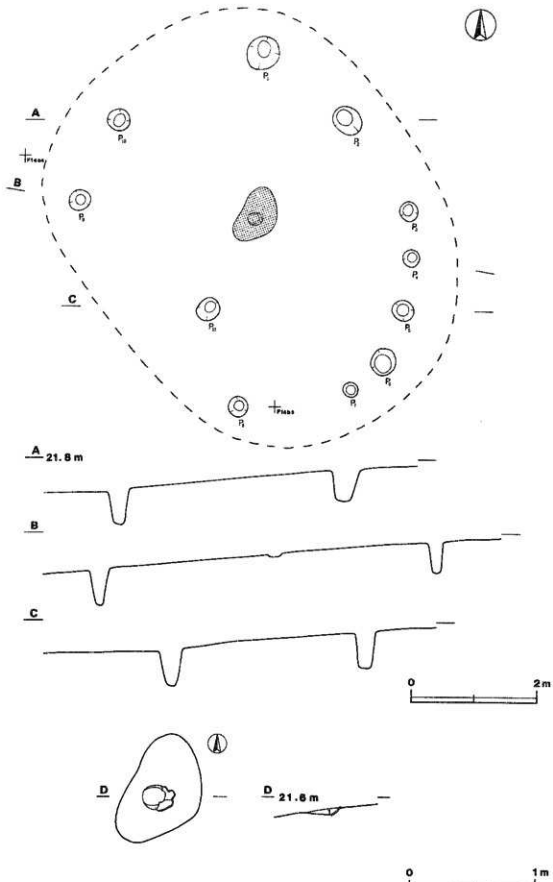
遺物　縄文土器片10点，石核1点が出土している。1は深鉢の底部から胴部片で，炉埋設土器である。2は石核で，本跡の遺構確認面から出土しているが，本跡に伴うかどうかは不明である。

所見　本跡の時期は，炉の埋設土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ～Ⅱ式期）と考えられる。

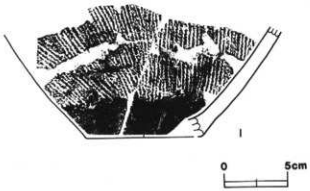
第477号住居跡出土遺物観察表

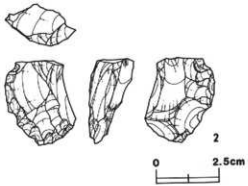
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第585図 1	深　鉢 縄文土器	B〔 8.3〕 C〔 9.4〕	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。撚糸文を施している。	砂粒 橙色 普通	P73 10% 覆土 加曽利E式

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第585図1	石　核	3.4	2.8	1.8	14	チャート	Q29　覆土



第584図　第477号住居跡実測図





第585図　第477号住居跡出土遺物実測図

表17　前田村遺跡Ⅰ区縄文時代住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設					炉	覆土	出土遺物	時期	備考（重複関係）
							壁溝	主柱穴	ピット	出入口	貯蔵穴					
441	F14₁₀	N-87°-W	隅丸長方形	[4.96] × 3.96	12	平坦	—	—	2	—	—	—	自然	深鉢	中峠	SK2548より古　SK2542と重複
446	F14₁₁	N-21°-W	隅丸長方形	[5.50] × 4.42	34	平坦	一部	6	6	—	—	—	自然	深鉢	中峠	SK2603より古　SK471-2548と重複
447	F14₁₁	N-50°-W	楕円形	5.54 × 4.62	8	平坦	—	4	4	—	—	1	自然	深鉢	加曽利E	SK2559-2561より新　1号集石より古
448	E14₁₁	N-2°-E	隅丸長方形	5.00 × [3.86]	42	平坦	—	(5)	—	—	—	1	自然	深鉢	加曽利E Ⅰ	SK2565・2571より古
450	E14₁₁	N-2°-E	楕円形	[5.26] × 4.80	48	平坦	—	(4)	2	—	—	1	自然	深鉢	中峠	SK2573-2600より新
451	E14₁₁	N-8°-W	楕円形	3.76 × (2.98)	16	平坦	—	(2)	—	—	—	—	自然	深鉢	中峠	SK2592・2593より古　4号炉跡と重複
453	F14₁₁	N-76°-W	〔円形〕	[3.82 × 3.80]	—	—	—	6	—	—	—	1	—	深鉢	加曽利E Ⅱ	
454	F14₁₁	[N-6°-E]	〔円形〕	径[3.62]	40	平坦	—	—	—	—	—	—	自然	深鉢	加曽利E Ⅲ	西部は調査区域外
456	E14₁₁	N-25°-E	〔楕円形〕	[4.12] × 4.62	8	平坦	—	(1)	—	—	—	—	自然	深鉢	中峠	SK2589・2590・2629より古
457	F14₁₁	[N-78°-E]	〔楕円形〕	[3.64] × [4.34]	8	平坦	—	—	1	—	—	1	自然	深鉢	堀之内Ⅰ	
458	E14₁₁	N-2°-E	〔楕円形〕	[5.24×4.76]	—	平坦	—	4	6	—	—	1	—	深鉢	堀之内Ⅰ	
463	E15₁₁	N-31°-W	隅丸長方形	11.10 × 7.54	14	平坦	—	4	20	—	—	—	—	深鉢・台付鉢・土偶	安行2	
464A	E15₁₁	N-30°-W	楕円形	10.80 × 9.40	46	平坦	—	5	(20)	—	—	1	自然	深鉢・土製玉類り・垂飾り	安行3 a・b	SI464B・SK2652より新　SK2653と重複
464B	E15₁₁	N-43°-W	隅丸長方形	11.44 × 8.04	30	平坦	—	(7)	(19)	—	—	—	自然	深鉢・黒形土器・土偶	安行3 a	SI464Aより古
467	F14₁₁	N-87°-W	楕円形	5.74 × 5.30	30	平坦	—	(4)	4	—	—	—	自然	深鉢	加曽利E Ⅰ	SK2661・1号堆墓より古
471	F14₁₁	N-27°-W	〔隅丸長方形〕	[5.10 × 3.72]	6	平坦	—	(4)	5	—	—	1	自然	深鉢	中峠	SK2582より古　SI446と重複
475	F14₁₁	N-22°-E	〔楕円形〕	[5.46 × 5.16]	—	平坦	—	4	5	1	—	1	自然	深鉢・浅鉢・鉢・石棒	加曽利E Ⅰ	出入口の対ピットを有する
476	F15₁₁	-	〔円形〕	径[4.40]	8	平坦	—	—	—	—	—	1	自然		中峠	SK2753より古
477	F14₁₁	N-36°-W	〔楕円形〕	[7.08 × 5.60]	—	平坦	—	—	11	—	—	1	—	深鉢	加曽利E Ⅰ-Ⅱ	

茨城県教育財団文化財調査報告第146集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4

前田村遺跡　G・H・I区
（中　巻）

平成11(1999)年3月16日　印刷
平成11(1999)年3月19日　発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310-0911　水戸市見和1丁目356番地の2
TEL　029-225-6587

印刷　野沢印刷株式会社
TEL　029-248-0117

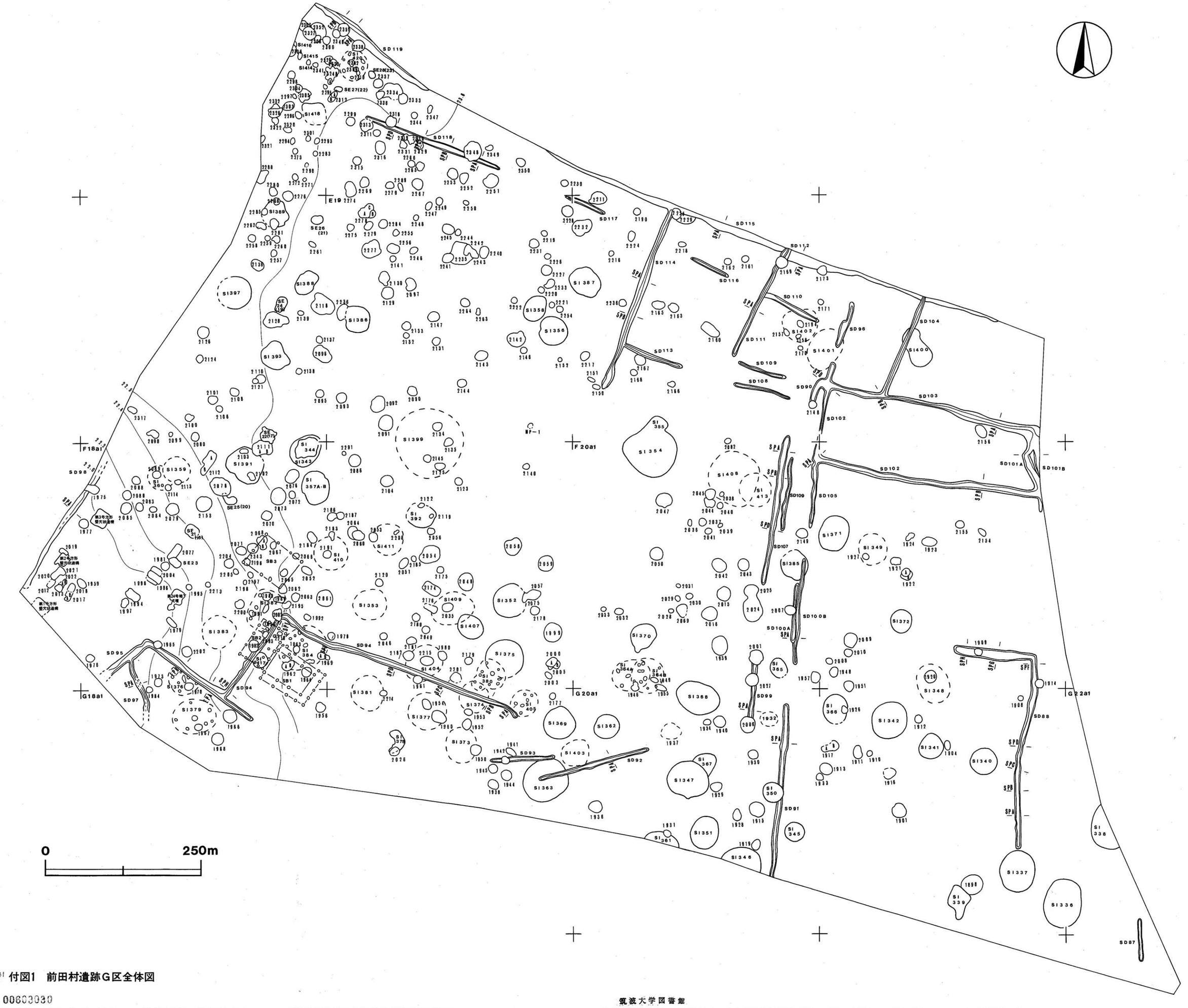
茨城県教育財団文化財調査報告第146集

付　　図

前田村遺跡G区全体図

前田村遺跡H区全体図

前田村遺跡Ⅰ区全体図

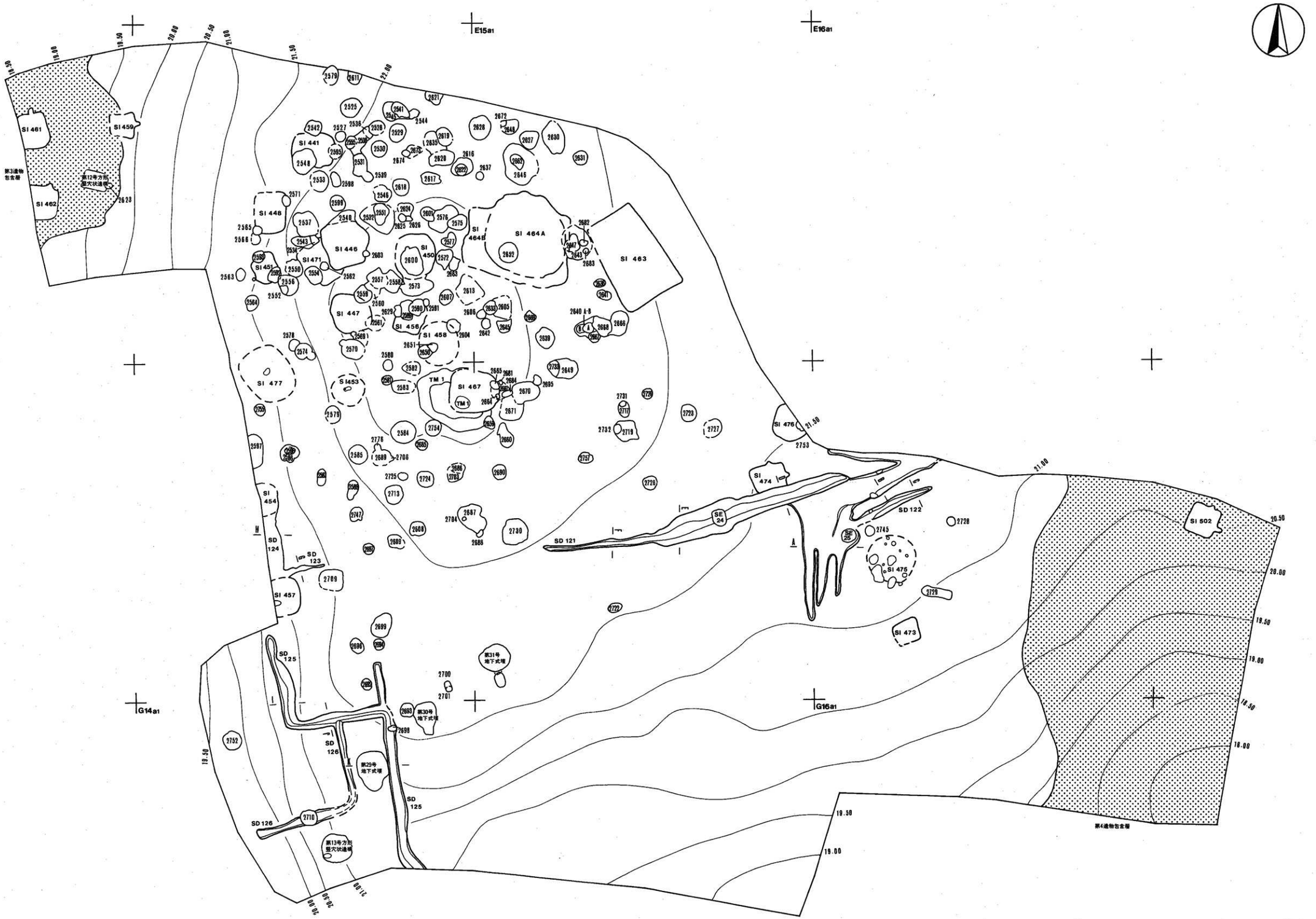


付図1　前田村遺跡G区全体図

00603030
筑波大学図書館

付図2　前田村遺跡H区全体図

00603080
筑波大学図書館



付図3　前田村遺跡Ⅰ区全体図

00603030
筑波大学図書館